

# KN1000

## 日本語版ユーザーマニュアル



### 本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、KN1000 取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く変更されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2013 年 1 月 15 日

ファームウェア Ver. 1.0.066 版

## ユーザーの皆様へ

---

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く改変されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

# ATEN ジャパン製品保証規定

---

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

## 【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

### (1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

### (2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

### (3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

### 【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

|               |           |             |
|---------------|-----------|-------------|
| ①通常製品         | 製品納品日～30日 | 初期不良、新品交換※1 |
|               | 31日～3年間   | 無償修理        |
|               | 3年以上      | 有償修理※2      |
| ②液晶ディスプレイ搭載製品 | 製品納品日～30日 | 初期不良、新品交換※1 |
|               | 31日～2年間   | 無償修理        |
|               | 2年以上      | 有償修理※2      |

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL (生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。

### 【補足】

- ・本規定は ATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- ・ケーブル類は初期不良対応に準じます。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

## 【免責事項】

1. 弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を、必ずしも満たすものではございません。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

## 製品についてのお問い合わせ

---

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

|            |  |
|------------|--|
| 購入前のお問い合わせ | ATEN ジャパン株式会社 営業部<br>TEL:03-5615-5810<br>MAIL:sales@atenjapan.jp     |
| 購入後のお問い合わせ | ATEN ジャパン株式会社 技術部<br>TEL :03-5615-5811<br>MAIL :support@atenjapan.jp |

# 目次

---

|                               |           |
|-------------------------------|-----------|
| ユーザーの皆様へ .....                | i         |
| ATEN ジャパン製品保証規定 .....         | ii        |
| 製品についてのお問い合わせ .....           | v         |
| FCC.....                      | 7         |
| RoHS.....                     | 7         |
| SJ/T 11364-2006 .....         | 7         |
| 安全にお使い頂くために.....              | 8         |
| 全般 .....                      | 8         |
| ラックマウント .....                 | 10        |
| 同梱品.....                      | 11        |
| 本マニュアルについて.....               | 12        |
| マニュアル表記について.....              | 13        |
| 用語 .....                      | 14        |
| <b>第1章 はじめに.....</b>          | <b>15</b> |
| 概要.....                       | 15        |
| 特長とメリット .....                 | 18        |
| システム要件.....                   | 22        |
| リモートユーザー側で使用するコンピューター.....    | 22        |
| サーバー .....                    | 22        |
| ケーブル .....                    | 23        |
| ビデオ.....                      | 24        |
| OS.....                       | 24        |
| ブラウザ.....                     | 25        |
| <b>製品各部名称 .....</b>           | <b>26</b> |
| フロントパネル .....                 | 26        |
| リアパネル.....                    | 27        |
| KVM ケーブル.....                 | 28        |
| コンソールケーブル .....               | 29        |
| <b>第2章 ハードウェアセットアップ .....</b> | <b>30</b> |
| マウント方法.....                   | 30        |
| ラックマウント .....                 | 30        |

|                               |           |
|-------------------------------|-----------|
| DIN レールへのマウント.....            | 31        |
| セットアップ.....                   | 32        |
| <b>第3章 Web メニューの基本操作.....</b> | <b>35</b> |
| ログイン.....                     | 35        |
| Web メニューの項目.....              | 38        |
| ユーティリティアイコン.....              | 38        |
| 管理メニューアイコン.....               | 39        |
| リモートコンソールプレビュー.....           | 39        |
| 終了マクロ.....                    | 40        |
| Telnet/SSH ビューワー.....         | 40        |
| <b>電源管理.....</b>              | <b>41</b> |
| 電源管理.....                     | 42        |
| スケジュール.....                   | 44        |
| オート ping.....                 | 46        |
| PON ポート設定.....                | 47        |
| <b>ユーザー設定.....</b>            | <b>49</b> |
| <b>第4章 管理メニュー.....</b>        | <b>51</b> |
| はじめに.....                     | 51        |
| <b>デバイス情報.....</b>            | <b>52</b> |
| <b>ネットワーク.....</b>            | <b>53</b> |
| サービスポート.....                  | 53        |
| IP アドレス.....                  | 54        |
| DNS サーバー.....                 | 55        |
| ネットワーク転送速度.....               | 55        |
| 変更内容の確定.....                  | 55        |
| <b>ANMS.....</b>              | <b>56</b> |
| IP インストーラー.....               | 56        |
| SMTP 設定.....                  | 57        |
| ログサーバー.....                   | 58        |
| SNMP サーバー.....                | 58        |
| Syslog サーバー.....              | 59        |
| DDNS.....                     | 59        |
| ローカル認証の無効化.....               | 60        |
| RADIUS 設定.....                | 60        |
| パラメーター入力例.....                | 61        |
| CC 統合管理.....                  | 62        |

|                                      |           |
|--------------------------------------|-----------|
| LDAP 設定 .....                        | 62        |
| <b>セキュリティ.....</b>                   | <b>65</b> |
| ステーションフィルター .....                    | 65        |
| ログイン文字列 .....                        | 67        |
| アカウントポリシー .....                      | 68        |
| ログイン失敗回数.....                        | 69        |
| 暗号化.....                             | 70        |
| バーチャルメディア .....                      | 71        |
| プライベート認証.....                        | 72        |
| その他 .....                            | 73        |
| <b>ユーザー管理.....</b>                   | <b>74</b> |
| <b>コンソール管理.....</b>                  | <b>77</b> |
| シリアルコンソール.....                       | 77        |
| OOBC.....                            | 80        |
| <b>セッション .....</b>                   | <b>84</b> |
| <b>カスタマイズ .....</b>                  | <b>85</b> |
| <b>日付/時刻.....</b>                    | <b>88</b> |
| タイムゾーン .....                         | 88        |
| 日付 .....                             | 89        |
| ネットワークタイム .....                      | 89        |
| <b>メンテナンス.....</b>                   | <b>90</b> |
| F/W アップグレード .....                    | 90        |
| バックアップ .....                         | 92        |
| リストア .....                           | 93        |
| <b>第5章 Windows クライアントビューワー.....</b>  | <b>94</b> |
| 起動方法.....                            | 94        |
| ローカルデスクトップの操作方法.....                 | 95        |
| <b>Windows クライアントコントロールパネル .....</b> | <b>96</b> |
| コントロールパネルの機能.....                    | 98        |
| マクロ.....                             | 101       |
| ビデオ設定 .....                          | 111       |
| メッセージボード.....                        | 115       |
| バーチャルメディア .....                      | 118       |
| ズーム.....                             | 123       |
| オンスクリーンキーボード .....                   | 124       |
| マウスポインター .....                       | 126       |

|                                       |            |
|---------------------------------------|------------|
| マウス同期モード .....                        | 126        |
| コントロールパネルのカスタマイズ.....                 | 128        |
| <b>第 6 章 Java クライアントビューワー .....</b>   | <b>130</b> |
| はじめに.....                             | 130        |
| ローカルデスクトップの操作方法.....                  | 131        |
| <b>Java クライアントコントロールパネル .....</b>     | <b>132</b> |
| コントロールパネルの機能.....                     | 134        |
| マクロ.....                              | 137        |
| ビデオ設定 .....                           | 139        |
| メッセージボード.....                         | 140        |
| バーチャルメディア .....                       | 143        |
| ズーム.....                              | 144        |
| オンスクリーンキーボード .....                    | 144        |
| マウスポインター .....                        | 145        |
| マウス同期モード .....                        | 145        |
| コントロールパネルのカスタマイズ.....                 | 146        |
| <b>第 7 章 ログファイル .....</b>             | <b>147</b> |
| ログファイル画面 .....                        | 147        |
| <b>第 8 章 ログサーバー.....</b>              | <b>148</b> |
| セットアップ .....                          | 148        |
| ログサーバーの起動 .....                       | 149        |
| メニューバー .....                          | 150        |
| Configure.....                        | 150        |
| Events.....                           | 151        |
| Options .....                         | 153        |
| Help .....                            | 153        |
| <b>ログサーバーメイン画面 .....</b>              | <b>154</b> |
| 概要 .....                              | 154        |
| リストパネル.....                           | 155        |
| イベントリストパネル .....                      | 155        |
| <b>第 9 章 アプリケーションの操作.....</b>         | <b>156</b> |
| はじめに.....                             | 156        |
| <b>アプリケーション版 Windows クライアント .....</b> | <b>156</b> |
| セットアップ .....                          | 156        |
| Windows クライアントの起動.....                | 157        |
| Windows クライアント接続画面 .....              | 158        |

|  |            |
|--|------------|
| ログイン .....                                 | 159        |
| <b>アドミニストレーターユーティリティ.....</b>              | <b>161</b> |
| デバイス情報.....                                | 161        |
| ネットワーク .....                               | 162        |
| ANMS .....                                 | 163        |
| セキュリティ .....                               | 164        |
| ユーザー管理.....                                | 165        |
| コンソール管理.....                               | 166        |
| カスタマイズ .....                               | 168        |
| 日付/時刻.....                                 | 169        |
| メンテナンス .....                               | 170        |
| <b>アプリケーション版 Java クライアント .....</b>         | <b>171</b> |
| Java クライアントの起動.....                        | 171        |
| Java クライアント接続画面 .....                      | 172        |
| ログイン .....                                 | 172        |
| <b>付録.....</b>                             | <b>174</b> |
| <b>IP アドレスの設定 .....</b>                    | <b>174</b> |
| IP インストーラーを使用して設定する場合 .....                | 174        |
| ブラウザを使用した設定方法.....                         | 175        |
| アプリケーション版 Windows クライアントを使用した設定方法.....     | 176        |
| <b>IPv6 .....</b>                          | <b>177</b> |
| リンクローカルアドレス .....                          | 177        |
| ステートレスオートコンフィグレーション .....                  | 178        |
| <b>ポートの転送.....</b>                         | <b>179</b> |
| <b>キーボードエミュレーション .....</b>                 | <b>180</b> |
| <b>PPP モデム操作.....</b>                      | <b>182</b> |
| 基本セットアップ .....                             | 182        |
| セットアップ例 (Windows XP のコンピューターを使用した場合) ..... | 183        |
| <b>信頼された証明書 .....</b>                      | <b>184</b> |
| 概要 .....                                   | 184        |
| 証明書のインストール.....                            | 185        |
| 証明書のインストール完了 .....                         | 186        |
| <b>自己署名 (プライベート) 証明書 .....</b>             | <b>188</b> |
| 例.....                                     | 188        |
| ファイルのインポート .....                           | 188        |
| <b>トラブルシューティング .....</b>                   | <b>189</b> |

|   |            |
|---|------------|
| 一般的な操作.....                                 | 189        |
| Windows .....                               | 191        |
| Java .....                                  | 193        |
| Sun.....                                    | 194        |
| Mac .....                                   | 195        |
| ログサーバー.....                                 | 195        |
| <b>その他のマウス同期方法.....</b>                     | <b>196</b> |
| Windows .....                               | 196        |
| Sun/Linux.....                              | 198        |
| <b>対応 KVM スイッチ .....</b>                    | <b>199</b> |
| <b>対応バーチャルメディア .....</b>                    | <b>200</b> |
| Windows クライアント(Web ブラウザ版、アプリケーション版共通) ..... | 200        |
| Java クライアント(Web ブラウザ版、アプリケーション版共通) .....    | 200        |
| <b>アドミニストレーターでログインできない場合.....</b>           | <b>201</b> |
| <b>製品仕様.....</b>                            | <b>202</b> |
| <b>SPHD コネクターについて .....</b>                 | <b>205</b> |

## FCC

本製品は FCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。

この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

## RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

## SJ/T 11364-2006

The following contains information that relates to China.

| 部件名称 | 有毒有害物质或元素 |   |   |     |      |       |
|------|-----------|---|---|-----|------|-------|
|      | 铅         | 汞 | 镉 | 六价铬 | 多溴联苯 | 多溴二苯醚 |
| 电器部件 | ●         | ○ | ○ | ○   | ○    | ○     |
| 机构部件 | ○         | ○ | ○ | ○   | ○    | ○     |

- : 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。
- : 表示符合欧盟的豁免条款，但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。
- ×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。



## 安全にお使い頂くために

---

### 全般

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために3ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者にお問い合わせで適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。電源コンセントにつながれている製品全ての合計アンペア数は15アンペアを超えないようにしてください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。

- ◆ ホットプラグ対応パワーサプライの取り付け、または取り外しする場合は、以下の注意事項に従ってください。
  - 電源ケーブルを接続する前に、パワーサプライのセットアップを行ってください。
  - パワーサプライを取り外す前に電源ケーブルを抜いてください。
  - お使いのシステムが複数のパワーサプライをお使いである場合、パワーサプライからすべての電源ケーブルを抜いてお使いのシステムから切り離してください。
- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
  - 電源コードが破損した。
  - 装置の上に液体をこぼした。
  - 装置が雨や水にぬれた。
  - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
  - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
  - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 壁コンセントの近くに装置をセットアップし、簡単に利用できるようにしてください。
- ◆ インレット用電源コードオプション: 取り外し可能、最長 2.0m、18AWG、フレキシブルコード (125V、10A、3C、NEMA 5-15P) または、0.75mm<sup>2</sup>、3G、フレキシブルコード (例: H05VV-F、250V、10A)

## ラックマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業する前に、シングルラックにフロントとサイドのスタビライザーを取り付けるか、結合された複数のラックにフロントスタビライザーを取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

## 同梱品

---

KN1000 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

|                        |    |
|------------------------|----|
| ◆ KN1000               | ×1 |
| ◆ KVM ケーブル             | ×2 |
| ◆ コンソールケーブル            | ×1 |
| ◆ USB2.0 バーチャルメディアケーブル | ×1 |
| ◆ 電源アダプター              | ×1 |
| ◆ 電源アウトレットコード          | ×1 |
| ◆ ラックマウントキット           | ×1 |
| ◆ ソフトウェア収録 CD          | ×1 |
| ◆ 多言語版クイックスタートガイド      | ×1 |

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

## 本マニュアルについて

---

このユーザーマニュアルは、KN1000 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

**第1章 はじめに:**KN1000 を紹介します。特長および機能の概要および製品各部名称について説明します。

**第2章 ハードウェアセットアップ:**ハードウェアセットアップの手順から基本的な操作手順について説明します。

**第3章 Web メニューの基本操作:**ブラウザを使用してKN1000 にログインする方法について説明し、トップページに表示されるアイコンやボタンの機能について説明します。

**第4章 管理メニュー:**KN1000 の作業環境を構築するための管理機能やローカルコンソールからの操作方法について説明します。

**第5章 Windows クライアントビューワー:**Windows クライアントソフトウェアを使用した KN1000 へのアクセス方法や OSD によるコンピューターの操作方法について説明します。

**第6章 Javaクライアントビューワー:**Java アプレットソフトウェアを使用したKN1000 へのアクセス方法や OSD によるコンピューターの操作方法について説明します

**第7章 ログファイル:**KN1000 で発生するイベントを管理するログファイルユーティリティについて説明します。

**第8章 ログサーバー:**ログサーバーのインストール方法及び設定方法について説明します。

**第9章 アプリケーションの操作:**Web ブラウザを使用しない環境でもご利用いただける Windows プログラムと Java プログラムの操作方法について説明します。

**付録** 製品の仕様及び関連する技術情報や操作方法について説明します。

## マニュアル表記について

---

[   ]

入力するキーを示します。例えば[Enter]は**エンター**キーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl + Alt]のように表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆

◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

→

矢印は操作の手順を示します。例えばStart → Runはスタートメニューを開き、Runを選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

※本マニュアルに記載されている商品名・会社名等は、各社の商標ならびに登録商標です。

## 用語

本マニュアルでは、ユーザー及びKN1000のKVMスイッチに接続されたデバイスに関して「ローカル」と「リモート」という用語を使って表現しています。

ユーザー及びサーバーは状況に応じて「ローカル」と表現されることもあれば、「リモート」と表現されることもあります。

### ◆ KVMスイッチ側から見た場合

- リモートユーザー - 「スイッチから離れた」場所からネットワーク経由で製品にログインしているユーザーを「リモート」ユーザーと呼びます。
- ローカルコンソール - 製品に直接接続されたキーボード、マウス、モニターのことを指します。
- サーバー - KVMケーブルを介して製品に接続されているコンピューターのことを指します。

### ◆ ユーザー側から見た場合

- ローカルクライアントユーザー - 「離れた」場所にあるKVMスイッチを自身のコンピューターから操作している人を「ローカルクライアントユーザー」と呼びます。
- リモートサーバー - ローカルクライアントユーザーから見たリモートサーバーのことを指します。というのは、これらのサーバーは製品にローカル接続されているものの、ユーザーからは離れた場所にあるからです。

本マニュアルでは、システム構成全体について説明する場合は、基本的にスイッチ側の観点に立って説明します。この場合、ユーザー側がリモート側と見なされます。また、ユーザーがネットワーク経由でブラウザ、ビューワー、またアプリケーションを使って行う操作について説明する場合は、ユーザー側の観点に立って説明します。この場合、製品及びその配下にあるサーバーがリモート側と見なされます。

# 第1章 はじめに

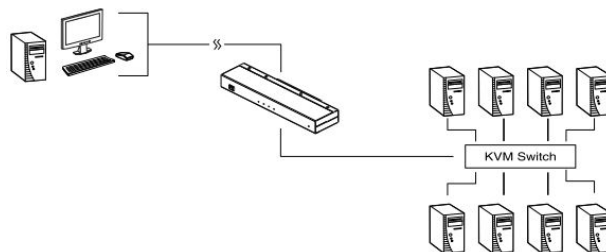
## 概要

KN1000 は、離れた場所にあるサーバーに BIOS レベルでアクセスしたり、または Over-IP 機能を搭載していない KVM スイッチに TCP/IP ネットワーク経由でのリモートアクセス機能を付加したりするコントロールユニットです。KN1000 を使用すれば、ユーザーは標準的なインターネットブラウザや Windows 版、Java 版の専用アプリケーションを使用することで、遠隔地からコンピューターにアクセスし、モニタリングすることができます。さらに、KN1000 は外付モデムを含むアウトオブバンドでアクセスに対応し、BIOS レベルでのトラブルシューティングにも対応しているので、しょっちゅう現場へ行って IT メンテナンスする必要がなくなります。

データセンター環境全体を管理/運用できるように、シングルポート電源スイッチを内蔵し、KN1000 にローカル接続されたサーバーやデバイスの電源管理を遠隔地からでも行うことができます。また Power Over the NET™ 電源管理デバイス\*を追加すれば、サーバーの電源のオン/オフ、再起動に加え、電流の状態を監視するというように、デバイスの電源状態をリモートから管理することもできます。

**注意:** Power Over the NET™ をご利用になる場合は別途ご購入していただく必要があります。

KN1000 は標準的なカテゴリ 5e ケーブルを使用してインターネット、イントラネット、LAN や WAN へ接続し、専用 KVM ケーブルを使用してローカル KVM スイッチやサーバーに接続します。KN1000 は通信プロトコルとして TCP/IP を使用しているので、管理者は離れたところからネットワークに接続されたパソコンを利用して、KN1000 に接続されたサーバーや KVM スイッチにアクセスできます。つまり、オフィスの別の部屋からでも、出張先からでも、果ては地球の裏側からでもアクセスすることが可能となります。



リモート操作では IP アドレス経由で KN1000 に接続します。リモートアクセスが認証され、権限が付与されると、リモートコンピューターはキーボード、ビデオ、マウス信号を KN1000 に接続されているサーバー(または KN1000 に接続している KVM スイッチの配下にあるサーバー)とやりとりし、まるで現場で作業している時と同じような感覚で操作できるようになります。

KN1000 のバーチャルメディア機能では、リモートコンソールから診断検査、ファイル転送、OS やアプリケーションのパッチ適用などを実行することができます。データ関連のタスクを実行するためサーバーに直接 CD を搭載する必要はありません。どこからでも BIOS レベルで便利かつ効果的にトラブルシューティングを行うことができます。

KN1000 にはアドミニストレーター用、クライアント用ソフトウェアがそれぞれ付属しており、簡単なインストールでメンテナンスや操作を行うことができます。システム管理者は複数の作業、例えば GUI ベースのアプリケーションのインストール/動作確認、BIOS レベルのトラブルシューティング、システム監視、メンテナンス、システム管理、再起動や OS 起動前の作業を容易に行うことができます。

アドミニストレーターユーティリティには、ブラウザベースのものと Windows アプリケーションおよび Java アプリケーションをご用意しております。ユーティリティはシステムの設定、リモートコンピューターからのアクセス制限、ユーザー管理、ファームウェアやソフトウェアモジュールのアップデートといったシステムのメンテナンスを行う際に使用します。

Windows クライアントアプリケーション及び Java クライアントアプリケーションプログラムはブラウザを使用しない環境で GUI を使用してアクセスできるのに対し、Windows クライアントビューワーと Java アプレットビューワーはブラウザを使用してアクセスできます。これを使用するとネットワーク上のどこからでも IP 接続やログインができるようになります。プラットフォームに依存しない Java クライアントは Java が動作する全ての OS 環境での操作を実現します。また、KN1000 にはインターネットを使用したシリアルコンソール管理に対応しているため、ネットワークスイッチのようなシリアルコンソールデバイスを遠隔地から操作することができます。

クライアントソフトウェアを使用すると、接続されたサーバーへのアクセスや操作ができるようになります。オペレーターが接続に成功しログインすると、実際に現場で作業しているかのように KN1000 に接続されたコンピューター(例:KVM スイッチの OSD 画面、サーバーのデスクトップ、作業中のプログラム画面など)の画面が目の前のモニターに表示され、手元のコンソールからそれらを操作することができます。

ログサーバーでは選択された KN1000 の全てのイベントを記録することができ、アドミニストレーターはそれらを分析することができます。

KN1000 のファームウェアはインターネットを通じてアップグレードできるので、KN1000 に対する投資は保護されます。弊社のウェブサイトからファームウェアアップデートファイルをダウンロードし、KN1000 を最新の状態に保つことができます。また、アップグレードにはユーティリティを使用して簡単かつ便利にアップグレードを実行することができます。

## 特長とメリット

KN1000 の特長と本製品の導入によってもたらされるメリットは下表の通りです。

| 特長   | メリット  |
|--|---|
| アナログ KVM スイッチおよびリモートアクセス機能のない KVM スイッチにリモートアクセス機能を付加 | <p>過去に導入した KVM スイッチを利用してリモートアクセスが実現できるため、新規のデジタル KVM スイッチの購入が不要。</p> <p>対応 KVM スイッチは、CS-9134、CS-9138、CS88A、CS1308、CS1316、CS-1754*、CS-1758*、CS1708A、CS1716A、ACS-1208A、ACS-1216A、KH2508A、KH2516A、KH1508A、KH1516A です。</p> <p>*接続した KVM スイッチの機能によっては、KN1000 の機能の一部がご利用いただけません(例:一部の KVM スイッチはバーチャルメディアに対応していません)。</p> <p>*接続した KVM スイッチの一部の機能は、KN1000 では対応していません(例:CS-1754 のオーディオ機能)。</p> |
| 設定や操作が簡単   | <p>使いやすいグラフィカルなインターフェースで直感的な設定や操作が可能。Web ブラウザの Windows/Java クライアントビューワーは標準的な Web ブラウザで動作。また、Windows/Java クライアントソフトウェアはこのクライアントビューワーと同様のインターフェースを提供し、Web ブラウザを使用しない環境でもリモートアクセスを実現。</p>  |
| Wake on LAN 機能を使用したりリモート電源管理                         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シングルポート電源スイッチを内蔵しているので、KN1000 にローカル接続されたサーバー/デバイスのリモート電源管理が可能。</li> <li>2. さらに、Power Over the NET™ 電源管理デバイスを追加すれば、サーバーの ON/OFF や再起動や電流の状態を監視するというような接続機器の電源状態をリモート管理することが可能。</li> </ol>   |
| 解像度  | <p>FPS スループットを強化してクリアな映像を提供する KN1000 はリモートセッションで最大 1,600×1,200@60Hz の解像度と 24-bit 色深度を提供。リモートデスクトップはフルスクリーン表示、ウィンドウ表示の両方が可能。フルスクリーンモードではリモートデスクトップの画面をユーザーのモニターの表示サイズにリサイズ可能。</p>  |

(表は次のページに続きます。)

| 特長                        | メリット   |
|---------------------------|--|
| バーチャルメディア                 | ユーザーのローカルシステムにある USB1.1 及び USB2.0 デバイス(フロッピーディスク、CD-ROM、フラッシュメモリー等)、フォルダー、イメージファイルはリモートサーバー側にマウントできるため、大規模なソフトウェアのインストールやアップデートの実行が可能。   |
| バーチャルリモートデスクトップ           | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 多言語対応のオンスクリーンキーボードを搭載</li> <li>◆ 終了マクロ対応</li> <li>◆ BIOS レベルのアクセスが可能</li> </ul>   |
| スマートカード/CAC リーダー対応        | KN1000 のバーチャルメディア機能によって、ユーザーのローカルシステム側にあるスマートカード/CAC リーダーをリモートサーバーにマウントし、高度なセキュリティが必要とされる環境でも利用可能。   |
| シングルポート電源スイッチを内蔵          | KN1000 にローカル接続されたサーバー/デバイスの電源 ON、OFF や再起動といったリモート電源管理を行うことが可能。   |
| 低帯域環境での通信データ最適化           | グレースケール機能やビデオ画質の設定を使ってバンド幅を最適化し、低帯域の環境でも最大のデータスループットが可能。また、PPP モデムダイヤルアップ対応で、アウトオブバンド環境や低帯域環境でも確実な接続を実現。   |
| マルチプラットフォーム・マルチプロトコル対応    | Windows/Java クライアントソフトウェアを使うことで、KN1000 とその配下にあるデバイスに大半の OS(Windows、Linux、Unix、Sun、Mac)からアクセスが可能。<br>幅広い通信プロトコルに対応。対応プロトコル - TCP/IP、HTTP、HTTPS、UDP、DHCP、SSL、ARP、DNS、ICMP、CHAP、PPP、10Base-T、100Base-T。 |
| ブラウザアクセス方法の管理             | HTTP または HTTPS のどちらかを使用したり、ブラウザの使用を不可にしたりすることが可能。  |
| 多言語キーボード対応・オンスクリーンキーボード搭載 | 多言語キーボード入力に対応 - 日本語、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、韓国語、中国語(繁体字)。KN1000 のオンスクリーンキーボードで様々な言語の入力が可能であるため、使用言語に合わせてキーボードを用意する必要がない。   |
| マルチユーザー/マルチログイン対応         | 最大 64 ユーザーのアカウント作成が可能。シングルバスアクセスで最大 32 ユーザーによる同時アクセスが可能。   |

(表は次のページに続きます。)

| 特長                                 | メリット   |
|------------------------------------|--|
| メッセージボード                           | マルチユーザーログインによるアクセスの競合を避けるために、ログインユーザー間のコミュニケーションツールとしてチャットプログラムのようなメッセージボード機能を提供。また、このインターフェースから KVM 機能の排他制御も可能。   |
| 高度なセキュリティ                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ クライアントソフトを起動する前に正しいユーザーネームとパスワードを入力するパスワード機能を含む、高度なセキュリティ機能や 128-bit SSL 通信等の高度な暗号化技術を提供</li> <li>◆ 柔軟な暗号設計で、キーボード/マウス、ビデオ、バーチャルメディアそれぞれの暗号化を 56-bit DES、168-bit 3DES、256-bit AES、128-bit RC4、ランダムの中から自由に組み合わせて設定可能</li> <li>◆ IP/MAC フィルター対応</li> <li>◆ 強力なパスワード保護機能</li> <li>◆ プライベート CA</li> </ul> |
| 外部認証対応                             | 製品自体のセキュリティ保護機能に加え、ログイン認証を RADIUS、LDAP、LDAPS、Active Directory といった外部サーバーにセットアップすることが可能。  |
| イベントログ対応                           | 製品内部で発生する全イベントを記録し、検索可能なデータベースに保存。アドミニストレーターや管理権限のあるユーザーは、キーワードや日付、重要度などの条件でログ情報の絞り込みが可能。  |
| コンソール管理                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ シリアルコンソール管理 - シリアルターミナルアクセス。付属のシリアルビューワーやサードパーティーのソフトウェア（例:PuTTY）を使って Telnet/SSH セッションから KN1000 にアクセス可能</li> <li>◆ アウトオブバンド機能 - ダイアルアップモデム対応。ダイアルアップ接続を使って RS-232 ポート経由で KN1000 へのアクセスが可能。</li> </ul>   |
| TCP/IP ネットワーク経由でのファームウェアアップグレードに対応 | アップグレード専用ケーブルは不要。TCP/IP ネットワーク経由でファームウェアをアップグレードし、最新の機能を利用可能。  |

(表は次のページに続きます。)

| 特長                                | メリット   |
|-----------------------------------|--|
| マウスダイナシク機能搭載                      | マウスの再同期不要。マウスダイナシク機能でリモートとローカルマウスを自動ロック同期するため、マウスを定期的に同期する手間を軽減。ローカルコンソールのマウスがリモートユニットのマウスの動作に同期。                                      |
| オート Ping                          | デバイスの状態を決定するために Ping コマンドを実行。設定した時間内に Ping が成功しなければ、自動的に設定した動作を実行。   |
| フルスクリーン表示やウィンドウ表示が可能なリモートデスクトップ画面 | モニターの解像度がリモートコンピューターの解像度より小さくてもフルスクリーン表示が可能。フルスクリーンモードではリモートデスクトップの表示をユーザーモニターの表示サイズに調整。最大 1,600×1,200@60Hz、リモートセッションでは 24-bit 色深度に対応。 |
| ダイナミック DNS                        | DHCP サーバーによって割り当てられた動的 IP アドレスとホストネームのマッピングが可能。  |
| 電源アウトレットへの電源 ON/OFF スケジューリング      | 電源管理作業は、毎日、毎週、毎月、またはユーザーが定めた期間ごとに実行することが可能。  |
| セーフシャットダウン対応                      | IT 管理者はサーバーの電源が切れる前にリモートからサーバーを操作して、完全にシャットダウンさせることが可能。  |
| セッション終了機能                         | アドミニストレーターは稼働中のセッションを終了することが可能。  |
| マジックパネル                           | 機能設定が可能なアイコンがついたコントロールパネルを非表示にすることが可能。   |

## システム要件

---

### リモートユーザー側で使用するコンピューター

リモートユーザー側で使用するコンピューター(クライアントコンピューター)とは、ユーザーが TCP/IP ネットワーク経由で離れた場所から KVM スイッチにログインする際に使用するコンピューターのことを指します(p.14 「用語」参照)。これらのコンピューターには下記のハードウェア環境が必要です。

- ◆ 最適な状態でお使い頂くために、本製品にアクセスする際には、CPU が Pentium III 1GHz 以上のプロセッサを搭載したコンピューターを使用し、このコンピューターの解像度を 1,024×768 に設定してください。
- ◆ ブラウザは 128bit SSL 暗号化通信に対応したものをお使いください。
- ◆ インターネットにおけるデータ転送速度が 128kbps 以上の環境を推奨します。
- ◆ ログサーバーを使用する場合は、Microsoft Jet OLEDB 4.0 以降のドライバーをインストールしてください。
- ◆ セーフシャットダウンを行うには、下記のことが必要です。
  - コンピューターの OS が Windows 2000 以降、または Linux であること。
  - セーフシャットダウンプログラム(弊社ウェブサイトよりダウンロード可)がインストール済であること。



### サーバー

サーバーとは KVM ケーブルを使用して KN1000 に接続されているコンピューターのことを指します(p.14 「用語」参照)。これらのサーバーには下記のハードウェア環境が必要です。

- ◆ VGA、SVGA、またはマルチシンクポート
- ◆ USB KVM ケーブル接続の場合、USB タイプ A ポート及び USB ホストコントローラー
- ◆ PS/2 KVM ケーブル接続の場合、ミニ DIN6 ピンキーボード・マウスポート

## ケーブル

- ◆ 本製品には KN1000 とサーバーまたは KVM スイッチを接続する KVM ケーブルが 2 本 (USB タイプ 1 本、PS/2 タイプ 1 本) 同梱されています。
- ◆ 下表の通り、様々な長さの KVM ケーブルを取り揃えております。

| 製品画像   | 機能                     |  | 型番(長さ)                         |
|--|------------------------|--|--------------------------------|
|   | PS/2 KVMケーブル(製品同梱ケーブル) |  | 2L-5201P (1.2m)                |
|  | スイッチ側                  | SPHD×1                                 | 2L-5202P (1.8m)                |
|  | コンピューター側               | キーボード用ミニ DIN6 ピンオス                     | 2L-5702P (1.8m)                |
|  |                        | マウス用ミニ DIN6 ピンオス<br>モニター用 D-sub15 ピンオス | 2L-5203P (3m)<br>2L-5206P (6m) |
|  | USB KVMケーブル(製品同梱ケーブル)  |  | 2L-5201U (1.2m)                |
|  | スイッチ側                  | SPHD×1                                 | 2L-5202U (1.8m)                |
|  | コンピューター側               | USB タイプ A オス                           | 2L-5203U (3m)                  |
|  |                        | モニター用 D-sub15 ピンオス                     | 2L-5205U (5m)                  |

KVM ケーブルのご購入については、販売店までお問い合わせください。

- ◆ 本製品には KN1000 とローカルコンソールとを接続するコンソールケーブルが 1 本同梱されています。
 

---

**注意:** このケーブルは PS/2、USB の両インターフェースに対応できるように設計されています。

---
- ◆ 本製品にはバーチャルメディア機能(p.27 「バーチャルメディアポート」参照)用の USB2.0 ケーブルが 1 本同梱されています。
- ◆ KN1000 を LAN、WAN、またはインターネットに接続するにはカテゴリ 5e 以上のイーサネットケーブルを使用してください(本製品は同梱されていません)。
- ◆ 本製品には、KN1000 を電源管理機能用サーバーに接続する電源ケーブルが 1 本同梱されています。

## ビデオ

本製品は下表の**非インターレース**のビデオ信号にのみ対応しています。

| 解像度         | リフレッシュレート                 |
|-------------|---------------------------|
| 640×480     | 60、72、75、85、90、100、120    |
| 720×400     | 70                        |
| 800×600     | 56、60、72、75、85、90、100、120 |
| 1,024×768   | 60、70、75、85、90、100        |
| 1,152×864   | 60、70、75、85               |
| 1,280×720   | 60                        |
| 1,280×1,024 | 60、70、75、85               |
| 1,600×1,200 | 60                        |

## OS

- ◆ リモートユーザーが KN1000 にログインする際には、Windows 2000 以降がインストールされたコンピューター、または Sun Java Runtime Environment (JRE) 6 Update 3 以降が動作可能なコンピューター (Linux、Mac、Sun 等) を使用してください。
- ◆ KN1000 と接続可能なサーバーの OS は下表の通りです。

| OS      | バージョン              |              |
|---------|--------------------|--------------|
| Windows | 2000 以降            |              |
| Linux   | RedHat             | 7.1 以降       |
|         | Fedora             | Core 5 以降    |
|         | SuSE               | 9.0 以降       |
|         | Mandriva(Mandrake) | 9.0 以降       |
| UNIX    | AIX                | 4.3 以降       |
|         | FreeBSD            | 3.51 以降      |
|         | Sun                | Solaris 8 以降 |
| Novell  | Netware            | 5.0 以降       |
| Mac     | OS9 以降             |              |
| DOS     | 6.2 以降             |              |

## ブラウザ

KN1000 にログインするための対応ブラウザは下表の通りです。

| ブラウザ              |         | バージョン   |
|-------------------|---------|---------|
| Internet Explorer |         | 6 以降    |
| Chrome            |         | 8.0 以降  |
| Firefox           | Windows | 3.5 以降  |
|                   | Linux   | 3.0 以降  |
| Safari            | Windows | 4.0 以降  |
|                   | Mac     | 3.1 以降  |
| Opera             |         | 10.0 以降 |
| Mozilla           | Windows | 1.7 以降  |
|                   | Sun     | 1.7 以降  |
| Netscape          |         | 9.0 以降  |

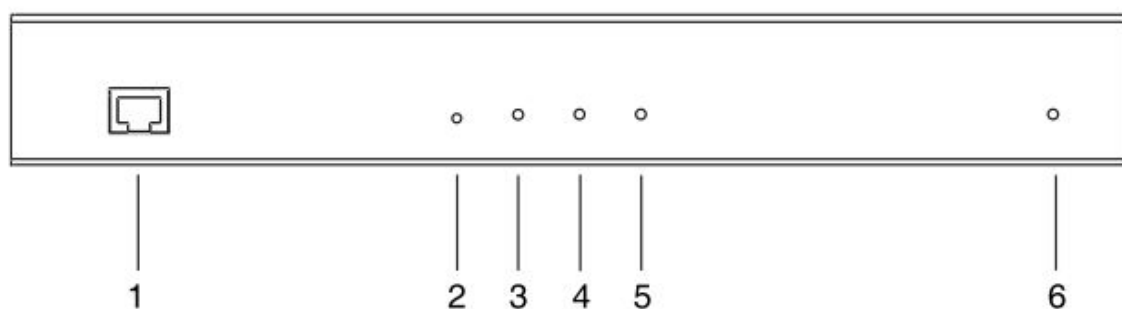
---

\* Safari に関する詳細は p.195 「Mac」を参照してください。

---

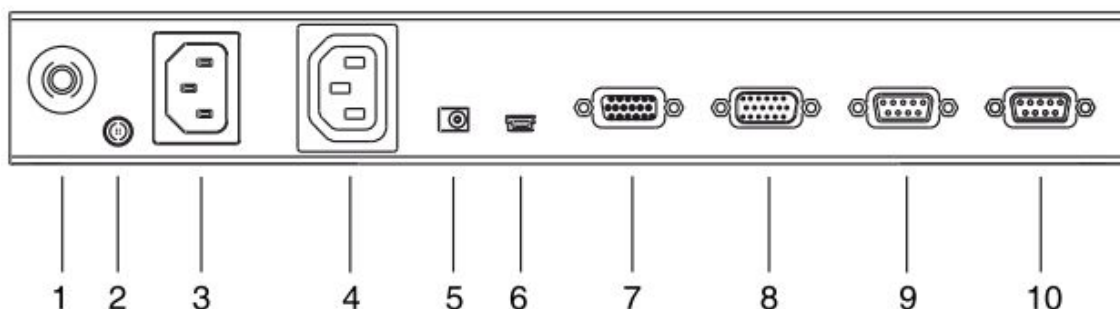
## 製品各部名称

### フロントパネル



| No. | 名称                      | 説明  |
|-----|-------------------------|---|
| 1   | LAN ポート                 | KN1000 を LAN、WAN、インターネットにつなぐカテゴリ 5e ケーブルをここに接続します。  |
| 2   | ファームウェアアップグレード/リセットスイッチ | <ol style="list-style-type: none"> <li>このスイッチを押して離すと KN1000 のシステムリセットを行います (p.189 「動作が不安定である」参照)。</li> <li>このスイッチを 3 秒以上長押しすると、KN1000 を工場出荷時のデフォルト設定値に戻します。</li> <li>このスイッチを押しながら KN1000 に電源を入れると、KN1000 のファームウェアを工場出荷時のバージョンに戻します。この操作は、ファームウェアアップグレードに失敗して、デバイスが操作できなくなった時のみに実行してください。</li> </ol> <p><b>注意:</b>このボタンはピンホール型になっているので、クリップの先端やペン等の細いもので押してください。</p> |
| 3   | 10/100Mbps LED          | データ転送速度が 10Mbps の時は LED がオレンジに点灯し、100Mbps の時は LED がグリーンに点灯します。  |
| 4   | リンク LED                 | クライアントプログラムがデバイスにアクセスしている時には LED がグリーンに点滅します。   |
| 5   | 電源 LED                  | KN1000 に電源が入り、操作可能な状態になると LED がオレンジに点灯します。  |
| 6   | 電源アウトレット LED            | KN1000 の電源アウトレットに接続されたサーバーに電源が入っていると LED がオレンジに点灯します。   |

## リアパネル

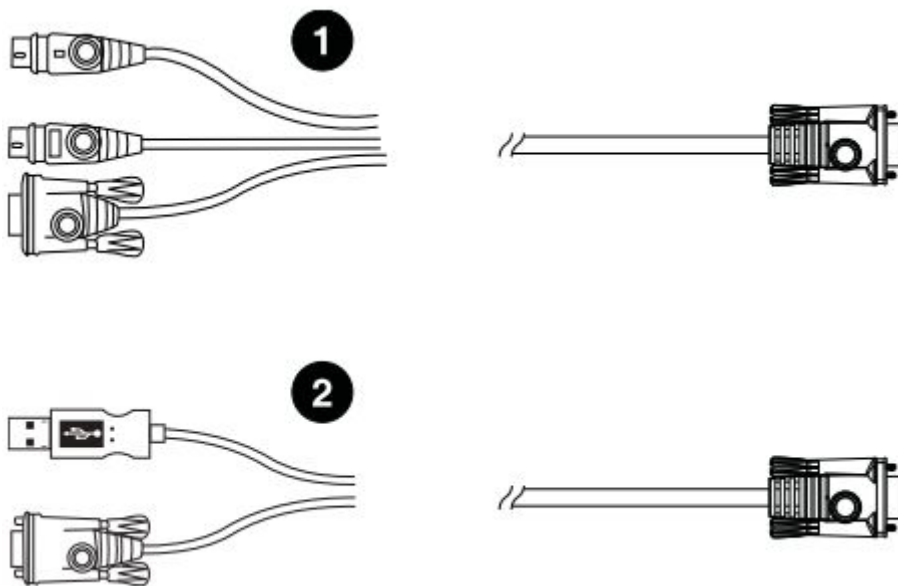


| No. | 名称           | 説明  |
|-----|--------------|---|
| 1   | ブレーカー        | 安全対策として、過電流の状態になった場合、ブレーカーが落ちます。通常の操作に戻す場合はこのボタンを押してください。   |
| 2   | 接地ターミナル      | 接地線をここに接続してください。  |
| 3   | 電源インレット      | KN1000 を電源管理機能用の AC 電源に接続する電源コードをここに接続してください。   |
| 4   | 電源アウトレット     | 電源管理用のサーバーに接続するための KN1000 に同梱された電源コードをここに接続してください。詳細は p.41 「電源管理」を参照してください。                                   |
| 5   | 電源ジャック       | 電源アダプターのケーブルをここに接続してください。   |
| 6   | バーチャルメディアポート | KN1000 をサーバーの USB ポートまたは KVM スイッチに接続するための USB ケーブルをここに接続してください。バーチャルメディアの詳細は p.118 「バーチャルメディア」を参照してください。      |
| 7   | PC/KVM ポート   | KN1000 とサーバー/KVM スイッチをつなぐための本製品に同梱された KVM ケーブルをここに接続してください。   |
| 8   | コンソールポート     | ローカルコンソール(キーボード、モニター、マウス)ケーブルをここに接続してください。PS/2またはUSBキーボード・マウスのどちらでもコンソールとして使用できます。各コネクタには色づけされ、アイコンが表示されています。 |
| 9   | PON ポート      | リモート電源管理ツールである Power Over the NET™ 製品と併用する場合、このポートに接続します。操作の詳細は接続する Power Over the NET™ 製品マニュアルを参照してください。     |

(表は次のページに続きます。)

| No. | 名称         | 説明  |
|-----|------------|---|
| 10  | RS-232 ポート | このシリアルポートの用途は下記の通りです。<br>1. シリアルコンソールの管理(詳細は p.77 「コンソール管理」参照)<br>2. アウトオブバンドモデム操作(詳細は p.80 「OOBC」参照) |

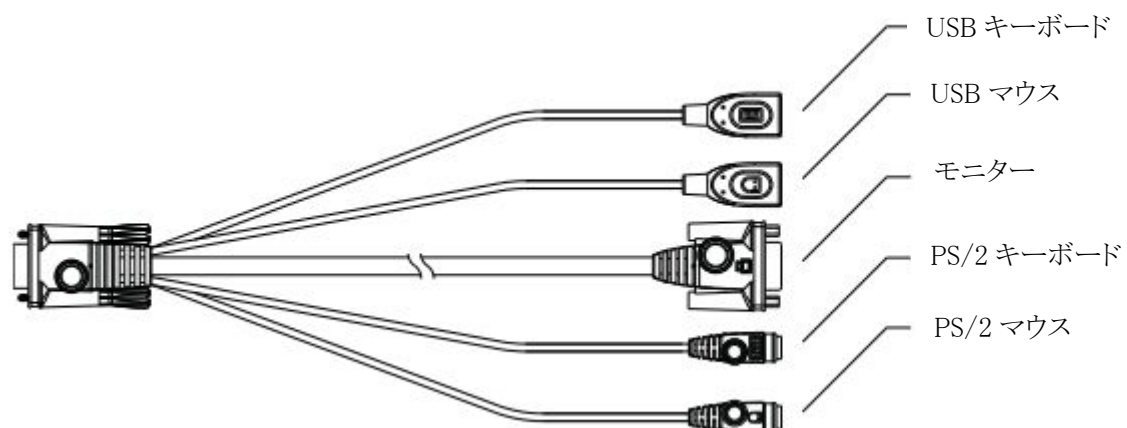
## KVM ケーブル



| No. | 説明   |
|-----|--|
| 1   | KN1000 に接続するサーバーや KVM スイッチのインターフェースが PS/2 の場合は、このケーブルを使用します。 |
| 2   | KN1000 に接続するサーバーや KVM スイッチのインターフェースが USB の場合は、このケーブルを使用します。  |

**注意:** USB ケーブルを使用すると、自動マウス同期機能をご利用いただけます。詳細は p.126 「マウス同期モード」を参照してください。

## コンソールケーブル



---

**注意:** このケーブルをご利用いただくと、マウスとキーボードのインターフェースが USB、PS/2 のどちらかであれば、どのような組み合わせでもお使いいただくことができます。例えば、PS/2 キーボードと USB マウスを組み合わせることも可能です。

---

## 第2章 ハードウェアセットアップ



1. 機器の設置に際し重要な情報を p.8 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。コンピューターにキーボード起動機能がついている場合は、ここから電源ケーブルも抜いてください。
3. 本マニュアルに記載された手順に従わずにセットアップを行うと、危険な状態をもたらす可能性があります。

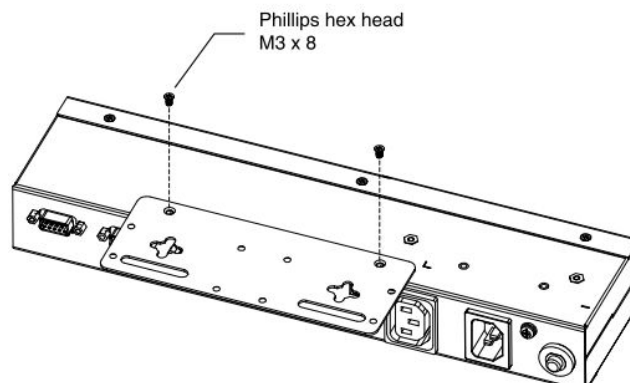
### マウント方法

---

#### ラックマウント

KN1000 はシステムラックにマウントしてお使い頂くことが可能です。KN1000 をラックマウントする場合は、下記の手順に従ってください。

1. 本製品の上面または底面のリア側に近いところにあるネジを2箇所外してください。
2. ラックマウントキットに付属しているネジを使用して、下図のようにKN1000 にラックマウント用ブラケットを取り付けてください。

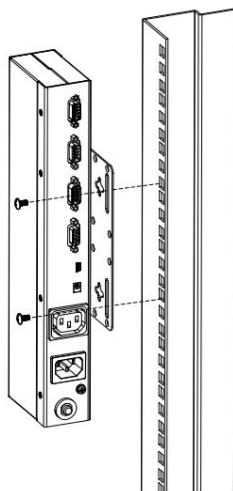


---

**注意:** 図では本体の底面にブラケットを取り付けていますが、上面にブラケットを取り付けることも可能です。

---

3. ラックの適切な位置にブラケットを固定し、ネジ止めしてください。



---

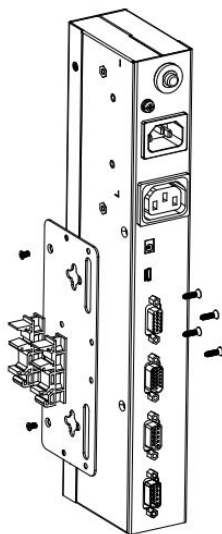
**注意:** ラックマウント用のネジは製品には同梱されていませんので、お使いのラックに適したネジを別途ご用意ください。

---

## DIN レールへのマウント

KN1000 を DIN レールへマウントする場合は、下記の手順に従ってください。

1. 前ページの手順 1～2 に従って、KN1000 にラックマウント用ブラケットを取り付けてください。
2. ラックマウントキットに付属している大きめのネジを使って、下図を参考にしながら DIN レールブラケットを手順 1 で取り付けたラックマウント用ブラケットにネジ止めしてください。



3. KN1000 に取り付けたブラケットを DIN レールに固定してください。

## セットアップ

---

KN1000 のセットアップを行う場合は、次ページの接続図(図内における番号は下記の作業手順に対応)を参考にしながら、下記の手順に従ってください。

1. 接地線を使用して本製品を接地してください。
2. 本製品に同梱されているコンソールケーブルを使用して、KN1000 のコンソールポートとローカルコンソールキーボード、モニター、及びマウスを接続してください。

---

**注意:**

1. コンソールケーブルには PS/2 及び USB の両インターフェースのキーボード/マウスコネクタがそれぞれついていますので、お使いの環境に適した組み合わせでお使いください。
2. このケーブルによって、マウスとキーボードのインターフェースが PS/2 や USB であれば、どのような組み合わせでもお使いいただけます。例えば PS/2 キーボードと USB マウスといった組み合わせで使用することも可能です。

---

3. 本製品に同梱されている KVM ケーブルを使用して KN1000 の PC/KVM ポートとお使いのサーバーまたは KVM スイッチのキーボード、モニター、マウスポートを接続してください。

---

**注意:** カスケード接続された KVM スイッチの機能によっては、KN1000 のバーチャルメディア機能が使用できない場合があります(詳細は p.199 「対応 KVM スイッチ」参照)。

---

4. (オプション)バーチャルメディア機能(p.118 「バーチャルメディア」参照)を使用する場合、本製品に同梱されている USB2.0 バーチャルメディアケーブルを使用して、サーバーの USB ポートと KN1000 のバーチャルメディアポートを接続してください。
5. (オプション)リモート電源管理用の Power Over the NET™ デバイスを接続する場合は、そのケーブルを PON ポートに接続してください。
6. (オプション)シリアルコンソールデバイスやモデムを接続する場合は、そのケーブルを RS-232 ポートに接続してください。
7. LAN または WAN ケーブルを KN1000 の LAN ポートに接続してください。

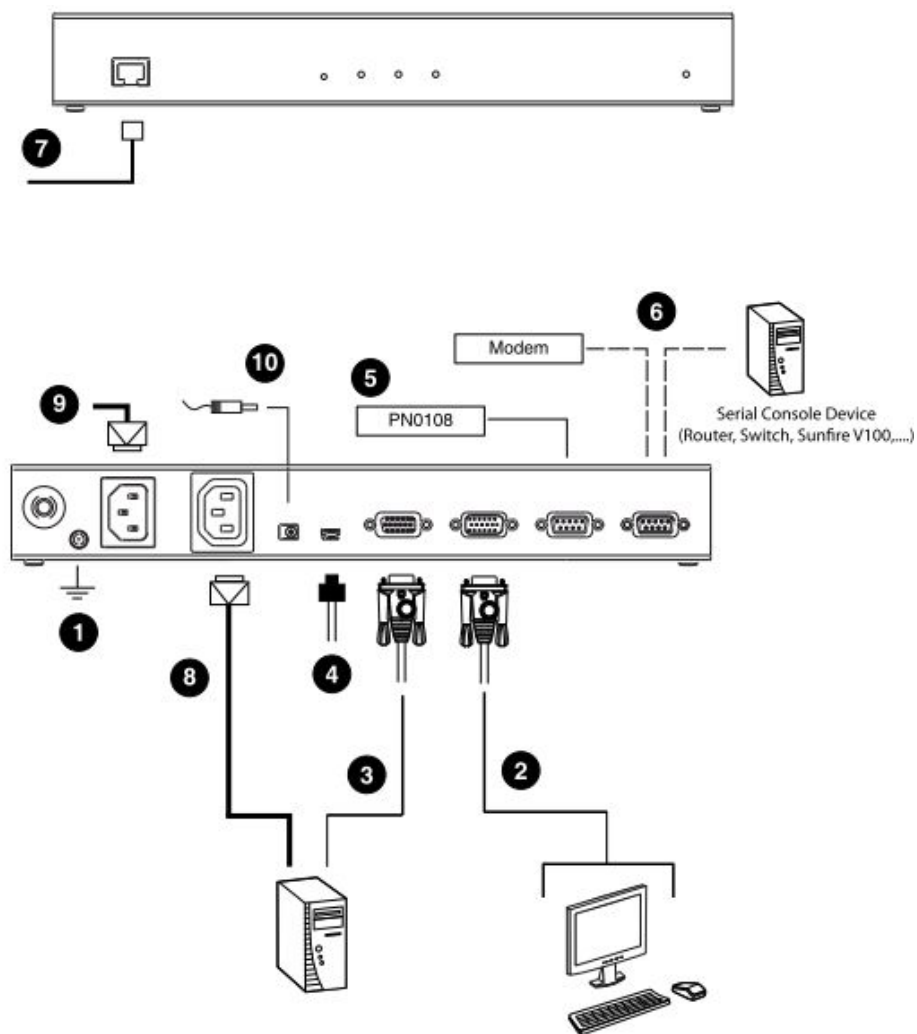
8. 本製品に同梱されている電源アウトレットコードを使用して KN1000 の電源アウトレットを電源管理用のサーバーに接続してください。
9. サーバーからの電源コードを使用して、KN1000 の電源インレットと AC 電源を接続してください。
10. KN1000 の電源ジャックに電源アダプターを接続してから、電源アダプターを AC 電源に接続してください。

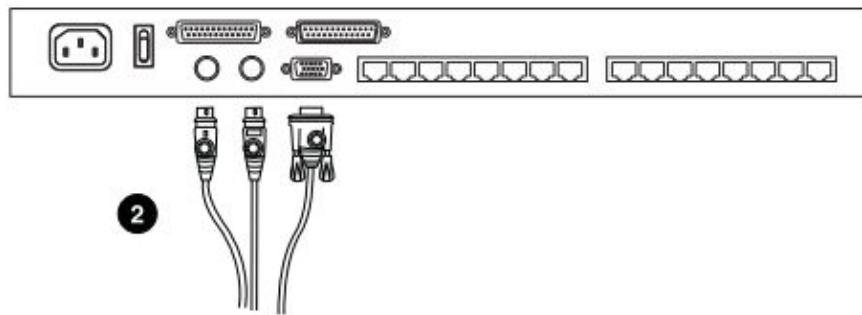
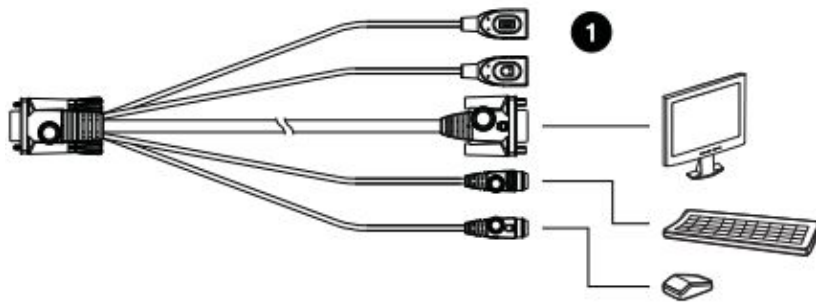
以上で、製品をお使いいただくための準備が整いました。

---

**注意:** 機器を使用される場合は、まず KN1000 の電源を ON にし、その後で配下に接続されたサーバーや KVM スイッチに電源を入れるようにしてください。

---





# 第3章

## Web メニューの基本操作

KN1000 にリモート接続する場合、Web ブラウザや製品同梱の CD に収録されているクライアントソフトウェアを使用するか、PPP モデムダイヤルイン接続を行います。Web ブラウザの操作については本章で、アプリケーションによるアクセス方法については第 9 章で、そして PPP モデムログインについては p.182 でそれぞれ説明しますので、そちらをご参照ください。

---

**注意:** Windows Vista/7 のユーザーで KN1000 のバーチャルメディア機能を使用する場合、アドミニストレーターとしてインターネットブラウザを実行しなければなりません。詳細は p.118 「バーチャルメディア」をご参照ください。

---

### ログイン

---

KN1000 を Web ブラウザから操作する場合は、最初にログインする必要があります。下記の手順に従って操作してください。

1. お使いの Web ブラウザを開き、アクセス対象となる KN1000 の IP アドレスをブラウザの URL バーに直接入力してください。

---

**注意:** 1. 例えば、KN1000 の IP アドレスが「192.168.0.100」に設定されている場合は、URL バーに下記のようにアドレスを入力してアクセスします。

192.168.0.100

お使いの環境における IP アドレスがご不明な場合は、KN1000 の管理者までお問い合わせください。

2. アドミニストレーターとして初回起動時のログインを行う場合、複数の方法で KN1000 に IP アドレスを設定することができます。詳細は p.174 「IP アドレスの設定」を参照してください。
-

2. 「セキュリティの警告」ダイアログが表示されます。



この証明書は信頼できるものですので、受け入れてください(詳細は p.184 「信頼された証明書」参照)。このダイアログで「はい」ボタンを押した後、別のセキュリティの警告に関するダイアログが表示されたら、その画面でも「はい」ボタンを押して証明書を受け入れてください。

KN1000 のログイン画面が表示されます。



3. KN1000 の管理者によって設定された正しいユーザーネーム及びパスワードを入力し、「Login」ボタンをクリックしてください。

**注意:** 1. アドミニストレーターとして初回起動時のログインを行う場合、下記のデフォルトアカウントでログインしてください。

ユーザーネーム: administrator

パスワード: password

セキュリティの観点からも、初回ログインの後に管理者用のアカウントを新規に作成し、このアカウントを削除されることを推奨します (p.74 参照)。

2. ログインに失敗すると、KN1000 の Web メニューにログインが失敗したため再試行するように促す内容のメッセージが返ってきます。このメッセージが表示されたら、正しいユーザーネームとパスワードで再ログインしてください。

ログインに成功すると、下図のような KN1000 のメイン画面が表示されます。



## Web メニューの項目

メイン画面は左側に縦一列に並んだユーティリティアイコン、上部に一列に並んだ管理用メニューアイコン、中央部に表示されている「リモートコンソールプレビュー」(Java アプレット及びWindows クライアント起動用アイコンを含む)と、この下に位置する「終了マクロ」欄から構成されています。

**注意:** ユーザーが操作権限を持っていない機能のアイコンは、そのユーザーがログインしても表示されません。権限に関する詳細は p.74 「ユーザー管理」を参照してください。

## ユーティリティアイコン

KN1000 の Web 画面左側に表示されている各アイコンの機能は下記の通りです。

| アイコン  | 機能  |
|---|---|
|   | <b>リモートコンソール:</b> このアイコンをクリックすると、現在 Web 画面に表示されているメニューの内容にかかわらず、「リモートコンソールプレビュー」を表示します(p.39 参照)。  |
|  | <b>電源管理:</b> お使いの KN1000 に Power Over the NET™ 製品が接続されており、かつ、そのデバイス进行操作する権限(p.74 「ユーザー管理」参照)がある場合、このアイコンをクリックすると、KN1000 の電源管理インターフェースが表示され、ネットワークを通じて電源をリセットしたり、Wake on LAN 機能を使用したりすることができます(詳細は p.41 「電源管理」参照)。 |
|  | <b>ログ:</b> KN1000 における全てのイベントはログファイルに記録されます。KN1000 においてログ閲覧権限(p.74 参照)のあるユーザーがこのアイコンをクリックすると、ログファイルが画面に表示されます。ログファイルについては第 7 章で詳しく説明します。  |
|  | <b>ユーザー設定:</b> このアイコンをクリックすると、ユーザー個人の操作環境をセットアップすることができます。各ユーザーのプロフィールは製品内部にそれぞれ保存され、ログイン時に入力されたユーザーネームに基づいてその設定を呼び出します(p.47 「PON ポート設定」参照)。  |
|  | <b>ログアウト:</b> このアイコンをクリックすると KN1000 からログアウトし、セッションを終了します。セッション終了時のログアウト操作は非常に重要です。正しくログアウトしないと、再ログインするまで KN1000 のタイムアウト設定の期限が切れるのを待たなくてはなりません(p.85 「タイムアウト」参照)。   |

## 管理メニューアイコン

KN1000 の Web 画面上部に表示されているアイコンは、KN1000 の管理設定メニューで、KN1000 の設定に使用されます。KN1000 の管理機能については第 4 章で説明します。

## リモートコンソールプレビュー

画面のメイン部分には KN1000 に接続されたサーバーのデスクトップをキャプチャしたイメージが表示されます。



「再読込」ボタンをクリックすると、リモートデスクトップのキャプチャイメージを更新します。

「再読込」ボタンの下にあるリンクは、使用ブラウザや「ユーザー設定」の「ビューワー」の設定 (p.49 参照) によって表示が異なります。

- ◆ Windows Internet Explorer 以外のブラウザでログインすると、Java アプレットビューワーのアイコン (湯気の出ているコーヒーカップのアイコン) と「ビューワーを開く」リンクが表示されます。
- ◆ ビューワーの選択を「自動検出」(デフォルト) に設定して Windows Internet Explorer でログインすると、Windows クライアントのアイコンと「ビューワーを開く」リンクが表示されます。
- ◆ ビューワーの選択を「Java」に設定して、Windows Internet Explorer でログインすると、Java アプレットビューワーのアイコン (湯気の出ているコーヒーカップのアイコン) と「ビューワーを開く」リンクが表示されます。
- ◆ ビューワーの選択を「ユーザー選択」に設定して Windows Internet Explorer でログインすると、Java アプレットビューワーと Windows クライアントビューワーのアイコンが両方とも表示されます。

お使いのデスクトップ上で、ビューワーを使ってリモートサーバーの画面を開く場合は、「ビューワーを開く」リンクをクリックしてください。Java アプレットビューワーの操作については第 6 章で、Windows クライアントビューワーの操作については第 5 章でそれぞれ説明します。

---

**注意:** 「自動検出」または「Java」を選択している場合は、スナップショットのウィンドウを直接クリックしてリモートサーバーの画面を開くこともできます。

---

## 終了マクロ

「終了マクロ」パネルには、ユーザーが作成したシステムマクロのドロップダウンリストが表示されます。



リモートサーバーからログアウトする際に実行するマクロをリストから選択することができます。終了マクロを作成する方法については p.108 「システムマクロ」を参照してください。

## Telnet/SSH ビューワー

シリアルコンソール管理機能が有効になっている場合 (p.77 「シリアルコンソール」参照)、「Telnet/SSH ビューワー」パネルが「終了マクロ」パネルの真下に表示されます。



これらのビューワーを使うと、ユーザーはブラウザから KN1000 への Telnet や SSH セッションを開くことができるようになります。ユーザーの権限 (p.75 参照) に応じて、Telnet ビューワーや SSH ビューワーのリンクが表示されます。

ビューワーでセッションを開く場合は、これらのリンクをクリックしてください。

## 電源管理

データセンター環境全体を管理/運営できるように、KN1000 にはシングルポート電源スイッチが内蔵され、本製品にKN1000にローカル接続されたサーバーやデバイスのリモート電源が管理できます。さらに、Power Over the NET™ 製品と併用すれば、リモートサーバーの電源 ON/OFF 操作など、接続機器の電源状況をリモートから管理することができます。

操作権限を持っているユーザー (p.74 参照) がこのアイコンをクリックすると、KN1000 の電源管理インターフェースが表示され、ネットワークを通じて電源をリセットしたり、Wake on LAN 機能を使用したり、定期的に作業を行ったり、自動 Ping 機能を使用したりすることができます。以下、詳細を説明します。

**Power Management**

Confirmation Required  Enable

Power On Delay: 0 seconds

Power Off Delay: 0 seconds

Shutdown Method: Wake on LAN

MAC: 000000000000

**Schedule**

| Select | Routine Type | Start Date | End Date | Day | Shutdown Time(HH:MM) | Restart Time(HH:MM) |
|--------|--------------|------------|----------|-----|----------------------|---------------------|
|--------|--------------|------------|----------|-----|----------------------|---------------------|

Add Delete

**Auto Ping**

Enable

Ping Address: IP Address of device to be tested

Interval: 1 (1-255) seconds

Fail Count: 1 1-99

Action: Send Email

**PON Port Setting**

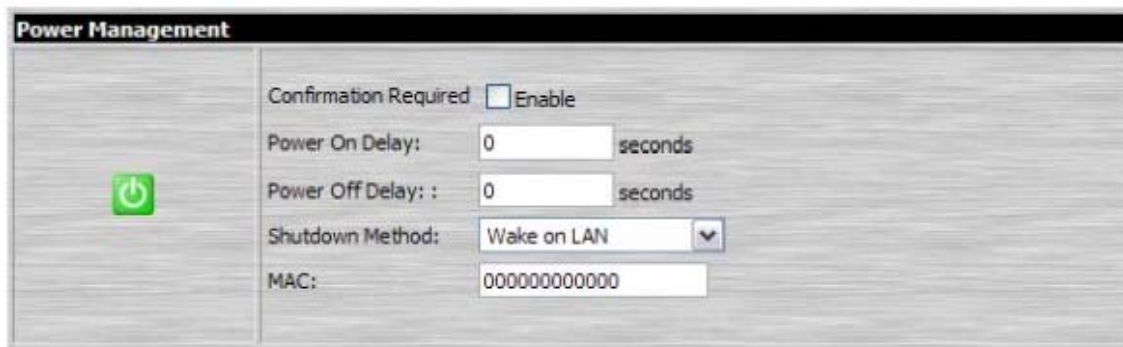
PON Device  Enable 2-Wire RS232

Download PON Client


Apply

## 電源管理

この項では、KN1000 の電源スイッチの電源管理セットアップについて説明します。



各項目の説明は下表の通りです。

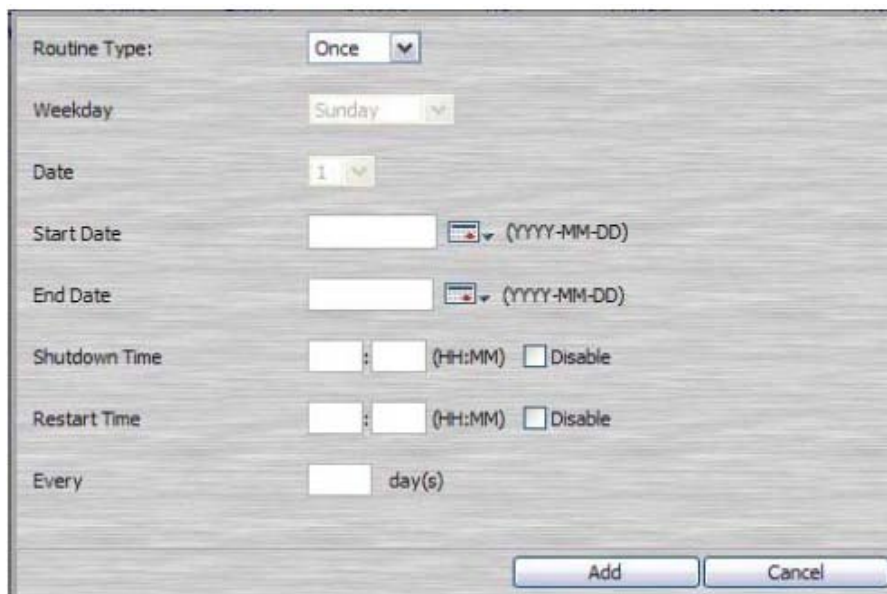
| 項目   | 説明   |
|--|--|
|  | このアイコンをクリックすると電源管理機能の ON/OFF ができます。このアイコンがグリーンである場合、電源は現在 ON であることを表します。   |
| 確認が必要  | このオプションが有効になっている(チェックボックスにチェックが入っている)場合、電源管理を実行する前に確認を促すダイアログボックスが表示されます。このオプションが無効になっている(チェックボックスにチェックが入っていない)場合、確認することなく操作を実行します。  |
| パワー ON 待機時間  | 電源ボタンをクリックされてから電源アウトレットへの電源が ON になるまでの KN1000 が待機する時間を設定します。<br><b>注意:</b> デフォルトの待機時間は 0 秒間で、最長は 999 秒間です。   |
| パワー OFF 待機時間   | 電源ボタンをクリックされてから電源アウトレットへの電源が OFF になるまでの KN1000 が待機する時間を設定します。<br>「System after AC Back」(下記参照)のオプションを選択している場合、待機時間を過ぎると、KN1000 は更に 15 秒間待機してからコンピューターをシャットダウンします。<br>デフォルトの待機時間は 15 秒間で、最長は 999 秒間です。 |

(表は次のページへと続きます。)

| 項目        | 説明   |
|-----------|--|
| シャットダウン方法 | <p>シャットダウンする方法は 3 通りあります。リストをドロップダウンして選択してください。各項目の意味は下記の通りです。</p> <p><b>Wake on LAN:</b> これはセーフシャットダウン/再起動するオプションです。これを選択し、電源アウトレットアイコンを OFF の状態にした場合、KN1000 はコンピューターのプログラムに対してシャットダウンのメッセージを送ります。セーフシャットダウンプログラムは、コンピューターにシャットダウンする命令を与えます。</p> <p>同様に、電源アウトレットが ON になった場合、KN1000 は「パワーON 待機時間」で設定した時間の間待機してから、電源アウトレットに接続されたコンピューターにコンピューターが電源 ON になる旨のイーサネットメッセージを送ります。</p> <p><b>System after AC Back:</b>「パワーOFF 待機時間」で設定した時間の間待機し、コンピューターへの電源供給を停止します。</p> <p>電源アウトレットが ON になった場合、KN1000 は「パワーON 待機時間」で設定した時間の間待機してから、コンピューターへ電源を供給します。コンピューターに電源が供給されると、コンピューターは起動します。</p> <p><b>注意:</b> セーフシャットダウン/再起動を行うには、コンピューターの OS が Windows98 以降、または Linux であり、「セーフシャットダウン」プログラム(弊社 Web サイトからダウンロード可能)がコンピューターにインストールされている必要があります。詳細は p.22 「システム要件」を参照してください。</p> <p><b>Kill the Power:</b> このオプションが選択されると、KN1000 は「パワーOFF 待機時間」で設定した時間の間待機した後、電源アウトレットを OFF にします。電源を OFF にしてコールド(非セーフ)シャットダウンを行います。</p> <p><b>注意:</b> サーバーの電源起動を行うには、サーバーの BIOS 設定が必要です。</p> |
| MAC       | 上記いずれかのセーフシャットダウンを行うには、電源アウトレットに接続されたコンピューターの MAC アドレスをここに入力してください。  |

## スケジュール

スケジュールセクションの「追加」ボタンをクリックすると、選択した電源アウトレットの電源 ON/OFF のスケジュール設定画面が表示されます。



---

**注意:** KN1000 には RTC (リアルタイムクロック) 回路が無いので、NTP サーバーまたはクライアント PC (システムのリセットまたは電源を失った後) から時刻を取得します。

---

各項目の説明は下記の通りです。

| 項目       | 説明   |
|----------|--|
| ルーティンタイプ | リストをドロップダウンして電源管理スケジュールを「1回のみ」、「毎日」、「毎週」または「毎月」のいずれかに設定してください。                       |
| 週日       | この欄は、ルーティンタイプで「毎週」を設定した場合に有効となります。「毎週」を選択した場合、リストをドロップダウンして、何曜日に電源管理作業を行うかを選択してください。 |
| 日付       | この欄は、ルーティンタイプで「毎月」を選択した場合に有効となります。「毎月」を選択した場合、リストをドロップダウンして、何日に電源管理作業を行うかを選択してください。  |
| 開始日      | 電源管理作業をある期間にだけ行うように設定する場合は、カレンダーアイコンから作業開始日を選択するか、「YYYY-MM-DD」の形式で作業開始日を入力してください。    |

(表は次のページに続きます。)

| 項目          | 説明   |
|-------------|--|
| 終了日         | 電源管理作業をある期間にだけ行うように設定する場合は、カレンダーアイコンから作業終了日を選択するか、「YYYY-MM-DD」の形式で作業終了日を入力してください。  |
| シャットダウン実施時刻 | シャットダウンを実行する時刻を「HH:MM」の形式で入力してください。<br>入力した時刻を消去せずにこの機能を一時的に無効にしたい場合は、この欄の右側にある「無効」のチェックボックスにチェックを入れてください。チェックを外すと、この機能がまた有効となります。 |
| 再起動実施時刻     | 再起動を実行する時刻を「HH:MM」の形式で入力してください。<br>入力した時刻を消去せずにこの機能を一時的に無効にしたい場合は、この欄の右側にある「無効」のチェックボックスにチェックを入れてください。チェックを外すと、この機能がまた有効となります。     |
| ～毎に         | この欄を使用して、「毎日」、「毎週」、「週間」ごとの作業時間を更に詳しく設定することができます。例えば、ルーティンタイプで「毎日」を設定した場合、この欄に「3」と入力すると、作業を毎日行うのではなく、3日毎に行うことができます。                 |

作業スケジュールを設定したら、「追加」をクリックしてください。作業スケジュールがパネルの下側にまとめられて表示されます。電源アウトレットのスケジュールを削除する場合は、リストから選択して、「削除」をクリックしてください。

| Select                           | Routine Type | Start Date | End Date | Day | Shutdown Time(HH:MM) | Restart Time(HH:MM) |
|----------------------------------|--------------|------------|----------|-----|----------------------|---------------------|
| <input checked="" type="radio"/> | Once         | 2011-05-12 | -----    | -   | 02:02                | 03:03               |
| <input type="radio"/>            | Once         | 2011-05-12 | -----    | -   | 02:02                | 03:03               |
| <input type="radio"/>            | Once         | 2011-07-08 | -----    | +   | 11:22                | -- : --             |
| <input type="radio"/>            | Once         | 2011-05-12 | -----    | -   | -- : --              | 03:05               |

## オート ping

この項目では、接続しているデバイスが正しく機能しているかどうかを確認する ICMP ネットワーク診断プログラム ping コマンドを使用することができます。この機能の詳細は下表の通りです。

| 項目        | 説明   |
|-----------|--|
| 有効        | この機能を有効にするには、このチェックボックスにチェックを入れてください。  |
| Ping アドレス | ネットワーク診断を行うデバイスの IP アドレスをこの欄に入力してください。   |
| インターバル    | この欄にはどのくらいのインターバル(秒)をおいてデバイスのネットワーク診断を行うかを設定します。設定可能なインターバルは 1～255 秒です。  |
| 失敗回数      | この欄ではアクション(下記参照)を起こす前にネットワーク診断に対する反応が何回まで失敗できるかを設定します。設定可能な回数は 1～99 回です。   |
| アクション     | この欄ではデバイスが設定された回数のネットワーク診断への反応に失敗した場合、どうするかを設定します。ドロップダウンメニューから以下のアクションを選択してください。<br><b>Eメール送信</b> :SMTP サーバー設定を使用して E メールを送信します。この機能を使用するには SMTP サーバーからの報告を有効にしなければなりません。詳細は p.57 「SMTP 設定」を参照してください。<br><b>電源アウトレット OFF/ON</b> : KN1000 の電源アウトレットへの電源をリセットします。<br><b>注意</b> :このアクションは確認を行ってから保存してください。<br><b>何もしない</b> :これを選択すると、デバイスがネットワーク診断への反応に失敗しても、何もしません。 |

**注意:** ネットワーク診断に失敗した場合、KN1000 は次の Ping 操作を実行する前に 5 分間待機します

## PON ポート設定

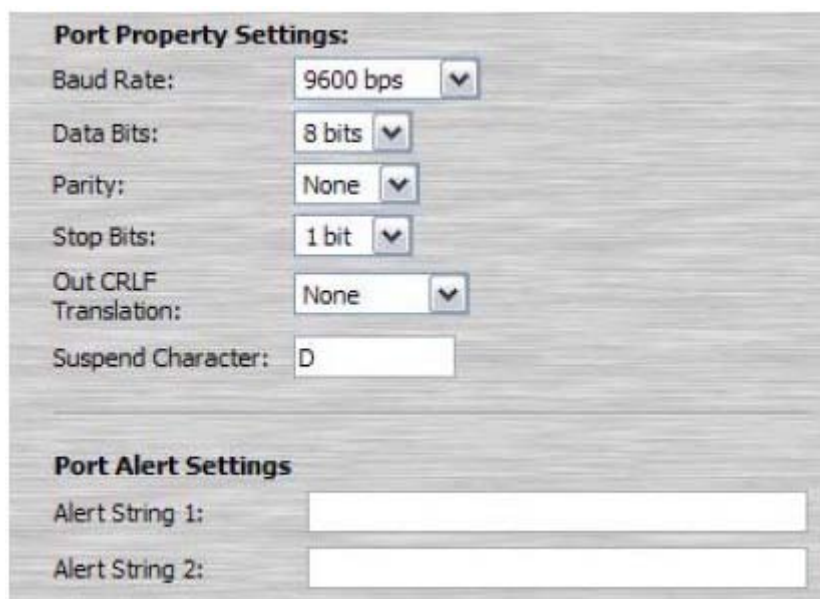
この項目では、KN1000 の PON(電源管理デバイス)ポートへの PN0108 (8 ポート Power Over the NET™ デバイス) または 2 ワイヤー RS-232 インターフェースデバイス接続が設定できます。

### PON デバイス

KN1000 の PON ポートに PN0108 (8 ポート Power Over the NET™ デバイス) を接続する場合、このラジオボタンを有効にしてください。Power Over the NET™ デバイスを本製品に接続して使用する場合、「PON クライアントのダウンロード」をクリックして、接続した電源管理デバイス用の KN1000 電源管理ソフトウェアをダウンロードしてください。

### 2 ワイヤー RS-232 の使用

PON ポートにシリアルコンソールを接続する場合、このラジオボタンを有効にしてください。このオプションが選択されると、下図のようなシリアル通信のパラメーターを設定するメニュー画面が表示されます。



The image shows two dialog boxes for configuring serial communication. The first is titled "Port Property Settings:" and contains the following fields:

- Baud Rate: 9600 bps (dropdown)
- Data Bits: 8 bits (dropdown)
- Parity: None (dropdown)
- Stop Bits: 1 bit (dropdown)
- Out CRLF Translation: None (dropdown)
- Suspend Character: D (text input)

The second dialog box is titled "Port Alert Settings" and contains two text input fields:

- Alert String 1: (empty text input)
- Alert String 2: (empty text input)

---

**注意:** この設定は KN1000 のシリアルコンソールでの設定と同様のものです。詳細は p.77 「コンソール管理」のシリアルコンソールの項目を参照してください。

---

両方のRS-232機能(2ワイヤーRS-232用PON及びシリアルコンソール用RS-232)が有効であり、Telnet/SSH接続がオープンとなっている場合、下図のようにポート1のシリアルコンソールか、またはポート2の2ワイヤーRS-232のどちらのシリアルコンソールが優先されるかを選択するメニュー画面が表示されます。



```
10.0.0.49 - PuTTY
Welcome to the ALTUSEN KN1000
ATEN International Co. Ltd. All rights reserved.
Login:administrator
Password:
                Choose Port Menu
=====
    1. Connect to Port 1
    2. Connect to Port 2
    Q. Logout

    Select one: █
```

## ユーザー設定

「ユーザー設定」メニューでは、「ビューワー」、「言語設定」、「パスワード変更」の3つのパラメーターを設定することができます。



この画面で設定できる内容は下表の通りです。

| 項目    | 説明  |
|-------|---|
| ビューワー | <p>サーバーにアクセスする際に使用するビューワーを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ <b>自動検出</b> - 使用ブラウザに適したビューワーを選択します。Windows Internet Explorer をお使いの場合は Windows クライアントが、その他のブラウザ (例: Firefox 等) をお使いの場合は Java クライアントがそれぞれ選択されます。</li><li>◆ <b>Java</b> - 使用ブラウザにかかわらず、Java ベースのブラウザを起動します。</li><li>◆ <b>ユーザー選択</b> - IE を使用しているユーザーは「自動検出」の設定を無視して、Windows クライアントか Java アプレットビューワーのいずれかを自分で選択することができます。</li></ul> <p>選択後、「適用」をクリックしてください。</p> |

(表は次のページに続きます。)

| 項目      | 説明   |
|---------|--|
| 言語設定    | <p>インターフェースの表示言語を選択します。ドロップダウンリストから適当な項目を選択してください。</p> <p>「Auto」を選択すると、KN1000 のメニューは Web ブラウザ側で設定されている言語で表示されます。</p> <p><b>注意:</b>お使いのブラウザが KN1000 に非対応の言語に設定されている場合には、KN1000 のメニューはサーバーの OS が使用している言語を使って表示されます。OS の使用している言語が KN1000 の対応言語である場合は、この言語を使って表示し、非対応言語である場合は、デフォルトである英語に設定されます。</p> <p>選択後、「適用」をクリックしてください。</p> |
| パスワード変更 | <p>パスワードを変更する場合は、新しいパスワードを「新パスワード」欄に、またこのパスワードと同じ文字列を「確認用パスワード」欄にそれぞれ入力し、「パスワード変更」ボタンをクリックして新しいパスワードを設定してください。</p>   |

# 第4章 管理メニュー

## はじめに

KN1000 の Web 画面上部に横一列に表示されている管理ユーティリティを使用して、KN1000 の操作環境を設定することができます。



本章では各アイコンについて順に説明していきます。

- 注意:**
1. 各画面で設定内容を変更した場合は、最後に「適用」ボタンをクリックして変更内容を適用してください。
  2. 設定内容によっては変更後に KN1000 をリセットする必要があります。この場合、「終了時にリセット」の項目に自動的にチェックが入ります (p.85 「カスタマイズ」参照)。変更内容をお使いの環境に反映させる場合は、一度 KN1000 からログアウトしてから再度ログインしてください。
  3. KN1000 の設定権限が無い場合、設定メニューはご利用いただけません (p.74 「ユーザー管理」参照)。

## デバイス情報

「デバイス情報」メニューは、KN1000 の管理メニューの一番左側に位置し、KN1000 の状態に関する基本情報を提供します。

|                                      |                         |
|--------------------------------------|-------------------------|
| <b>Device Name:</b>                  | KN1000                  |
| <b>MAC Address:</b>                  | 00-10-74-61-01-EF       |
| <b>Firmware Version:</b>             | V1.0.060                |
| <b>IPv4 address:</b>                 | 172.17.17.10            |
| <b>DNS:</b>                          | 0.0.0.0                 |
| <b>IPv6 address:</b>                 | fe80::210:74ff:fe61:1ef |
| <input type="button" value="Apply"/> |                         |

このメニューの各項目の内容は下記の通りです。

| 項目           | 説明  |
|--------------|---|
| デバイスネーム      | 複数の KN1000 を導入している場合、システムの管理を容易にするため、個々のユニットに名前を付けることができます。KN1000 に名前を付ける場合はこの欄に入力してから「適用」ボタンをクリックしてください(半角英数字最大 16 文字で設定できます)。               |
| MAC アドレス     | KN1000 の MAC アドレスを表示します。  |
| ファームウェアバージョン | KN1000 の現在のファームウェアバージョンを表示します。KN1000 の新しいバージョンのファームウェアは弊社 Web サイトからダウンロードしてご利用いただけます(p.90 「F/W」参照)。新しいバージョンのファームウェアを入手する場合、このバージョン情報をご確認ください。 |
| IPv4 アドレス    | KN1000 の IPv4 (32 ビット) アドレス(レガシーフォーマット)を表示します。  |
| DNS          | ドメインネームサーバーの IP アドレスを表示します。   |
| IPv6 アドレス    | KN1000 の IPv6 (128 ビット) アドレス(新フォーマット)を表示します。詳細は p.177 「IPv6」を参照してください。  |

## ネットワーク

「ネットワーク」メニューでは KN1000 のネットワーク環境を設定します。

| Service Ports |     |                |      |
|---------------|-----|----------------|------|
| HTTP:         | 80  | Program:       | 9000 |
| HTTPS:        | 443 | Virtual Media: | 9003 |
| Telnet Port:  | 23  | SSH Port:      | 22   |

| IP Address  |               |
|---|---------------|
| <input type="radio"/> Obtain IP address automatically [DHCP]        |               |
| <input checked="" type="radio"/> Set IP address manually [Fixed IP] |               |
| IP Address:   | 172.17.17.10  |
| Subnet Mask:  | 255.255.255.0 |
| Default Gateway:  | 172.17.17.1   |

| DNS Server   |             |
|--|-------------|
| <input type="radio"/> Obtain DNS server address automatically    |             |
| <input checked="" type="radio"/> Set DNS server address manually |             |
| Preferred DNS server:  | 172.17.1.23 |
| Alternate DNS server:  |             |
| Network Transfer Rate:   | 99999 KBps  |

Apply

## サービスポート

システムにファイアーウォールが導入されている場合、管理者はファイアーウォールの設定で許可されたポート番号を KN1000 側でも設定する必要があります。デフォルト以外のポートが設定されている場合、ユーザーはログインの際に IP アドレスの一部としてポート番号を入力しなくてはなりません。入力するポート番号が正しくなかったり、入力されていなかったりすると、KN1000 を検索しても表示されません。

各項目の内容は下記の通りです。

| 項目         | 説明                                      |
|------------|---|
| HTTP       | ブラウザログインの際に使用するポート番号です。デフォルトは 80 です。    |
| HTTPS      | SSL 通信に使用するポート番号です。デフォルトは 443 です。       |
| Telnet ポート | Telnet でのアクセスに使用するポート番号です。デフォルトは 23 です。 |

(表は次のページに続きます。)

| 項目        | 説明   |
|-----------|--|
| プログラム     | Windows クライアントや Java アプレットビューワー、または Windows/Java アプリケーションプログラムから KN1000 に接続する際に使用するポート番号です。デフォルトは 9000 です。 |
| バーチャルメディア | KN1000 のバーチャルメディア機能を使用したデータ転送を行う際に使用するポートです。有効な値の範囲は 1～65535 で、デフォルトは 9003 です。                             |
| SSH ポート   | SSH によるアクセスで使用するポートです。デフォルトは 22 です。  |

- 注意:**
1. 各サービスポートで有効な値は 1～65535 です。
  2. これらのポートは固有のポートを割り当て、項目間で値が重複しないように設定してください。
  3. イン트라ネット等ファイアーウォールが使用されていない環境(例: イン트라ネット等)であれば、この項目にどんな値を設定してもお使いの環境には反映されません。

## IP アドレス

KN1000 はデフォルトで起動時に動的 IP アドレスが割り当てられます (DHCP) が、固定アドレスを指定することも可能です。

- ◆ 動的 IP アドレスを取得するには、「IP アドレスを自動的に取得 [DHCP]」のラジオボタンを選択してください (デフォルト設定)。
- ◆ 固定 IP アドレスを使用する場合は、「IP アドレスを手動で設定 [固定 IP]」のラジオボタンを選択し、設定したい IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの値をそれぞれ入力してください。

- 注意:**
1. 「IP アドレスを自動的に取得 [DHCP]」の項目が選択されていると、KN1000 の起動時に DHCP サーバーから IP アドレスが割り当てられるのを待機します。1 分間待機しても IP アドレスが割り当てられない場合には、工場出荷時のデフォルト IP アドレス「192.168.0.60」が自動的に割り当てられます。
  2. KN1000 が DHCP アドレスを割り当てるネットワークに接続されていて、なおかつ IP アドレスを確認する必要がある場合は、p.174 「IP アドレスの設定」を参照してください。

## DNS サーバー

KN1000 は DNS サーバーのアドレスを自動でも手動でも設定することができます。

- ◆ DNS サーバーのアドレスを自動的に設定する場合は、「DNS サーバーアドレスを自動的に取得する」のラジオボタンを選択してください。
- ◆ DNS サーバーのアドレスを手動で設定する場合は、「DNS サーバーアドレスの手動設定」のラジオボタンを選択し、DNS サーバーの IP アドレスを入力してください。

---

**注意：** 代替 DNS サーバーのアドレス設定はオプションです。

---

## ネットワーク転送速度

この項目ではリモートコンピューターに対する KN1000 のデータ転送速度を設定することによって、ネットワークのトラフィック状況に合うように転送データのサイズを調整することができます。設定できる値の範囲は 4～99999KBps です。

## 変更内容の確定

ネットワークの設定内容を変更したら、ログアウトする前に「カスタマイズ」メニューの「終了時にリセット」(p.85 「カスタマイズ」参照)が有効(チェックが入っている)ことを確認してください。これによって、KN1000 を再起動することなく、ネットワークの設定をデバイスに反映することができます。

## ANMS

---

ANMS(Advanced Network Management Settings)メニューでは、外部システムからのログイン認証及び権限管理に関する設定を行います。このメニューは複数のカテゴリから構成されています。各カテゴリの内容については後のセクションで説明します。

### IP インストーラー

IP インストーラーは KN1000 に外部から IP アドレスを設定することのできる Windows 用ソフトウェアです。



IP インストーラーの用途に応じて、「有効」、「参照のみ」、「無効」のいずれかのラジオボタンをクリックしてください。IP インストーラーの詳細は p.174 を参照してください。

- 
- 注意:**
1. 「参照のみ」を選択した場合、KN1000 は IP インストーラーのデバイスリストで確認することができますが、この IP インストーラーから IP アドレスを変更することはできません。
  2. セキュリティを保護するために、IP インストーラーの使用後には、この項目を「参照のみ」または「無効」に設定することを強く推奨します。
-

## SMTP 設定

The screenshot shows the 'SMTP Settings' configuration window. It includes a title bar, a checkbox to 'Enable report from the following SMTP server', an input field for 'SMTP Server', a checkbox for 'Server requires authentication', input fields for 'Account Name' and 'Password', input fields for 'From' and 'To', and four checkboxes for reporting options: 'Report IP address', 'Report system reboot', 'Report user login', and 'Report user logout'.

SMTP サーバーから KN1000 のメールレポートを受信するには、下記の手順に従って設定を行ってください。

1. 「SMTP サーバーからのレポートを有効にする」の項目にチェックを入れて、お使いの SMTP サーバーの IP アドレスを入力してください。
2. サーバーで認証が必要な場合は、「サーバー認証が必要」の項目にチェックを入れて、「アカウントネーム」と「パスワード」の各欄にお使いの環境に適した値を設定してください。

3. レポートの差出人となるメールアドレスを「From」欄に入力してください。

---

**注意:** 1. 「From」欄に設定できるメールアドレスは1つだけです。64 バイト以内で設定してください。

2. 1 バイトは半角英字 1 文字に相当します。
- 

4. レポートの宛先となるメールアドレスを「To」欄に入力してください。

---

**注意:** 1. 複数の宛先にレポートを配信する場合は、アドレスをセミコロンで区切ってください。また宛先のアドレス全体で 256 バイト以内になるように設定してください。

2. 1 バイトは半角英字 1 文字に相当します。
- 

5. レポート送信のオプションを「Report IP address」、「Report system reboot」、「Report user login」、「Report user logout」から選択してください。

## ログサーバー

ログイン等 KN1000 の内部で発生した重要なイベントや内部ステータスメッセージは、自動生成されたログファイルに保存されます。



- ◆ ログサーバーが動作しているコンピューターの MAC アドレスを「MAC アドレス」欄に入力してください。
- ◆ ログサーバーが動作しているコンピューターがログデータをリッスンしているポートの番号を「サービスポート」欄に入力してください。入力可能な値の範囲は 1～65535 で、デフォルトでは 9001 に設定されています。

---

**注意:** このポート番号は「プログラム」で指定されたポートとは別のポートを使用してください(p.54 「プログラム」参照)。

---

ログサーバーのセットアップ方法については第 8 章を参照してください。ログファイルについては p.147 で説明しています。

## SNMP サーバー



SNMPトラップイベントの通知を受ける場合は、下記の手順に従って設定を行ってください。

1. 「SNMP エージェントの有効化」の項目にチェックを入れてください。
2. SNMPトラップイベントの通知を受けるコンピューターの IP アドレスとポート番号を入力してください。ポート番号の有効な値の範囲は 1～65535 です。

---

**注意:** この機能を有効にすると、システムの電源投入時、ログイン失敗時、システムリセット時にそれぞれ SNMPトラップ通知されます。

---

## Syslog サーバー



KN1000 で発生した全イベントを記録し、Syslog サーバーに書き込む場合は、下記の手順に従って設定してください。

1. 「有効」の項目にチェックを入れてください。
2. Syslog サーバーの IP アドレスとポート番号を入力してください。ポート番号の有効な値の範囲は 1～65535 です。

## DDNS



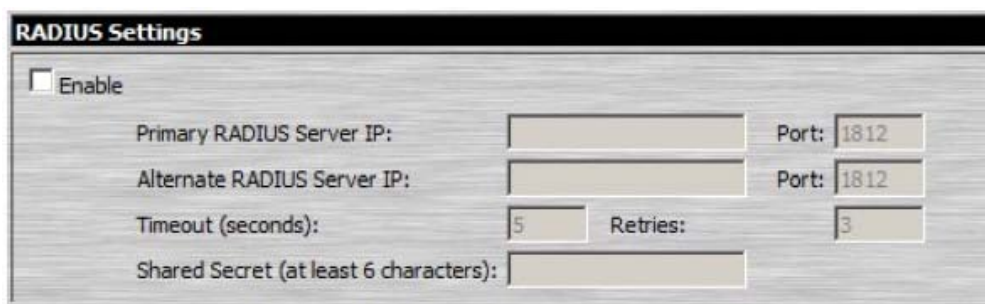
DDNS メニューでは、DHCP サーバーによってホストネームに割り当てられる動的 IP アドレスをホストネームにマッピングすることができます。KN1000 の DDNS 機能を有効にする場合は、下記の手順に従って設定を行ってください。

1. 「有効」の項目にチェックを入れてください。
2. DDNS サービスプロバイダーで登録したホストネームを入力してください。
3. 登録に使用した DDNS サービスをドロップダウンリストから選択してください。
4. DDNS サービスの認証に使うユーザーネームとパスワードを入力してください。
5. KN1000 の IP アドレスが変更された場合は、新しいアドレスがそのホストネームと正しく結びつくように DDNS サーバーを更新する必要があります。DDNS サーバーの更新に失敗した場合は、しばらく経ってから再試行する必要があります。DHCP サーバーの更新を再試行する前に待機する時間を「DDNS 再試行時間」の欄に入力してください。

## ローカル認証の無効化

このオプションを選択すると、KN1000 のローカルログイン認証を無効にします。ローカル認証が無効になると、LDAP、LDAPS、Active Directory、RADIUS、CC 統合管理ソフトウェアを使って認証する必要があります。

## RADIUS 設定



KN1000 の認証及び権限設定を RADIUS サーバー経由で行う場合、下記の手順に従って設定を行ってください。

1. 「有効」の項目にチェックを入れてください。
2. 「プライマリ RADIUS サーバー IP」の項目にプライマリ RADIUS サーバーの IP アドレスとポート番号を、「代替 RADIUS サーバー IP」の項目に代替 RADIUS サーバーの IP アドレスとポート番号をそれぞれ設定してください。
3. 「タイムアウト(秒)」の欄に KN1000 における RADIUS サーバーからの応答待機時間(秒)を入力してください。
4. 「再試行」の欄に RADIUS 認証の再試行可能回数を入力してください。
5. 「共有シークレット(6 文字以上)」の欄に KN1000 と RADIUS サーバー間の認証で使用する共有シークレットの文字列を入力します。
6. RADIUS サーバー側で KN1000 操作権限に関するパラメーターを設定する場合は、下表を参考にしてください。

| パラメーター | 内容   |
|--------|--|
| c      | ユーザーにアドミニストレーター権限を与えます。ユーザーは KN1000 のシステム設定を行うことができます。 |
| w      | ユーザーに KN1000 の Windows クライアントの使用を許可します。                |
| j      | ユーザーに Java アプレットの使用を許可します。                             |

(表は次のページに続きます。)

| パラメーター  | 内容   |
|---------|--|
| p       | ユーザーに PN0108 経由での電源の ON/OFF 操作及び機器のリセットを許可します。   |
| l       | ユーザーに Web ブラウザ上での KN1000 のアクセスログ情報の閲覧を許可します。   |
| v       | ユーザーにビデオ出力の参照のみ許可します。  |
| s       | ユーザーにバーチャルメディア機能を読み取りモードで使用することを許可します。   |
| m       | ユーザーにバーチャルメディア機能を読み取り/書き込みモードで使用することを許可します。  |
| t       | ユーザーに Telnet セッション経由でのアクセスを許可します。  |
| h       | ユーザーに SSH セッション経由でのアクセスを許可します。   |
| a       | ユーザーに Telnet または SSH セッション経由でのアクセスを許可します。  |
| su/user | 「user」の部分は KN1000 のユーザーネームを表しています。この KN1000 ユーザーパーミッションは RADIUS サーバーで権限設定されたユーザーに付与したいパーミッションを反映します。 |

- 注意:**
1. 入力したパラメーターの大文字/小文字は区別されませんので、どちらで入力していただいても結構です。
  2. 複数のパラメーターを指定する場合はコンマ「,」で区切ってください。

## パラメーター入力例

RADIUS サーバーのアクセス権の設定例は下表の通りです。

| パラメーター | 内容  |
|--------|---|
| c,w,p  | ユーザーにはアドミニストレーター権限・Windows クライアントの使用権限・PN0108 の使用権限が与えられます。 |
| w,j,l  | ユーザーには Windows クライアントの使用権限・Java クライアントの使用権限・ログ閲覧権限が与えられます。  |

## CC 統合管理



KN1000 の認証を CC (コントロールセンター) サーバー経由で行う場合は、このセクションにある「有効」の項目にチェックを入れて、「CC サーバーIP」及び「ポート」の項目に必要な事項を入力してください。

## LDAP 設定

KN1000 では外部プログラムを使用してログイン認証や権限設定を行うことができます。LDAP や LDAPS 経由して認証や権限設定を行うには、KN1000 の拡張属性ネームである「KN1000-accessRight」が「person」クラスにオプションの属性が追加されるように Active Directory の LDAP スキーマを拡張しなければなりません。

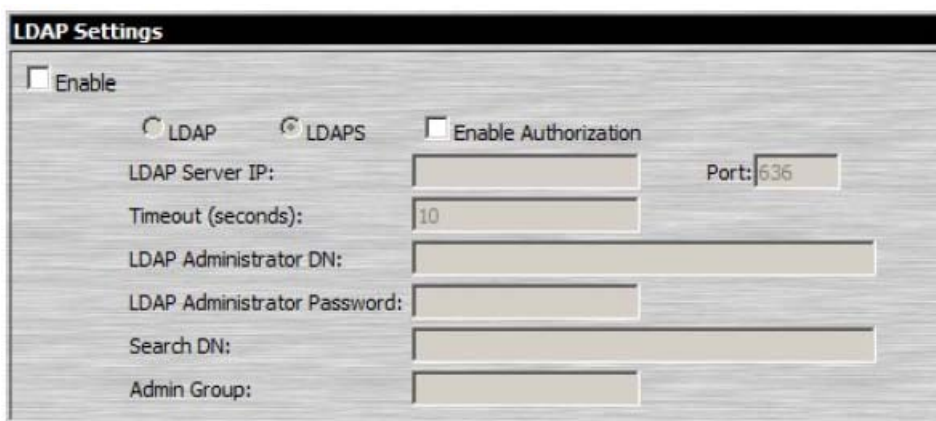
---

**注意:** 「authentication(認証)」とはログインしているユーザーが本当に存在するかを確認することを、「authorization(認可)」とはユーザーに対してデバイスの様々な機能の使用権限を定義することを指します。

---

LDAP サーバーを設定するには、下記の手順に従ってください。

1. Windows サーバーサポートツールをインストールしてください。
2. Active Directory スキーマスナップインをインストールしてください。
3. Active Directory スキーマを拡張及び更新を行ってください。



KN1000 の認証及び権限設定を LDAP や LDAPS で行う場合は、下表を参照してください。詳細は弊社の Web サイトをご覧ください。

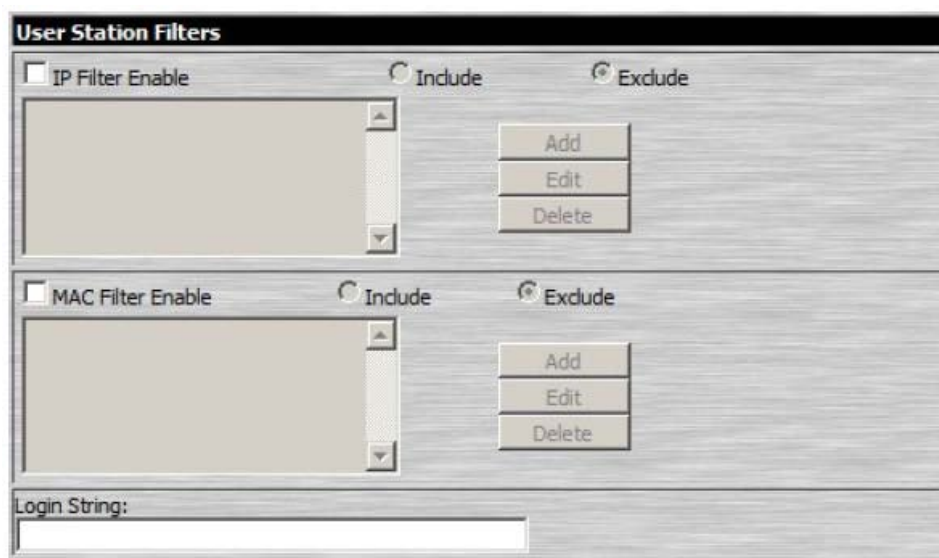
| 項目                                | 説明   |
|-----------------------------------|--|
| 有効                                | LDAP/LDAPS による認証及び権限設定を行う場合は、この項目にチェックを入れてください。  |
| LDAP/LDAPS                        | この機能を有効にした時に、LDAPとLDAPSのどちらを使うかをラジオボタンで選択してください。   |
| 認証の有効化                            | <p>この項目を有効にするかどうかを選択してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>この項目を有効にする(チェックを入れる)と、LDAP/LDAPS サーバーは現在ログインしようとしているユーザーの権限属性を応答します。この項目を選択すると、LDAP のスキーマを拡張する必要があります。</li> <li>この項目が有効になっていない(チェックが入っていない)場合、LDAP サーバーは現在ログインしようとしているユーザーが「管理グループ」に属しているかどうかという情報のみを応答します。結果が「yes」の場合、そのユーザーはKN1000 に対してフルアクセス権限を有します。結果が「no」の場合、ユーザーは限られたアクセス権限しかないことを表します。</li> </ol> <p><b>注意:</b>この機能を有効にするかどうかは、LDAP/LDAPS サーバー管理者までお問い合わせください。</p> |
| LDAP サーバー<br>IP ポート               | LDAP サーバーまたは LDAPS サーバーの IP アドレスとポート番号を入力してください。LDAP サーバーのデフォルトポート番号は 389、LDAPS サーバーのデフォルトポート番号は 636 です。   |
| タイムアウト(秒)                         | KN1000 が LDAP サーバーまたは LDAPS サーバーからの応答を待機する秒数を設定してください。   |
| LDAP<br>Administrator<br>DN       | この項目は LDAP サーバーまたは LDAPS サーバーの管理者に確認して設定してください。以下、設定例です。<br>例: kn=LDAPAdmin,ou=kn1000,dc=aten,dc=com   |
| LDAP<br>Administrator<br>Password | LDAP サーバー管理者のパスワードを入力してください。   |

(表は次のページに続きます。)

| 項目     | 説明  |
|--------|---|
| サーチ DN | <p>サーチベースの識別名 (DN) を設定してください。これはユーザーネームの検索開始位置となるドメイン名です。</p> <p><b>注意:</b>「認証の有効化」の項目にチェックが入っていない場合、この項目は「管理グループ」が作成された場所を表すエントリを含む必要があります。設定する値については LDAP/LDAPS サーバー管理者までお問い合わせください。</p>  |
| 管理グループ | <p>KN1000 の管理ユーザーのグループ名を入力してください。</p> <p><b>注意:</b>「認証の有効化」の項目にチェックが入っていない場合、この項目を使ってログインユーザーの権限設定を行うことができます。ユーザーがこのグループに属している場合、そのユーザーにはフルアクセス権が付与されます。ユーザーがこのグループに属していない場合、そのユーザーには限定されたアクセス権しか与えられません。設定する値については LDAP/LDAPS サーバー管理者までお問い合わせください。</p> |

## セキュリティ

「セキュリティ」メニューでは外部から KN1000 に対するアクセスを管理します。



### ステーションフィルター

フィルターは設定されると、IP フィルターの場合は上部のリストボックスに、MAC フィルターの場合は下部のリストボックスにそれぞれ表示されます。

IP フィルター/MAC フィルター機能は KN1000 への接続を試みるコンピューターの IP アドレスや MAC アドレスに基づいて、このユニットへのアクセスを制御するものです。フィルターは IP フィルター、MAC フィルターそれぞれ最大で 100 項目作成することができます。

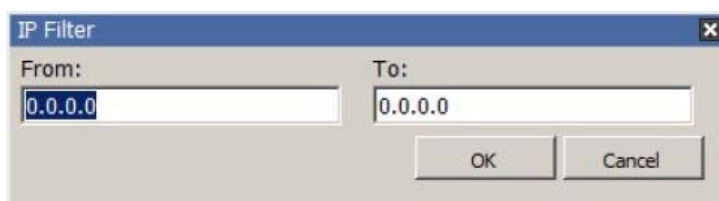
IP フィルター機能を有効にする場合は、「IP Filter Enable」の項目に、MAC フィルター機能を有効にする場合は「MAC Filter Enable」の項目にそれぞれ**チェックを入れてください**。

- ◆ 「許可」ラジオボタンが選択されている場合は、指定のアドレスもしくは指定範囲内のアドレスからの KN1000 へのアクセスを許可します。それ以外のアドレスからのアクセスは全て拒否されます。
- ◆ 「除外」ラジオボタンが選択されている場合は、指定のアドレスもしくは指定範囲内のアドレスからの KN1000 へのアクセスを拒否します。それ以外のアドレスからのアクセスは全て許可されます。

## フィルター項目の追加

IP アドレスのフィルター項目は下記の手順で追加してください。

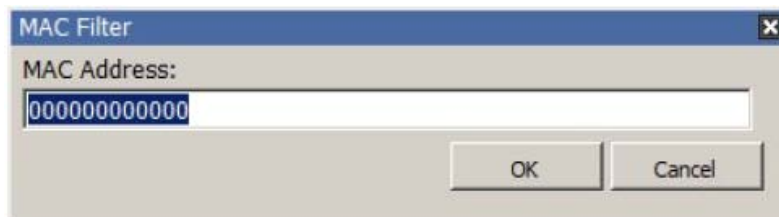
1. 「追加」ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると下図のようなダイアログが表示されます。



2. フィルタリングの対象となる IP アドレスを入力してください。
  - ◆ IP アドレスが 1 つだけの場合は、「From」欄と「To」欄に同じ IP アドレスを入力してください。
  - ◆ 複数の IP アドレスの範囲を指定する場合は、その範囲の始点となる IP アドレスを「From」欄に、終点となる「To」欄にそれぞれ入力してください。
3. IP アドレスを入力したら「OK」ボタンをクリックしてください。
4. 他にもフィルター項目がある場合は、上記手順を繰り返して設定してください。

MAC アドレスのフィルター項目は下記の手順で追加してください。

1. 「追加」ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると下図のようなダイアログが表示されます。



2. MAC アドレスを入力したら「OK」ボタンをクリックしてください。
3. 他にもフィルター項目がある場合は、上記手順を繰り返して設定してください。

## IP フィルターと MAC フィルターが一致しない場合

あるコンピューターが IP アドレスによるフィルタリングではアクセスが許可されているにもかかわらず、MAC アドレスによるフィルタリングではアクセスが禁止されているといったように、フィルタリングの内容に矛盾がある場合、そのコンピューターからのアクセスはブロックされます。

つまり、IP フィルターと MAC フィルターのいずれかがアクセス禁止と設定されている場合は、設定内容にかかわらず、そのコンピューターからのアクセスがブロックされます。

## フィルターの変更

フィルターを変更する場合は、対象となる項目を IP フィルターリスト、または MAC フィルターリストのボックスから選択し、「編集」ボタンをクリックしてください。フィルター追加時に表示されるダイアログと同様のダイアログが表示されますので、新しいアドレスに変更してください。

## フィルターの削除

フィルターを削除する場合は、対象となる項目を IP フィルターリスト、または MAC フィルターリストのボックスから選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。

## ログイン文字列

この項目では、ユーザーが KN1000 にブラウザでアクセスする際に、IP アドレスに追加するページ名 (ログイン文字列) を設定します。例えば、KN1000 の IP アドレスが「192.168.0.126」で、このログイン文字列を「KN1000」と設定している場合、URL バーには「192.168.0.129/KN1000」というアドレスを入力してアクセスします。

- ◆ この文字列には半角文字を使用してください。入力可能な文字の種類は下記の通りです。

0-9 a-z A-Z ~!@\$%^&\*()\_+ '-=[ ]{}; '<> , . |

- ◆ ログイン文字列には、下記の文字は使用できません。

- % ” : / ? # \ 及び半角スペース

- アクセント付き文字や複合文字 (É Ç ñ 等)

---

**注意:**

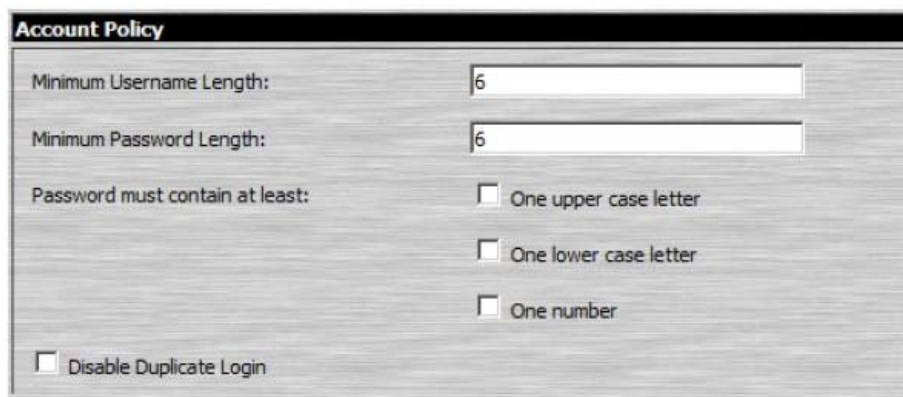
1. IP アドレスとログイン文字列は半角スラッシュ「/」で区切ってください。
2. この文字列を設定していないと、KN1000 の IP アドレス単独で誰でも簡単にアクセスできるので、お使いのシステムが危険な状態にさらされるおそれがあります。

---

セキュリティを維持するために、この文字列を定期的に変更されることを推奨します。

## アカウントポリシー

システム管理者はこのセクションでユーザーネームやパスワードの管理ポリシーを設定することができます。



このセクションにおける設定項目は下表の通りです。

| 項目                 | 説明   |
|--------------------|--|
| ユーザーネーム<br>最小文字数   | ユーザーネームの設定に最低限入力が必要な文字数を設定します。設定できる値は 1～16 です。デフォルトでは 6 に設定されています。   |
| パスワード最小<br>文字数     | パスワードの設定に最低限入力が必要な文字数を設定します。設定できる値は 1～16 です。0 を設定した場合は、パスワードの入力が不要になり、ユーザーはユーザーネームだけでログインできるようになります。デフォルトでは 6 に設定されています。   |
| パスワードには<br>以下が必要です | これらの項目にチェックを入れると、パスワードに含めなければならない文字の条件を追加することができます。<br>大文字 1 文字 - 半角英字の大文字を 1 文字以上入力<br>小文字 1 文字 - 半角英字の小文字を 1 文字以上入力<br>数字 1 文字 - 半角数字を 1 文字以上入力<br><b>注意:</b> このポリシーは既存のユーザーアカウントには適用されません。有効後にユーザーを作成したり、パスワードを変更したりした場合にこのポリシーが適用されます。 |
| 二重ログインの<br>無効化     | 同一アカウントによる同時ログインを許可しない場合は、この項目にチェックを入れてください。   |

## ログイン失敗回数

セキュリティを強化するために、このセクションではユーザーのログイン失敗を処理する際に適用されるポリシーを設定することができます。

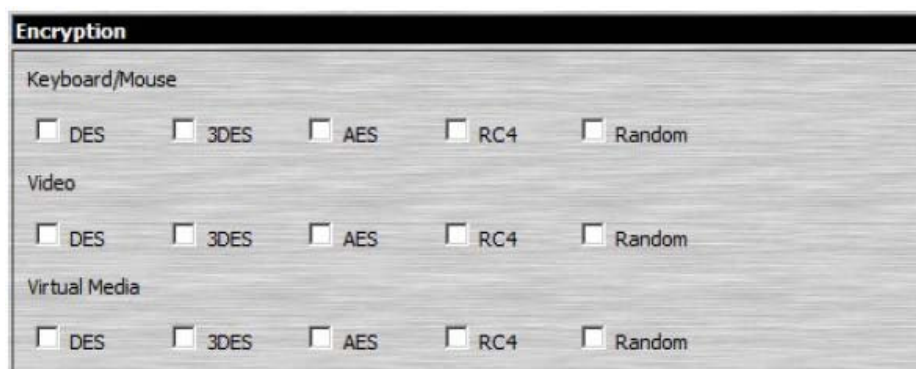


これらのポリシーを設定する場合は、「有効」の項目にチェックを入れてください(デフォルトではこの項目にチェックが入っています)。各項目が表す内容は下表の通りです。

| 項目          | 説明   |
|-------------|--|
| 許可          | リモートコンピューターからのログイン連続試行可能回数を設定します。デフォルトでは5回に設定されています。   |
| タイムアウト      | ログイン連続試行回数を超過してしまった場合に、次のログインを行うまでに待機しなければならない時間を設定します。デフォルトでは3分に設定されています。   |
| ロッククライアントPC | この項目にチェックが入っていると、ログイン連続試行回数を超過してしまった場合に、そのコンピューターは自動的に締め出され、そのコンピューターからのログインは拒否されてしまいます。デフォルトではこの項目にチェックが入っています。<br><b>注意:</b> この機能はクライアントコンピューターのIPアドレスに基づいて処理されています。IPアドレスが変更されると、このコンピューターはロックされなくなります。 |
| ロックアカウント    | この項目にチェックが入っていると、ログイン連続試行回数を超過してしまった場合に、そのアカウントは自動的に締め出され、そのアカウントからのログインは拒否されてしまいます。デフォルトではこの項目にチェックが入っています。   |

**注意:** このセクションの項目を設定していないと、ユーザーは無制限で何度でもログインを試行することが可能になってしまいます。セキュリティを維持するためにも、この機能を有効にし、ロックアウトポリシーを設定されることを推奨します。

## 暗号化



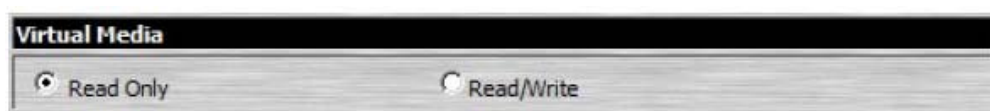
本製品では、キーボード/マウス、ビデオ、バーチャルメディアデータの各信号を柔軟に暗号化できるオプションを提供しており、いずれの信号もそれぞれ DES、3DES、AES、RC4、ランダムを自由に組み合わせて設定することができます。

暗号化を有効にするとシステムのパフォーマンスに影響を及ぼします。システムは暗号化が設定されていない場合に最も高いパフォーマンスを提供しますが、暗号化を強化すればするほど、パフォーマンスは低下します。暗号化を有効にする場合は、パフォーマンスに与える影響を一読の上、お使いの環境に最適な設定を行ってください。注意点は下記の通りです。

- ◆ パフォーマンスに与える影響が最も少ない暗号化は RC4 で、その後は DES、3DES、または AES の順に影響が大きくなります。
- ◆ 複数の暗号化を組み合わせて使う場合、最もシステムに与える影響が小さい組み合わせは RC4 と DES です。

## バーチャルメディア

KN1000 のバーチャルメディア機能は、ユーザーシステム側のドライブ、フォルダー、イメージファイル、リムーバブルディスク、スマートカードリーダーをリモートサーバー側にマウントさせて使用することができます。



- ◆ 「読取専用」のラジオボタンを選択した場合、リダイレクトされたデバイスからリモートサーバーにデータを送出することはできますが、リモートサーバーのデータをそのデバイスに書き込むことはできません。この項目が選択されている場合には、読み取り/書き込み権限を持っているユーザーも読み取りのみが可能となり、書き込みを行うことはできません。
- ◆ 「読込/書込」のラジオボタンを選択した場合、リダイレクトされたデバイスからリモートサーバーへのデータ送付と、そのデバイスへのリモートサーバーのデータ書き込みが可能です。

デフォルトでは「読取専用」が選択されています。リダイレクトされたデバイスへの書き込みとこのデバイスからの読み込みの両方を行う場合は、「読込/書込」のラジオボタンを選択してください。

- 
- 注意:**
1. このポリシーはデバイスレベルで作用します。「読取専用」の項目が選択されていると、ユーザーアカウントに与えられた読み取り/書き込みの権限にかかわらず、読み取りしかできなくなります。
  2. 「読込/書込」の項目が選択されている場合、ユーザーの書き込み権限は元々このアカウントに与えられた読み取り/書き込み権限によって決定されます。
-

## プライベート認証

SSL 接続でログインすると、ユーザーが意図するサイトにログインしようとしているかどうかを検証するために署名済み証明書が使われます。デフォルトの ATEN 証明書を使うのではなく、このセクションで自分のプライベート暗号キーと署名済み証明書を使うように設定することで、セキュリティを強化することができます。



プライベート証明書を発行するには、自己署名された証明書を作成する方法と、サードパーティーの証明局(CA)によって署名された証明書をインポートする方法の2つの方法があります。

### 自己署名済証明書の作成

自己署名済証明書を作成する場合は、「openssl.exe」というフリーツールをインターネットでダウンロードして使うことができます。OpenSSL を使って自身のプライベートキーと SSL 証明書を作成する方法の詳細については、p.188「自己署名(プライベート)証明書」を参照してください。

### CA 署名済 SSL サーバー証明書の取得

セキュリティを強化するために、サードパーティーの認証局(CA)によって署名された証明書を使うことを推奨します。サードパーティーによって署名された証明書を取得する場合は、認証局の Web サイトにアクセスし、SSL 証明書を申請してください。CA から証明書が送られてきたら、お使いのコンピューターのハードディスクドライブの適切なフォルダーに保存してください。

### プライベート証明書のインポート

プライベート証明書をインポートする場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「プライベートキー」の隣にある「参照」ボタンをクリックして、ダイアログからプライベート暗号キーのファイルがあるフォルダーに移動し、このファイルを選択してください。
2. 「証明書」の隣にある「参照」ボタンをクリックして、ダイアログから証明書のファイルがあるフォルダーに移動し、このファイルを選択してください。
3. 「アップロード」ボタンをクリックして操作を完了してください。

---

**注意:** プライベート暗号キーと署名済証明書は同時にインポートしてください。

---

## その他



- ◆ 「ブラウザサービス」の項目にチェックを入れると、アドミニストレーターはKN1000 へのブラウザアクセスの制限レベルを設定することができます。この機能を有効にする場合は、チェックボックスにチェックを入れて、お使いの環境に適した制限内容をドロップダウンリストから選択してください。リストから選択できる内容は下表の通りです。

| 項目               | 説明   |
|------------------|--|
| ブラウザの無効化         | この項目が選択されていると、ブラウザを使って KN1000 にアクセスすることができなくなります。この場合、KN1000 には専用アプリケーション (p.156 「アプリケーションの操作」参照) からのアクセスのみ可能になります。    |
| HTTP の無効化        | この項目が選択されていると、ブラウザを使って KN1000 にアクセスすることはできませんが、通常のログイン接続 (HTTP 使用) ではアクセスすることはできません。HTTPS を使った SSL 接続によるアクセスのみ可能になります。 |
| HTTPS (SSL) の無効化 | この項目が選択されていると、ブラウザを使って通常のログイン接続 (HTTP 使用) で KN1000 にアクセスすることはできませんが、HTTPS を使った SSL 接続ではアクセスできなくなります。                   |

- ◆ 「認証を無効にする」の項目にチェックを入れると、ユーザーのログイン認証を行いません。ユーザーはブラウザからKN1000 の IP アドレスを指定するだけで、**アドミニストレーター権限**でアクセスすることができます。

**注意:** この設定はセキュリティ面において極めて危険な影響をおよぼすことがありますので、特別な環境以外では設定しないようにしてください。

## ユーザー管理

「ユーザー管理」メニューではユーザーの作成及び管理を行います。KN1000 では最大 64 ユーザーのアカウントを作成できます。

- ◆ ユーザーを新規作成する場合は、右側に表示されているテキストボックスにユーザー情報を入力し、「追加」ボタンをクリックしてください。新規に作成されたユーザーが左側のリストに表示されます。
- ◆ ユーザー情報を削除する場合は、左側のリストから削除対象となるユーザーを選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。そのユーザーが左側のリストから削除されます。
- ◆ ユーザー情報を修正する場合は、対象となるユーザーをリストから選択し、右側の入力欄で内容を変更してから「更新」ボタンをクリックしてください。

**注意：** ユーザー情報を修正する場合、対象となるユーザーを選択しても、右側の入力欄の「パスワード」及び「確認用パスワード」の各内容は伏せ字で表示されます。ユーザーのパスワードを変更しない場合は、これらの欄をそのままにしておいてください。パスワードを変更する場合は、新しいパスワードをこれらの欄に入力してください。

- ◆ 「Admin」または「User」ラジオボタンを選択すると、そのユーザーレベルにあった権限が「許可」の欄で自動的に選択されます。これらの権限をカスタマイズする場合は、「Select」ラジオボタンを選択し、必要に応じてこれらの操作権限を有効または無効にしてください。

この画面における各項目の内容は下表の通りです。

| 項目          | 説明  |
|-------------|---|
| ユーザーネーム     | アカウントポリシー (p.68 参照) の設定に従って、半角英数字 1～16 文字で設定してください。   |
| パスワード       | アカウントポリシー (p.68 参照) の設定に従って、半角英数字 0～16 文字で設定してください。   |
| 確認用パスワード    | 「パスワード」で設定された内容の再確認を行います。この欄にも「パスワード」の欄に入力した内容と同じものを入力してください。   |
| Description | ユーザーに関する追加情報があれば、この欄に入力してください。  |
| Admin       | この項目を選択すると、ユーザーは KN1000 に対してアドミニストレーターレベルのアクセスが可能になります。この場合、ユーザーには「参照のみ」を除いた全権限が付与されます(下記参照)。   |
| User        | この項目を選択すると、ユーザーは KN1000 に対してユーザーレベルのアクセスが可能になります。この場合、ユーザーには Windows クライアント、電源管理、Java クライアントの各権限が付与されます(下記参照)。  |
| Select      | デフォルトではこの項目が選択されています。アドミニストレーターはユーザーに許可する権限を選択することができます。  |
| 許可          | <p>KN1000 に対する操作権限の有無を設定します。該当ユーザーによる操作を許可する場合は、その項目にチェックを入れ、禁止する場合はその項目からチェックを外してください。</p> <p><b>Win クライアント:</b> この項目にチェックを入れると、そのユーザーが Windows クライアント経由で KN1000 にアクセスできるようになります。</p> <p><b>Java クライアント:</b> この項目にチェックを入れると、そのユーザーが Java クライアント経由で KN1000 にアクセスできるようになります。</p> <p><b>参照のみ:</b> この項目にチェックを入れると、そのユーザーが KN1000 に接続された KVM スイッチまたはサーバーのビデオ出力を参照することはできますが、実際に操作することはできなくなります。</p> <p><b>設定:</b> この項目にチェックを入れると、そのユーザーに管理者権限が付与され、KN1000 の操作環境のセットアップ及び設定内容の変更ができるようになります。</p> <p><b>電源管理:</b> この項目にチェックを入れると、KN1000 にローカル接続されたサーバー/デバイスのリモート電源管理を可能にする KN1000 に搭載されたシングルポート電源スイッチが使用でき、また同様に Power Over the NET™ 経由でデバイスの電源 ON/OFF/リセットができるようになります。</p> |

(表は次のページに続きます。)

| 項目         | 説明   |
|------------|--|
| 許可<br>(続き) | <p><b>ログ:</b> この項目にチェックに入れると、そのユーザーは KN1000 のイベントログを参照することができるようになります。</p> <p><b>Telnet/SSH の有効化:</b> シリアルコンソール管理が有効になっている場合(p.77 参照)、この項目にチェックを入れると、ユーザーは Telnet セッションや SSH セッションをオープンすることができるようになります。許可するログインの種類をドロップダウンリストから選択してください。</p> <p><b>Enable Virtual Media:</b> この項目にチェックを入れると、KN1000 のバーチャルメディア機能を利用することができるようになります(詳細は p.118 「バーチャルメディア」参照)。バーチャルメディアの操作権限(読込/書込または、読取専用)をドロップダウンリストから選択してください。</p> |

- ◆ 「リセット」ボタンをクリックすると、右側の入力欄に表示されている内容が全て消去されます。
- ◆ 入力が完了したら、「適用」ボタンをクリックして変更内容を適用してください。

## コンソール管理

「コンソール管理」メニューは、「シリアルコンソール」と「OOBC」のサブメニューから構成されており、KN1000のRS-232(シリアル)ポートの操作パラメーターを設定することができます。各パラメーターとその設定方法については、後のセクションで説明します。

**注意:** これらの機能は、一度に両方を有効にすることはできません。片方を選択すると、もう片方は自動的に無効になります。

## シリアルコンソール

画面上部にある「シリアルコンソール」のラジオボタンが選択されると、下図のような画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Serial Port Setting' dialog box. At the top, there are two radio buttons: 'Serial Console' (selected) and 'OOBC'. Below them is a checked 'Enable' checkbox. The 'Port Property Settings' section includes the following fields: Baud Rate (9600 bps), Data Bits (8 bits), Parity (None), Stop Bits (1 bit), Flow Control (None), Enable Toggle DTR (No), Online Detect (DSR), Out CRLF Translation (None), and Suspend Character (D). The 'Port Alert Settings' section contains ten empty text input fields labeled 'Alert String 1' through 'Alert String 10'. An 'Apply' button is located at the bottom center of the dialog.

シリアル通信のパラメーターを設定する場合は、「有効」の項目にチェックを入れ、下記を参考にしながら各項目の設定を行ってください。

## ポートプロパティ設定

各プロパティの内容は下表の通りです。

| 項目             | 説明  |
|----------------|---|
| ボーレート          | ポートのデータ通信速度を設定します。設定できる値は 300～115200 です (具体的な値はドロップダウンリストの内容を参照のこと)。接続デバイスのボーレートの設定にあうようにこの項目を設定してください。デフォルトでは多くのシリアルデバイスの基本設定である 9600 に設定されています。   |
| データビット         | データ1文字の転送に使用されるビット数を設定します。設定できる値は、5、6、7、8 です。接続デバイスのデータビットの設定にあうようにこの項目を設定してください。デフォルトでは多くのシリアルデバイスのデフォルト設定である 8 に設定されています。   |
| パリティ           | 転送されたデータの整合性をチェックする際に使用するパリティビットを設定します。設定できる内容は、None、Odd、Even、Mark、Space です。接続デバイスのパリティ設定に合うようにこの項目を設定してください。デフォルトでは、多くのシリアルデバイスのデフォルト設定である None に設定されています。   |
| ストップビット        | このビットは、文字が転送されたことを表すものです。接続デバイスのストップビットの設定に合うように項目を設定してください。設定できる内容は 1 または 2 です。デフォルトでは、多くのシリアルデバイスのデフォルト設定である 1 に設定されています。   |
| フロー制御          | データフローの制御方法を選択します。設定できる内容は、None、Hardware(RTS/CTS)、XON/XOFF です。制御デバイスのフロー制御の設定に合うようにこの項目を設定してください。デフォルトでは、None に設定されています。  |
| Toggle DTRの有効化 | このパラメーターを有効にすると、ポートが占有された場合に、DTR 信号を無効にするか有効にするかを設定することができます。設定できる内容は、No または Yes です。デフォルトでは No に設定されています。<br><b>注意：</b> 一部のデバイスでは、有効にしたことが正しく動作するために、先に DTR 機能を無効 (No を選択した後で「適用」をクリック) にした後で、有効 (Yes を選択した後で「適用」をクリック) にする必要があります。 |

| 項目         | 説明  |
|------------|---|
| オンライン検出    | DSR 信号がオンラインステータスを検出するようにするかどうかを設定します。設定できる内容は None または DSR です。デフォルトでは DSR に設定されています。   |
| 出力 CRLF 変換 | 送信する制御文字を CRLF にするか、CR のみにするかを選択することができます。設定できる内容は、None (CRLF 送信) または CRLF→CR (CR のみ送信) です。デフォルトでは None に設定されています。<br><b>注意:</b> お使いの機器がダブルスペースの行を出力する場合、キャリッジリターン (CR) にラインフィード (LF) が自動的に追加されます。このよう場合には、CRLF→CR を選択してください。 |
| サスペンド文字列   | Telnet セッションでサスペンドメニューを起動する場合に、サスペンド文字を使用します (p.75 「許可」参照)。<br><b>注意:</b> 有効な文字は H、I、J、M、を除く、A～Z のアルファベットです。H、I、J、M はこの項目に設定できませんので、ご注意ください。  |

## ポート警告文字列

このセクションでは、KN1000 のポートに接続されたデバイスにおいて発生したイベントを通知する方法を設定することができます。

電源投入等、最大 10 種類のイベント (例: 電源 ON) を「警告文字列」欄に設定することができます。シリアルコンソールセッションで特定のアラートが発生すると、KN1000 はそのイベント情報をログファイルに書き込みます。

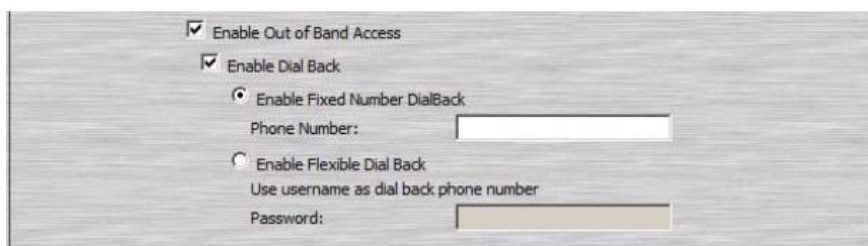
## OABC

KN1000 が TCP/IP ネットワーク経由でリモートアクセスできない場合には、モデムを使用して製品の RS-232 ポート経由でアクセスすることができます。PPP(モデム)操作ができるようにするには、「アウトオブバンドアクセスの有効化」の項目にチェックを入れてください。

- 
- 注意:**
1. アウトオブバンドアクセス機能を有効にすると、ダイヤルイン操作が自動的に有効になります。セットアップ方法や操作方法の詳細は、p.182 「PPP モデム操作」を参照してください。
  2. モデムセッションでは、KN1000 の IP アドレスは、「192.168.192.1」、ユーザー側の IP アドレスは「192.168.192.101」となります。
- 

アウトオブバンドアクセス機能を有効にすると、「ダイヤルバックの有効化」、「ダイヤルアウトの有効化」の両方の機能がご利用いただけます。詳細は、後のセクションで説明します。

### ダイヤルバックの有効化



The screenshot shows a configuration window with the following settings:

- Enable Out of Band Access
- Enable Dial Back
  - Enable Fixed Number DialBack
    - Phone Number:
  - Enable Flexible Dial Back
    - Use username as dial back phone number
    - Password:

新たに追加されたセキュリティ機能の一つとして、この機能が有効になると、製品は自身へのダイヤルイン接続を切断し、下表で定義されたエントリの一つにダイヤルバック接続します。

| 項目  | 説明   |
|---|--|
| 固定番号ダイヤルバックの有効化                             | このラジオボタンが選択されていると、KN1000 にはここで設定された電話番号のモデムにダイヤルバック接続し、ユーザーの PPP セッションを開始します。「電話番号」欄にはユーザーが KN1000 にダイヤルバックさせたいモデムの電話番号を入力してください。  |
| フレキシブルダイヤルバックの有効化(ユーザーネームをダイヤルバック電話番号として使用) | このボタンが選択されると、KN1000 がダイヤルバックするモデムは固定である必要はなく、ユーザーによって都合のよいモデムにダイヤルバックすることができます。この場合、KN1000 にダイヤルインする際には下記の点にご注意ください。<br>1. パスワードの欄には、ユーザーが設定したパスワードを入力してください。<br>2. KN1000 のモデムに接続する場合は、KN1000 がダイヤルバックするモデムの電話番号をユーザーネーム欄に入力し、「パスワード」の欄で設定したパスワードを入力してください。 |

## ダイヤルアウトの有効化

ダイヤルアウト機能を使用する場合は、ISP(インターネットサービスプロバイダー)と契約を結び、このISPで発行されたアカウントにモデムを使ってダイヤルアップ接続してください。本セクションで提供されている各項目の説明は下表の通りです。

| 項目            | 説明   |
|---------------|--|
| ISP 設定        | お使用の ISP に接続する際に使用する電話番号、アカウントネーム(ユーザーネーム)、パスワードをそれぞれ該当欄に入力してください。   |
| ダイヤルアウトスケジュール | <p>ISP 接続で KN1000 がダイヤルアウトする回数を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「繰り返し」のラジオボタンを選択すると隣にあるリストが有効になり、1～4 時間ごとに定時で実行するように設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 例えば、2 時間ごとに設定した場合、KN1000 は次の 00 分(例:現在 13:10 の場合は 14:00 にダイヤル開始)から 2 時間おきにダイヤルアウト接続を行います。</li> <li>➤ 決まったスケジュールで KN1000 にダイヤルアウト接続しない場合は、リストから「なし」を選択してください。</li> </ul> </li> <li>◆ 「毎日」のラジオボタンを選択すると、指定された時刻に毎日ダイヤルアウト接続を行います。時刻の時・分をコロン(前後にはスペース不要)で区切り、「hh:mm」のフォーマットで設定してください。</li> <li>◆ 「PPP オンライン時間」欄では、ISP 接続のオンライン状態を持続する時間を設定します。0 を設定すると、常にオンラインになります。</li> </ul> |
| 緊急ダイヤルアウト     | <p>KN1000 がネットワークから切断された、またはネットワークがダウンした場合、この機能を使うと、ISP のダイヤルアップ接続で KN1000 をオンラインにすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「ネットワーク復旧中は PPP をオンラインにする」のラジオボタンを選択すると、ネットワークが復旧するか、KN1000 がネットワークに再接続するまで ISP への PPP 接続が持続します。</li> <li>◆ 「PPP オンライン時間」のラジオボタンを選択すると、ここで設定した時間が経過した後に ISP への接続が終了します。0 を設定すると、常にオンラインになります。</li> </ul>   |

(この表は次のページに続きます。)

| 項目           | 説明  |
|--------------|---|
| ダイヤルアウトメール設定 | <p>このセクションでは、KN1000 のポートに接続された機器で問題が発生した場合に通知するメールに関連したパラメーターを設定することができます (p.57 「SMTP 設定」参照)。</p> <p><b>注意:</b>このメール通知機能は、社内のメールサーバーではなく ISP のメールサーバーを使って処理を行うため、p.57 「SMTP 設定」で説明した SMTP 設定での通知機能とは若干異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「SMTP サーバーIP アドレス」欄に、お使いの SMTP サーバーの IP アドレスまたはドメイン名を入力してください。</li> <li>◆ 「Email From」欄に、SMTP サーバーの責任者またはアドミニストレーターと同等の権限を持ったユーザーのメールアドレスを入力してください。</li> <li>◆ 「To」欄に、レポートの宛先となるメールアドレスを入力してください。複数のアドレスに送信する場合は、コンマまたはセミコロンでアドレスを区切ってください。</li> <li>◆ サーバーで認証が必要とされる場合は、「SMTP サーバーは認証を必要とする」の項目にチェックを入れて、認証に適切なアカウントネームとパスワードを該当欄に入力してください。</li> </ul> |

各項目への入力・設定が完了したら、「**適用**」ボタンをクリックしてください。

## セッション

「セッション」メニューでは、現在KN1000にログインしている全ユーザーを確認することができます。また、各ユーザーのセッション情報も提供しています。

| Active Sessions                     |               |             |            |         |          |           |
|-------------------------------------|---------------|-------------|------------|---------|----------|-----------|
| Select                              | Login Name    | Client IP   | Login Time | Service | Category | Idle Time |
| <input type="checkbox"/>            | trevor        | 172.17.17.1 | 21:30:20   | Browser | Select   | 444       |
| <input type="checkbox"/>            | jonman        | 172.17.17.1 | 21:32:07   | Browser | Select   | 360       |
| <input type="checkbox"/>            | rjf111        | 172.17.17.1 | 21:32:36   | Browser | Admin    | 250       |
| <input checked="" type="checkbox"/> | administrator | 172.17.17.1 | 21:36:18   | Browser | Select   | 0         |
| <input type="checkbox"/>            | kelly-l       | 172.17.17.1 | 21:37:49   | Browser | Select   | 17        |

表示内容は、表のタイトル行の通りです。

- ◆ 「クライアント IP」列には、現在ユニットにログインしているユーザーの IP アドレスが表示されます。
- ◆ 「サービス」列には、ユーザーが KN1000 へのアクセスに用いた手段 (Browser、WinClient AP、JavaClinent AP 等) が表示されます。
- ◆ 「カテゴリ」列には、ログインユーザーのユーザータイプ (Admin「アドミニストレーター」、User、Select) が表示されます (ユーザータイプの詳細は、p.74 「ユーザー管理」を参照してください)。

この画面では、アドミニストレーターが選択したユーザーを強制的にログアウトさせることもできます。対象となるユーザーを選択し、「**セッション終了**」ボタンをクリックしてください。

## カスタマイズ

「カスタマイズ」メニューは管理者向けメニューで、タイムアウトまでの時間や、ログイン再試行回数、操作モード等のパラメーターを設定することができます。

このページにおける各項目の内容は下表の通りです。

| 項目     |             | 説明   |
|--------|-------------|--|
| タイムアウト |             | ここで設定された時間(分)、KN1000 に対して入力がない場合、該当ユーザーは自動的にログアウトします。この場合、KN1000 にアクセスするには再ログインが必要です。デフォルトでは3分に設定されています。   |
| 動作モード  | ICMPの有効化    | この項目が有効になっていると、KN1000 はネットワーク接続診断を行います。無効の場合は行いません。デフォルトは有効になっています。  |
|        | デバイスリストの有効化 | この項目が <b>有効</b> になっていると、アプリケーション版 Windows クライアントの接続画面にローカル KN1000 のリストが表示されるようになります(p.158 「Windows クライアント接続画面」参照)。この項目が無効になっていると、この KN1000 は Windows クライアントの接続画面には表示されません。デフォルトではこの項目は有効になっています。 |

(表は次のページに続きます。)

| 項目            |             | 説明  |
|---------------|-------------|---|
| 動作モード<br>(続き) | マルチユーザーの有効化 | この項目を有効にすると、複数ユーザーによる KN1000 への同時ログインが可能になります。デフォルトではこの項目は有効になっています。  |
|               | 全てをモノクロ表示   | この項目が有効になっていると、リモートアクセスしている全てのユーザーのモニターに、リモートサーバーのビデオ出力がモノクロで表示されます。この機能によって、ネットワーク帯域が低い環境においても、データI/Oのパフォーマンスの向上が図れます。デフォルトではこの項目は無効になっています。   |
| USB IO 設定     | OS          | ポートに接続されているサーバーが使用している OS を設定してください。設定可能な項目は、Win、Mac、Sun、Other です。デフォルトでは Win が選択されています。  |
|               | 言語          | ポートに接続されているサーバーで使用している OS 言語を設定します。お使いの環境に適した言語をリストから選択してください。デフォルトでは英語に設定されています。   |
| マルチユーザーモード    |             | <p>複数のユーザーでログインした際に、ポートに対してどのようにアクセスするかを設定します。設定可能な項目は下記の通りです。</p> <p><b>排他:</b> 最初に切替を行ったユーザーが排他的にポートを制御できます。他のユーザーはポートを参照することができません。</p> <p><b>占有:</b> 最初に切替を行ったユーザーがポート制御できますが、他のユーザーもそのポートのビデオ出力を参照することができます。</p> <p><b>共有:</b> ユーザーはポート制御を同時に共有します。ユーザーからの入力はキューに格納され、古い順に実行されます。この設定でお使いの場合、ユーザーはメッセージボード機能を使うことで、共有ポートにおけるキーボードとマウス、またはキーボード・マウス・ビデオ操作の競合を避けることができます (p.115 「メッセージボード」参照)。</p> |

(表は次のページに続きます。)

| 項目   | 説明   |
|------|--|
| リセット | <p>一部の設定変更(「ネットワーク」メニューにおける設定変更、ログサーバー用のポート変更、ブラウザアクセスの許可/禁止、及びファームウェアのアップグレード)は、デバイスのリセット後に有効になります。</p> <p>これらの変更を行った場合は、「終了時にリセット」の項目に自動的にチェックが入ります。</p> <p>KN1000 をリセットし、変更内容を適用する場合は、一度ログアウトした後で、30～60 秒ほど待機してから再ログインしてください。</p> <p><b>注意:</b> KN1000 のパフォーマンスが低下した場合は、「終了時にリセット」の項目に手動でチェックを入れて、一度ログアウトしてからログインしなおしてください。</p> |

## 日付/時刻

このメニューでは KN1000 の時刻関連のパラメーターを設定します。

The screenshot shows a configuration window with four sections:

- Time Zone:** A dropdown menu is set to "(GMT+08:00) Taipei". There is an unchecked checkbox for "Daylight Savings Time".
- Date:** A dropdown menu is set to "February" with "< 2011 >" to its right. Below it is a calendar for "February 2011" with days of the week (Su, Mo, Tu, We, Th, Fr, Sa) as columns. The date "9" is highlighted in yellow.
- Time:** Digital time displays "15 : 01 : 41". There is a "Set" button to the right.
- Network Time:** An unchecked checkbox for "Enable auto adjustment".
  - Under "Preferred time server", a dropdown menu is set to "AU | ntp1.cs.mu.OZ.AU". There is an unchecked checkbox for "Preferred custom server IP" with a text input field containing "0.0.0.0".
  - Under "Alternate time server", a dropdown menu is set to "AU | ntp1.cs.mu.OZ.AU". There is an unchecked checkbox for "Alternate custom server IP" with a text input field containing "0.0.0.0".
  - At the bottom, "Adjust time every" is set to "1" days, with an "Adjust Time Now" button.

下記の説明に従ってパラメーターの設定を行ってください。

### タイムゾーン

- ◆ KN1000 が設置されている場所のタイムゾーンを設定する場合は、その場所に最も近いタイムゾーンをドロップアウトリストから選択してください。
- ◆ この場所が属している国または地域がサマータイムを導入している場合は、「サマータイム」の項目にチェックを入れてください。

## 日付

- ◆ ドロップダウンリストから適切な月を選択してください。
- ◆ 前の年に移動する場合は「<」を、次の年に移動する場合は「>」をそれぞれクリックしてください。
- ◆ 表示されたカレンダーから適切な日を選択してください。
- ◆ 時刻は24時間制で「HH:MM:SS」のフォーマットで「時刻」欄に入力してください。
- ◆ 設定内容を保存する場合は「**設定**」ボタンをクリックしてください。

## ネットワークタイム

時刻をネットワークタイムサーバーに自動同期させる場合は、下記の手順に従ってください。

1. 「自動調整の有効化」の項目にチェックを入れてください。
2. 「優先タイムサーバー」リストから、お使いの環境に適した優先タイムサーバーを選択してください。
  - または-
  - 「優先カスタムサーバーIP」の項目にチェックを入れて、使用するタイムサーバーの IP アドレスを入力してください。
3. 代替タイムサーバーを設定する場合は、「代替タイムサーバー」の項目にチェックを入れて、手順 2 の要領で代替タイムサーバーの項目を設定してください。
4. 何日おきに同期を実行するかを「時間の定期自動調整」の欄に入力してください。
5. 時刻調整をすぐに実行する場合は、「**今すぐ時刻調整**」ボタンをクリックしてください。

---

**注意:** 「自動調整の有効化」の項目にチェックを入れたら、「**今すぐ時刻調整**」または「**設定**」ボタンをクリックして変更内容を保存してください。これらのボタンを押さないと、変更内容は破棄されます。

---

## メンテナンス

---

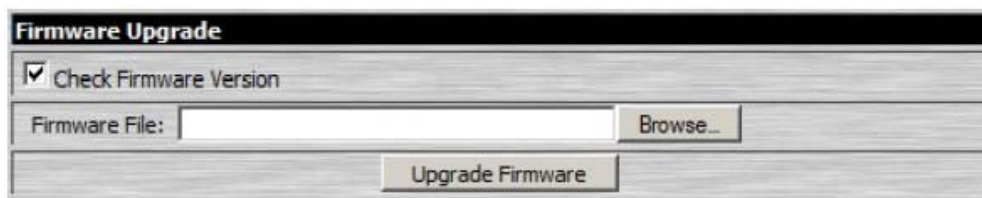
このメニューは管理者向けメニューで、KN1000 のファームウェアアップグレードや、設定内容・ユーザー情報のバックアップ・リストアを行うことができます。

### F/W アップグレード

KN1000 の新しいファームウェアがリリースされると、弊社ダウンロードサイトに公開されます。このサイトを定期的にチェックして頂くことで、最新のパッケージを入手することができます。

ファームウェアをアップグレードする場合は、下記の手順に従ってください。

1. アップグレードに使用するファームウェアをお使いのコンピューターにダウンロードしてください。
2. ブラウザから KN1000 にログインし、「ファームウェア」アイコンをクリックして「ファームウェアファイル」ダイアログボックスを表示してください。



3. 「参照」ボタンをクリックして、新しいファームウェアが保存されているフォルダーに移動し、ファームウェアファイルを選択してください。
4. 「F/W アップグレード」ボタンをクリックしてください。  
「F/W バージョンを確認」の項目にチェックが入っている場合(デフォルト)には、アップグレードの実行時に現在インストールされているファームウェアファイルと、この画面で指定したファームウェアファイルの間でバージョンの比較を行います。現在インストールされているバージョンの方が新しい場合、処理を中止するという内容のメッセージがダイアログに表示されます。

---

**注意:** 古いファームウェアをインストールしたい場合は、「F/W のアップグレード」ボタンをクリックする前に「F/W バージョンを確認」の項目からチェックを外してください。

---

5. アップロードが完了すると、操作が成功したという内容のメッセージが画面に表示されるので、メイン画面の左下にある「ログアウト」をクリックしてください。
6. 手順 5 の後で画面が表示されたら、「Yes」ボタンをクリックして KN1000 からログアウトし、リセットしてください。

---

**注意：** 再ログインする場合は、しばらく経ってから操作を行ってください。

---

## バックアップ

このセクションでは、KN1000 のシステム設定やユーザー情報をバックアップすることができま  
す。



バックアップを行うには、下記の手順に従ってください。

1. (オプション)「パスワード」欄に、ファイルに設定したいパスワードを入力してください。  

---

**注意:** パスワードを設定した場合、リストアを実行する際にもこのパスワードが必要になりますので、忘れないように控えておいてください。

---
2. 「バックアップ」ボタンをクリックしてください。
3. ブラウザ側でファイルの処理方法の選択を促すダイアログボックスが表示されるので、「ディスクに保存」を選択し、お使いのコンピューターのハードディスクの適切な場所に保存してください。  

---

**注意:** KN1000 は「KN1000BKUP.conf」という名前でバックアップファイルを作成します。複数のファイルにバックアップを行いたい場合は、保存する際に別名をつけて保存してください。

---

## リストア

バックアップされたユーザーアカウントとシステム設定の情報は、このメニューでリストアすることができます。リストアを実行すると、現在設定されている情報がリストアファイルの内容に置き換わります。



過去にバックアップした情報をリストアする場合は、下記の手順に従ってください。

1. バックアップを作成した際にパスワードを設定している場合は、このパスワードと同じ文字列を「パスワード」欄に入力してください。パスワードを設定していない場合は、この欄に入力する必要はありません。
2. 「参照」ボタンをクリックして、ダイアログからリストアファイルを選択してください。

---

**注意:** ファイル名を変更している場合でも、新しいファイル名のままで処理できますので、元のファイル名に変更する必要はありません。

---
3. リストアしたいバックアップの内容を選択してください。
  - ◆ ユーザーアカウントとシステム設定の両方をリストアする場合は、「すべて」のラジオボタンを選択してください。
  - ◆ ユーザーアカウント情報のみをリストアする場合は、「アカウント」のラジオボタンを選択してください。
  - ◆ バックアップファイルに保存された内容のうち、リストアの対象となる部分を個別に選択したい場合は、「ユーザー選択」のラジオボタンを選択し、対象項目にチェックを入れてください。
4. 項目を選択したら、「リストア」ボタンをクリックしてください。

ファイルがリストアされると、処理が完了したという内容のメッセージが表示されます。

## 第5章

# Windows クライアントビューワー

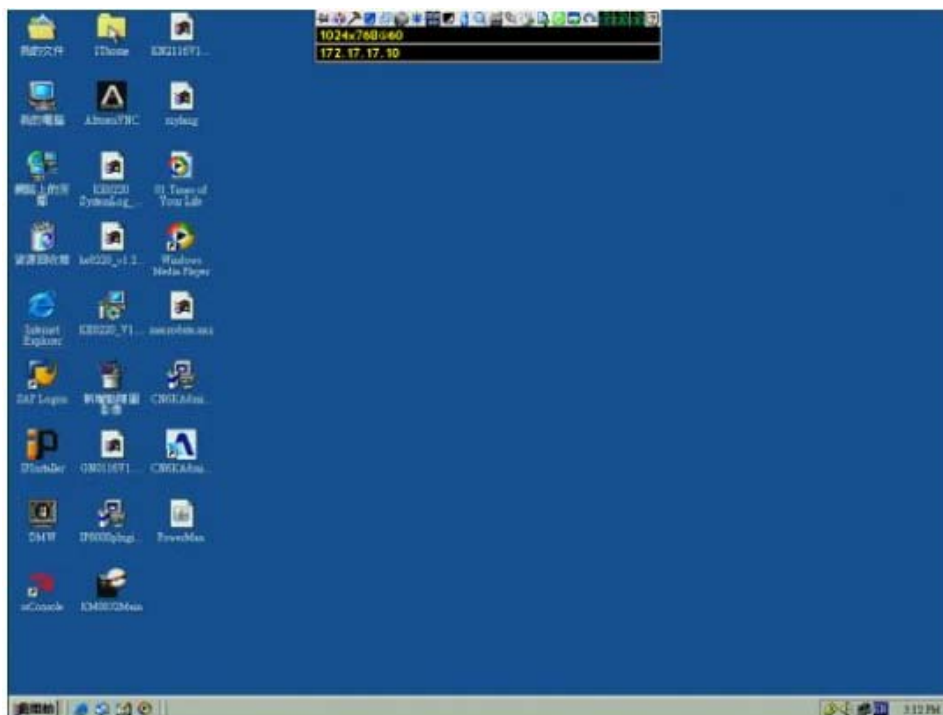
## 起動方法

WinClientビューワーは、Webブラウザ Microsoft Internet Explorer (IE)でログインした時に利用できるソフトウェアです。このツールを起動する場合は、ログイン (p.35 参照)した後で、「リモートコンソールプレビュー」パネルにある下図のような「ビューワーを開く」リンクをクリックしてください。



**注意:** 「再読込」ボタンの下にあるリンクは、使用ブラウザの種類と「ユーザー設定」の「ビューワー」の設定によって表示が異なります。詳細は、p.39 「リモートコンソールプレビュー」をご参照ください。

「ビューワーを開く」リンクをクリックして数秒すると、デスクトップ上にリモートサーバーの画面を表示するウィンドウが立ち上がります。



## ローカルデスクトップの操作方法

このソフトウェアを使うことで、現場で作業している時と同様の感覚でローカルシステムのデスクトップをリモートから操作することができます。

- ◆ この画面は、一般的な Windows アプリケーションと同様に、ウィンドウの最小化やウィンドウ枠のドラッグ操作によるリサイズ、また、スクロールバーによるウィンドウ内の表示位置の変更が可能です。
- ◆ ローカルとリモートの間でプログラムを切り替える場合は、[Alt + Tab]キーで画面を切り替えてください。

- 注意:**
1. お使いの環境によっては、ネットワークの遅延が原因で、入力したキーやマウス操作の表示に若干時間がかかる場合がございますので、そのような場合は操作してから表示されるまでしばらくお待ちください。
  2. ネットワークの遅延またはローカルコンピューターの電源不足によって、表示画質(特に動画の表示画質)が劣化する場合がございます。

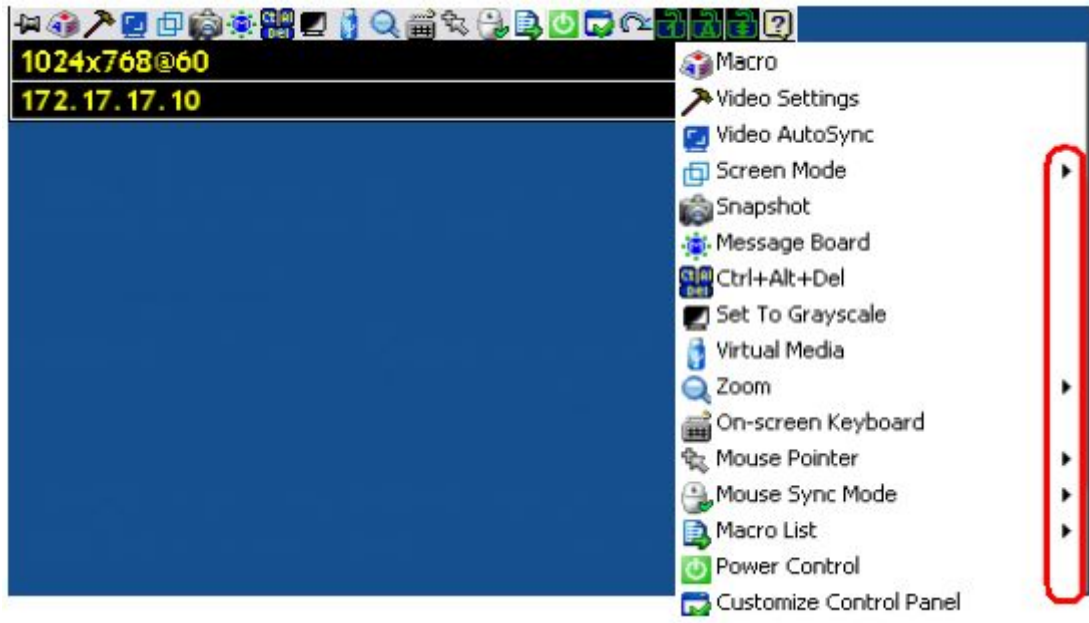
## Windows クライアントコントロールパネル

Windows クライアントのコントロールパネルは通常は画面上部の中央に隠れていますが、この部分にマウスカーソルを移動させると、下図のようなメニューが表示されます。



- 注意:**
1. 上図は全メニューが表示された場合のコントロールパネルの外観です。表示するアイコンはカスタマイズが可能です。詳細は p.128 「コントロールパネルのカスタマイズ」を参照してください。
  2. コントロールパネルは端をドラッグすることで、ウィンドウ内の任意の位置に移動させることができます。

- ◆ デフォルトでは、上部テキスト行の左側にはリモートディスプレイの解像度が表示されますが、マウスをアイコンバーの上に移動させると、そのアイコンの機能がこの部分に表示されます。またメッセージボードが立ち上がっていないときに、他のユーザーからメッセージを受け取ると、メッセージがこの部分に表示されます。
- ◆ コントロールパネルの設定で「ユーザー情報」機能 (p.129 参照) が有効になっていると、現在 KN1000 にログインしているユーザーの数が上部テキスト行の中央に表示されます。
- ◆ テキスト行でマウスを右クリックすると、「スクリーンモード」、「ズーム」、「マウスポインター」、「マウス同期モード」、「マクロリスト」のオプションメニューが表示されます。これらの機能については後のセクションで説明します。



## コントロールパネルの機能

コントロールパネルの機能は下表の通りです。






**注意:** コントロールパネルから呼び出される機能の各ダイアログのタイトルバー右上にある「T」ボタンをクリックすると、このダイアログの透過度を調整するスライダーが表示されます。値を調整したら、ダイアログの任意の場所をクリックしてスライダーを終了させてください。

| アイコン  | 機能  |
|---|---|
|                | このアイコンをクリックするとコントロールパネルの表示を固定させます (例:他の画面の上部に常時表示)。再度クリックすると通常の表示に戻ります。                           |
|               | クリックすると「マクロ」ダイアログボックスを表示します (詳細は p.101 参照)。   |
| <br>ビデオ設定    | クリックすると、「ビデオ設定」ダイアログボックスを表示します。右クリックすると、クイックオートシンクを実行します (詳細は p.111 「ビデオ設定」を参照)。                  |
| <br>ビデオの自動同期 | クリックするとビデオとマウスの自動同期機能を実行します。これは「ビデオ設定」ダイアログボックスの「自動同期」(オートシンク)ボタンをクリックするのと同じです (p.111 「ビデオ設定」参照)。 |
|              | 表示をフルスクリーン表示とウィンドウ表示と交互に切り替えます。   |
|              | クリックするとリモート表示のスナップショット (画面キャプチャー) を取り込みます。スナップショットのパラメーター設定に関する詳細は p.129 「スナップショット」を参照してください。     |
|              | クリックするとメッセージボードを起動します。(p.115「メッセージボード」参照)。  |

(表は次のページに続きます。)

| アイコン  | 機能   |
|---|--|
|    | <p>クリックするとリモートシステムへ[Ctrl+Alt+Del]の信号を送ります。</p>   |
|    | <p>クリックすると、リモート画面の表示をカラーまたはモノクロと交互に表示します。</p>  |
|    | <p>クリックすると「バーチャルメディア」ダイアログを表示します。バーチャルメディアデバイスがポートで認識されると、このアイコンは変わります。詳細は p.118 「バーチャルメディア」を参照してください。</p> <p><b>注意:</b> この機能が無効になっている場合やユーザーが使用できない場合には、このアイコンはモノクロ表示されます。</p>  |
|    | <p>クリックするとリモート表示ウィンドウをズーム表示します。</p> <p><b>注意:</b> この機能はウィンドウモード(フルスクリーンモードが OFF)の場合にのみ利用できます。詳細は p.123 「ズーム」を参照してください。</p>   |
|    | <p>クリックするとオンスクリーンキーボードが表示されます (p.124 参照)。</p>  |
|  <p data-bbox="264 1294 459 1323">マウスポインター</p> | <p>クリックするとマウスポインターの種類を選択します。</p> <p><b>注意:</b> このアイコンには現在選択されている種類のポインターが表示されます。(p.126 「マウスポインター」参照)。</p>  |
|    | <p>クリックするとマウス同期を自動または手動に設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自動同期に設定されている場合、アイコンに緑色のチェックマークが表示されます。</li> <li>◆ 手動同期に設定されている場合、アイコンに赤色の「×」印が表示されます。</li> </ul> <p>この機能に関する詳細は p.126 「マウス同期モード」を参照してください。</p> |
|  <p data-bbox="300 1821 432 1850">マクロリスト</p>   | <p>クリックするとユーザーマクロの一覧を表示します。この機能を使うことで、「マクロ」ダイアログを使用するよりも簡単にマクロを実行することができます(本表の「マクロ」アイコンまたは p.101 参照)。</p>  |

(この表は次のページに続きます。)

| アイコン  | 機能  |
|---|---|
|        | <p>クリックすると、KN1000 に内蔵された電源スイッチインレット/アウトレットに接続されたサーバーの電源を ON/OFF することができます。詳細は p.41 「電源管理」を参照してください。</p>   |
|        | <p>クリックすると「コントロールパネルのカスタマイズ」ダイアログを表示します。コントロールパネルの設定に関する詳細は p.128 「コントロールパネルのカスタマイズ」を参照してください。</p>  |
| <br>終了 | <p>クリックするとリモートビューを終了し、Web ブラウザのメイン画面に戻ります。</p>  |
|        | <p>これらのアイコンはリモートコンピューターの[Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock]各キーの状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ キーが有効になっていると、そのキーの LED が明るいグリーンに点灯し、錠前が閉じたアイコンが表示されます。</li> <li>◆ キーが無効になっていると、そのキーの LED は暗いグリーンに点灯し、錠前が開いたアイコンが表示されます。</li> </ul> <p>ロックキーを有効または無効にする場合は、対象のアイコンをクリックして表示を切り替えてください。</p> <p><b>注意:</b>このアイコンはローカルキーボードのアイコンと同期します。アイコンをクリックすると、お使いのキーボード上にある LED もこのアイコンに合わせて ON または OFF に切り替わります。キーボードの該当キーを押した時も同様に、このアイコンの表示が切り替わります。</p> |
|      | <p>Windows クライアントのバージョン情報を表示します。</p>  |

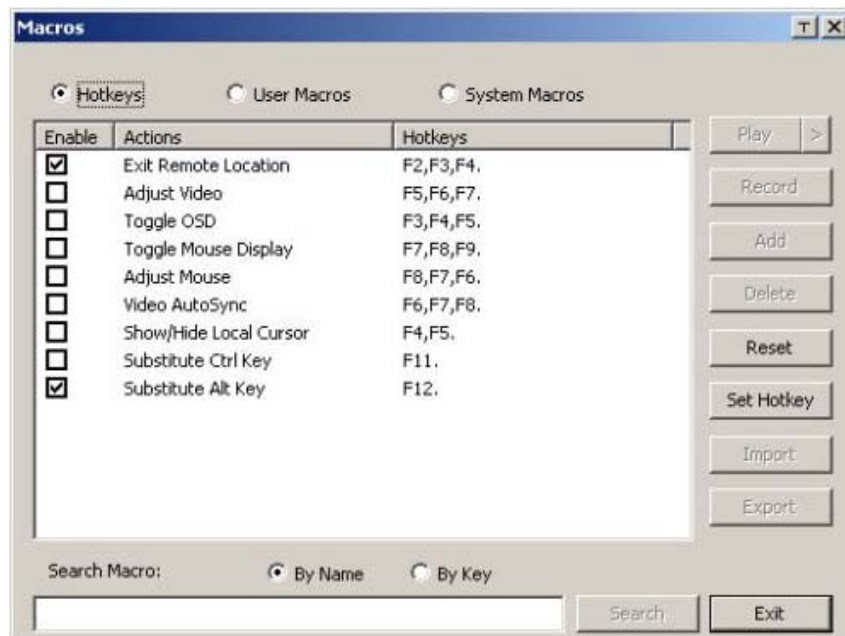


## マクロ

マクロアイコンでは、マクロダイアログボックスの3つの機能(ホットキー、ユーザーマクロ、システムマクロ)にアクセスすることができます。これらの機能については後のセクションで説明します。

### ホットキー

コントロールパネルのアイコンをクリックして実行されるアクションは、キーボードから入力されたホットキーで直接実行することができます。「ホットキー」のラジオボタンを選択すると、アクションを実効するホットキーを設定することができます。アクションは左側に、そのアクションを行うホットキーはその右側に表示されます。アクション名の左側のチェックボックスを使用してホットキーの有効/無効を設定してください。



デフォルトのホットキーの組み合わせでは不都合が生じる場合は、下記の手順でホットキーを変更することができます。

1. 対象となるアクションをリストから選択し、「**Set Hotkey**」ボタンをクリックしてください。
2. マクロキーとして使用するファンクションキーを一つずつ押してください。押されたキーの名前が「ホットキー」欄に表示されます。
  - ◆ キー入力の順番が異なる限り、同じファンクションキーを2つ以上のアクションに使用することができます。
  - ◆ ホットキーの設定をキャンセルする場合は「**Cancel**」ボタンをクリックしてください。アクションの「ホットキー」欄を消去するには「**消去**」ボタンをそれぞれクリックしてください。
3. マクロキーの入力が完了したら、「**保存**」ボタンをクリックしてください。

ホットキーの設定を全てデフォルト値にリセットするには、「**リセット**」ボタンをクリックしてください。

ホットキーアクションの内容は下表の通りです。

| アクション       | 説明  |
|-------------|---|
| リモート操作の終了   | リモートビューを終了し、Web ブラウザのメイン画面に戻ります。これはコントロールパネルの「終了」アイコンをクリックする操作に相当します。デフォルトでは、[F2][F3][F4]に設定されています。   |
| ビデオの調整      | 「ビデオ設定」ダイアログを起動します。これはコントロールパネルの「ビデオ設定」アイコンをクリックする操作に相当します。デフォルトでは[F5][F6][F7]に設定されています。  |
| OSD の切替     | OSD コントロールパネルを表示/非表示に切り替えます。デフォルトでは[F3][F4][F5]です。  |
| マウス表示を切り替える | ローカル、リモートの2つのマウスポインターが表示されて操作しづらい場合は、この機能を使用してマウスポインターを最小化することができます。この機能はトグル式になっておりますので、同じホットキーを再度入力するとマウスポインターを元の状態に戻します。これはコントロールパネルの「マウスポインター」アイコンをクリックし、「ドット」ポインターを選択する操作に相当します。デフォルトでは[F7][F8][F9]に設定されています。<br><b>注意:</b> Java コントロールパネルにはこの機能はありません。 |
| マウスの調整      | ローカルとリモートのマウスを同期します。デフォルトは[F7][F8][F9]に設定されています。  |
| ビデオの自動同期    | ビデオを自動同期します。これはコントロールパネルの「ビデオの自動同期」アイコンをクリックする操作に相当します。デフォルトでは[F6][F7][F8]に設定されています。  |

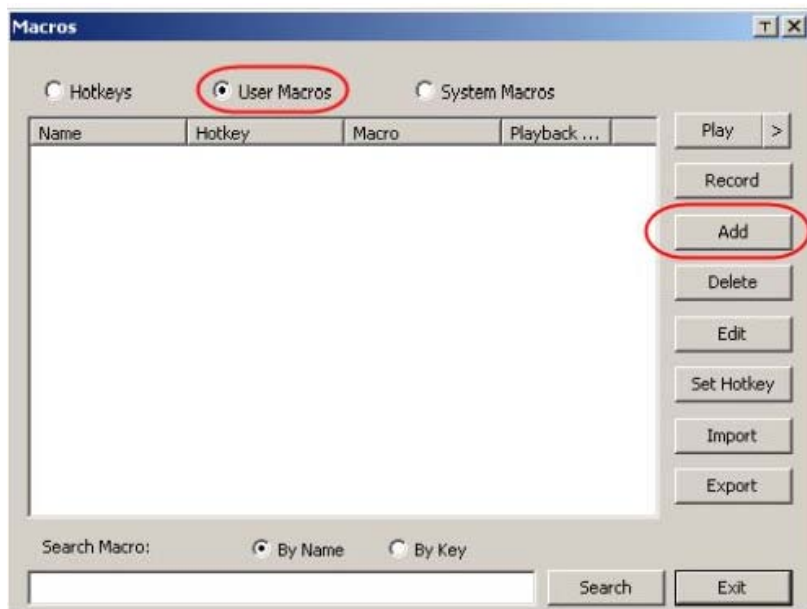
(表は次のページに続きます。)

| アクション             | 説明   |
|-------------------|--|
| ローカルカーソルの表示 / 非表示 | ローカルマウスのポインターの表示を OFF または ON に切り替えます。これはコントロールパネルにある「マウスポインター」から「Null」(無)ポインタータイプを選択するのと同じです。デフォルトでは[F4][F5]に設定されています。   |
| 代替 Ctrl キー        | ローカルコンピューターが[Ctrl]キーの組み合わせをキャプチャし、ホットキーがリモートシステムに送信されない場合は、[Ctrl]キーの代わりとして使用するファンクションキーを指定することでリモートシステムに送信することができます。例えば[F11]キーを[Ctrl]キーの代わりに使用する場合、[F11+5]と入力すると、リモートシステムでは[Ctrl+5]キーが押されたこととなります。デフォルトではこの代替キーが[F11]キーに設定されています。                      |
| 代替 Alt key        | KN1000 との接続中は基本的にキーボードの入力は KN1000 側へ送られますが、[Alt+Tab]と[Ctrl+Alt+Del]はローカルコンピューターでのみ動作します。リモートシステムに対して[Alt+Tab]と[Ctrl+Alt+Del]の機能を実行したい場合には、任意のファンクションキーを[Alt]キーの代わりに設定することができます。例えば[F12]を代替キーにすれば[F12t+Tab]と[Ctrl+F12+Del]と入力します。デフォルトでは[F11]に設定されています。 |

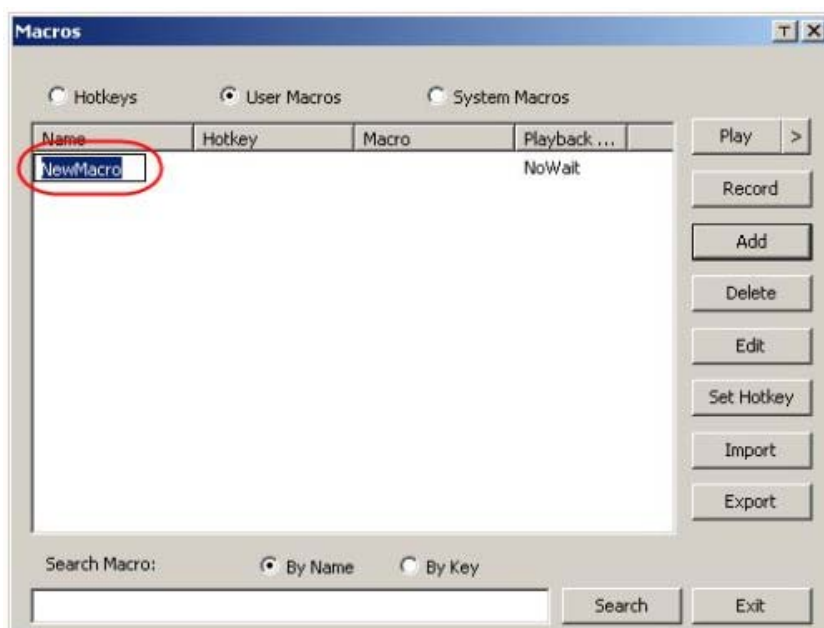
## ユーザーマクロ

ユーザーマクロは、特定のアクションをリモートサーバー側で実行する場合に使用します。マクロを作成するには以下の手順に従ってください。

1. 「ユーザーマクロ」ラジオボタンを選択し、「追加」ボタンをクリックしてください。



2. 新しいマクロはデフォルトで「New Macro」という名前で作成されますので、必要であれば、ダイアログでこの名前を変更してください。



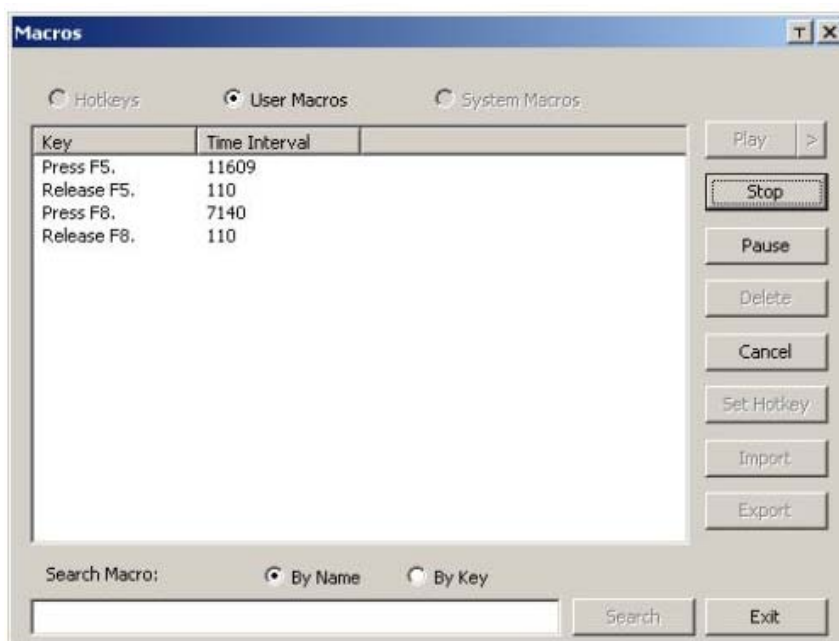
3. 「記録」ボタンをクリックしてください。

ダイアログボックスが終了し、画面左上に下図のような小さいパネルが表示されます。



4. マクロキーを押してください。

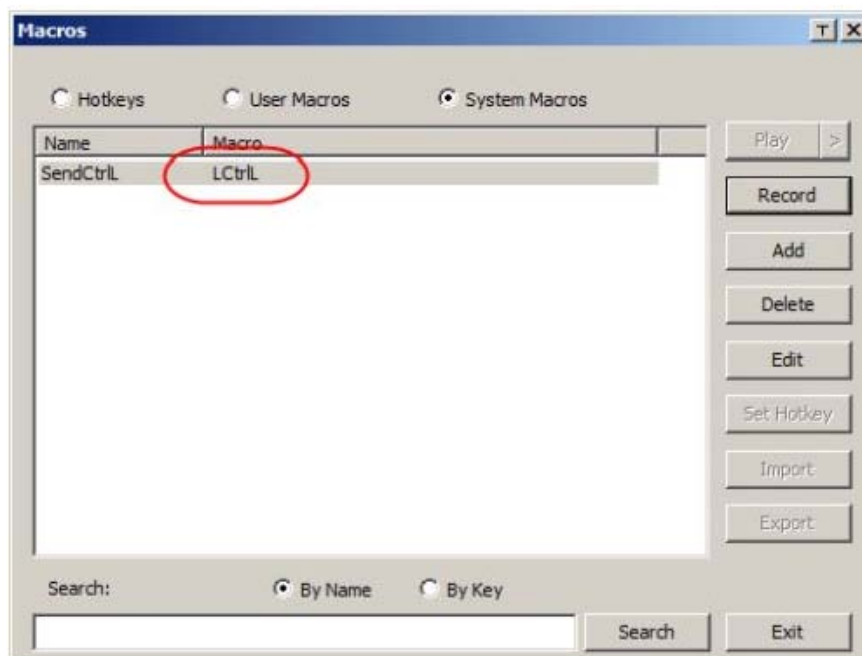
- ◆ マクロの記録を中断する場合は、「一時停止」ボタンをクリックしてください。中断していた記録を再開するには、もう一度「一時停止」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 「表示」ボタンをクリックするとダイアログが立ち上がり、作成したキー入力全てとそれぞれ要した時間が一覧表示されます。



- ◆ 「Cancel」ボタンをクリックすると、キー入力を取り消します。
- ◆ 入力が完了したら「停止」ボタンをクリックしてください。これは手順 5 の「実行」ボタンをクリックする操作に相当します。

- 
- 注意:**
1. 大文字/小文字は区別しません。[A]または[a]を入力しても同じ結果となります。
  2. マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。マクロダイアログを選択した状態では記録できません。
  3. マクロとして記録できるのは直接入力時のキーのみです。日本語入力が有効になっている場合の文字は使用することができません。例えば、キーボードが日本語で[A]キーを押した場合、日本語入力が ON になっている場合の[あ]の文字は記録されません。
-

5. 「表示」ダイアログを立ち上げていない場合は、マクロの記録を終了する際に、「実行」ボタンをクリックしてください。この時、「マクロ」ダイアログに戻ると、リストには先程入力したユーザーマクロキーが表示されます。



6. 入力キーを変更する場合は、対象となるマクロを選択し、「編集」ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると「表示」ボタンを押した時同様のダイアログボックスが表示されるので、入力キーの種類や順番を変更することができます。
7. 他のマクロを作成する場合は、上記の手順を繰り返してください。

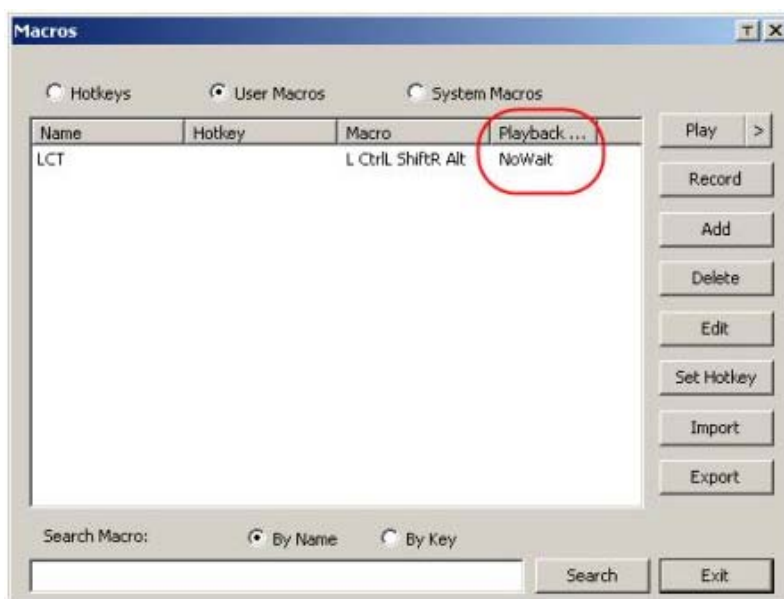
作成したマクロは、下記のいずれかの方法で実行することができます。

1. アクションに割り当てられたホットキーを使用する(ホットキーを割り当てている場合)。
2. コントロールパネルのマクロリストを開き、対象となるマクロをクリックする(p.99 参照)。
3. このダイアログを開いて、「再生」ボタンをクリックする。



このダイアログボックスからマクロを実行する場合、マクロの実行方法を指定することができます。

- ◆ 「すぐに再生」を選択した場合、マクロは入力キー遅延時間なしで実行します。
- ◆ 「タイムコントロール再生」を選択した場合、マクロを記録した際のキー入力とその時のキー入力時間の間隔を再現しながら実行します。オプションを選択する場合は「再生」ボタンの隣にあるボタンをクリックしてください。
- ◆ 一覧を開かずに「再生」ボタンをクリックすると、マクロはデフォルトの方法で実行されます。デフォルトの値(すぐに実行またはタイムコントロール)が「再生モード」列に表示されます。



現在の設定値(上図では「すぐに実行」)をクリックして表示されるメニューから、別の設定を選択することで、この内容を変更することができます。

- 注意:**
1. 検索機能については次のセクションを参照してください。
  2. ユーザーマクロは各ユーザーのローカルクライアントコンピューターに保存されるため、マクロの数、マクロ名の長さや実行ホットキーの構成についての制限はありません。

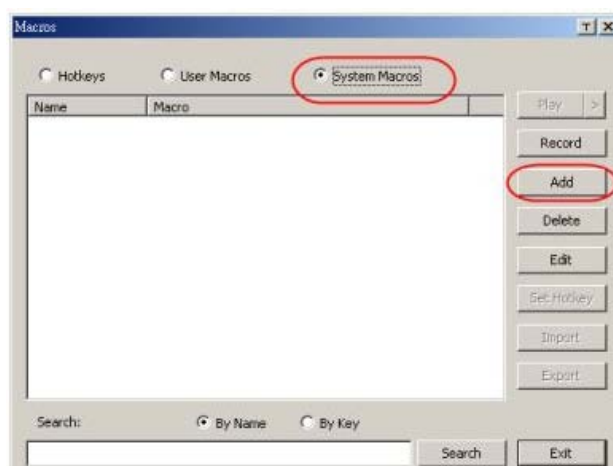
## 検索

ダイアログボックスの下部にある「検索」ボタンを使うと、上部の大きいパネルに表示されるマクロ一覧から実行したり編集したりするマクロを絞り込むことができます。絞り込む条件を名前にするかキーにするかをラジオボタンで選択し、検索に使用する文字列をテキストボックスに入力してから「検索」ボタンをクリックしてください。この文字列に合致するものが上部パネルに表示されます。

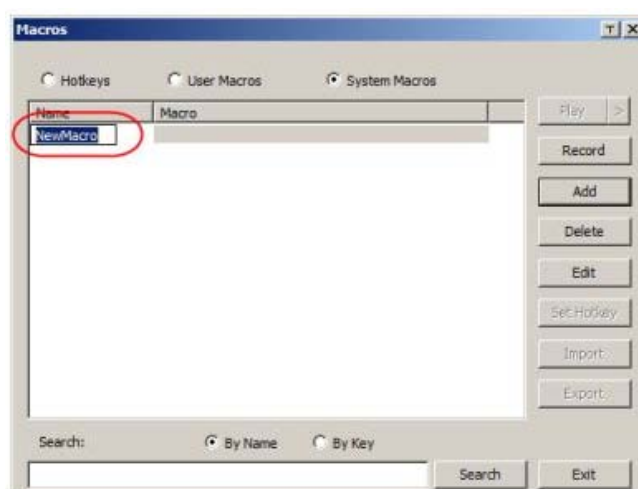
## システムマクロ

システムマクロはセッション終了時に実行される終了マクロを作成する際に使用します。例えば、[Windows] + [L]キーをログアウト時に実行するマクロを作成しておく、ユーザーがその後にデバイスにアクセスした際には必ずリモートデバイスのログイン画面を表示することができるので、セキュリティを強化することもできます。マクロを作成する場合は、下記の手順に従ってください。

1. 「システムマクロ」ラジオボタンを選択し、「追加」ボタンをクリックしてください。



2. 新しいマクロはデフォルトで「NewMacro」という名前で作成されるので、必要であればダイアログでこの名前を変更してください。



3. 「記録」ボタンをクリックしてください。

このボタンをクリックするとダイアログボックスが終了し、画面左上に下図のような小さいパネルが表示されます。



4. マクロキーを押してください。

- ◆ マクロの記録を中断する場合は、「一時停止」ボタンをクリックしてください。中断していた記録を再開するには、もう一度「一時停止」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 「表示」ボタンをクリックするとダイアログが立ち上がり、作成したキー入力全てとそれぞれ要した時間が一覧表示されます。

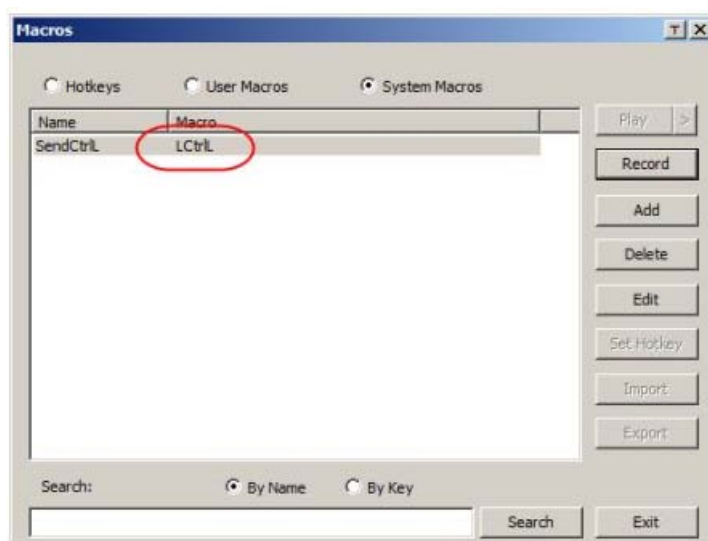
---

**注意:**

1. 大文字/小文字は区別しません。[A]または[a]を入力しても同じ結果となります。
2. マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。マクロダイアログを選択した状態では記録できません。
3. マクロとして記録できるのは直接入力時のキーのみです。日本語入力が有効になっている場合の文字は使用することができません。例えば、キーボードが日本語で[A]キーを押した場合、日本語入力が ON になっている場合の[あ]の文字は記録されません。

---

5. 「表示」ダイアログを立ち上げていない場合は、マクロの記録を終了する際に、「実行」ボタンをクリックしてください。この時、「マクロ」ダイアログに戻ると、リストには先程入力したユーザーマクロキーが表示されます。



6. 入力キーを変更する場合は、対象となるマクロを選択し、「編集」ボタンをクリックしてください。  
このボタンをクリックすると「表示」ボタンを押した時同様のダイアログボックスが表示されるので、入力キーの種類や順番を変更することができます。
7. 他のマクロを作成する場合は、上記の手順を繰り返してください。

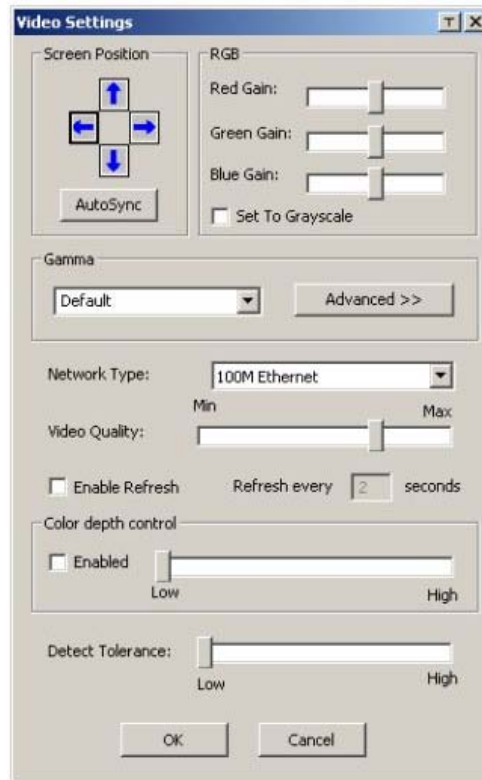
システムマクロを作成すると、KN1000 のログアウト時にそのマクロを実行することもできます (p.40 「終了マクロ」参照)。

- 
- 注意:**
1. 検索機能については p.108 を参照してください。
  2. システムマクロは KN1000 内部に保存されるので、マクロ名は 64 バイト以内 (1 バイトは半角英数字 1 文字) で、ホットキーの組み合わせは 256 バイト以内 (キー1 つの入力で通常 3~5 バイト使用) でそれぞれ設定してください。
-



## ビデオ設定

「ビデオ設定」ダイアログでは、リモート画面の表示位置及び画質の調整を行います。



「ビデオ調整」の各項目の詳細は下表の通りです。

| 項目   | 機能   |
|------|--|
| 画面位置 | 方向ボタンをクリックしてリモートコンピューターのウィンドウの水平位置及び垂直位置を調整します。  |
| 自動同期 | このボタンをクリックすると、リモート画面の垂直方向及び水平方向のオフセット値を検出し、ローカル画面で自動同期を取ります。<br><b>注意:</b><br>1. ローカルとリモートの間でマウスが同期を失った場合、このボタンを押すと同期することができます。<br>2. この機能は画面が明るい時に効果を発揮します。<br>3. 自動同期の結果に満足されない場合は、「画面位置」パネルにある方向ボタンを使って手動で設定し直してください。 |

(表は次のページに続きます。)

| 項目             | 機能  |
|----------------|---|
| RGB            | <p>スライドバーをドラッグして RGB(赤、緑、青)値を調整します。RGB 値が大きくなると、画像の RGB 要素もそれに合わせて増加します。</p> <p>「モノクロに設定」の項目を有効にすると、リモート画面をグレースケールで表示します。</p>   |
| ガンマ            | <p>ビデオ表示のガンマレベルを調整します。この機能については後のセクションで説明します。</p>   |
| ネットワークタイプ      | <p>ローカルクライアントコンピューターと KN1000 の間で使用されているインターネット接続のタイプを選択します。製品はここで選択した項目によって、「ビデオ画質」、「検出許容値」の各項目を自動的に調整し、ビデオの表示画質を最適化します。</p> <p>ネットワークの条件は変化しますので、プリセットの選択項目では不都合が生じる場合があるかもしれません。その際は、「カスタマイズ」を選択し、「ビデオ画質」と「検出許容値」のスライドバーを使って、お使いの環境に適した値に調節してください。</p>  |
| ビデオ画質          | <p>スライドバーを使ってビデオの画質を調整してください。値が大きければ画質はより向上しますが、それだけ多くのビデオデータが転送されることとなります。お使いのネットワークの帯域に依存しますので、高い値に設定するとレスポンス時間が遅くなる可能性があります。</p>   |
| Enable Refresh | <p>本製品は 1～99 秒ごとに画面を再描画し、ブロックノイズ等歪みを除去します。「<b>Enable Refresh</b>」の項目にチェックを入れて、再描画の時間間隔を 1～99 の整数で入力してください。製品はここで設定された時間間隔で、画面を再描画します。デフォルトではこの機能は無効になっているので、この機能を有効にする場合は「Enable Refresh」の隣にあるチェックボックスをクリックしてチェックを入れてください。</p> <p><b>注意:</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本製品はマウスの動きが止まった時にインターバル時間の計測を開始します。</li> <li>2. この機能を有効にするとネットワークを伝送するビデオデータ量が増加します。また、設定するインターバル時間の値が小さくなるに従って、ビデオデータの転送頻度が高くなります。この値を小さくしすぎると処理全体のレスポンスに影響を与える可能性があるため、ご注意ください。</li> </ol> |
| 色深度コントロール      | <p>色情報の値を調整し、ビデオ画面の色深度を調節します。</p>   |

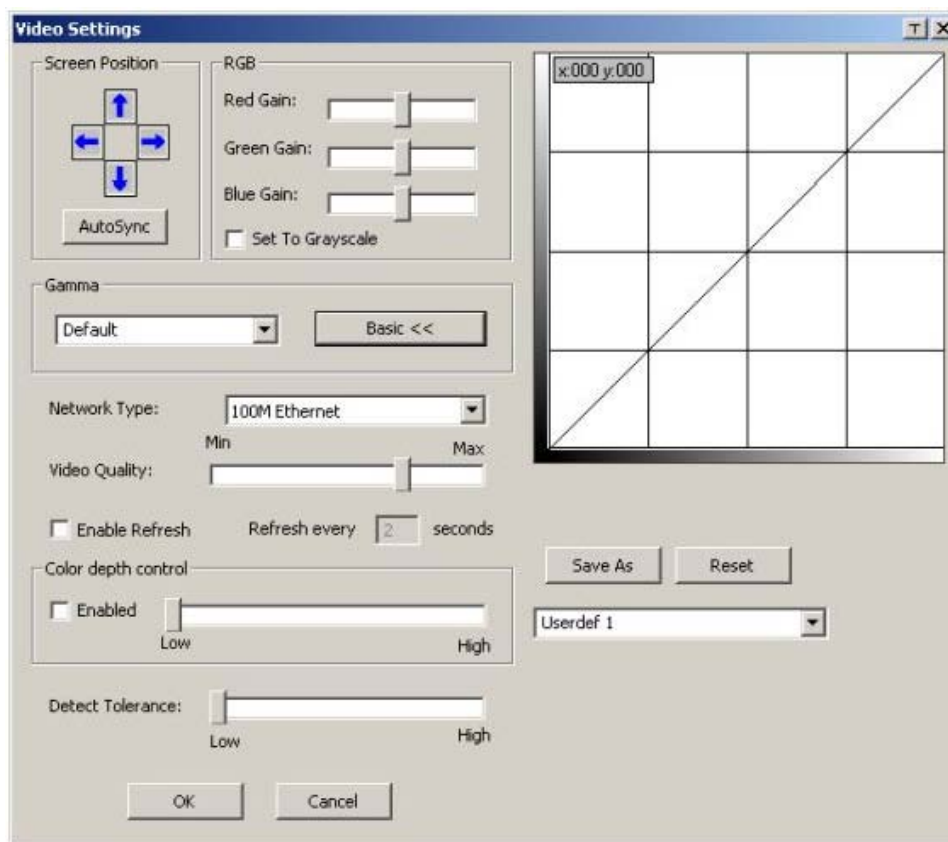
(表は次のページに続きます。)

| 項目    | 機能   |
|-------|--|
| 検出許容値 | ビデオ画質に関連する設定項目です。この項目の値を変更することで、ピクセル変化の検出を行ったり、変化を無視したりすることができます。設定値を高くすると、データ転送量が少なくなり、表示画質が低くなります。また、設定値を低くすると高い表示画質を提供することができますが、設定値が低くすぎるとデータの転送量が増えすぎて、逆にネットワークのパフォーマンスに悪影響を及ぼす場合があります。 |

## ガンマ調整

リモート表示画面のガンマレベルを調整する必要がある場合は、「ビデオ設定」ダイアログの「ガンマ」機能を使用してください。

- ◆ 「基本」設定では、10 種類の規定値、4 種類のユーザー定義値を選択することができます。リストボックスをドロップダウンして、最適な値を選択してください。
- ◆ さらに細かい設定を行うには「詳細」ボタンをクリックしてください。クリックすると、下図のようなダイアログが表示されます。

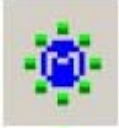


- ◆ 画面出力の値を調節する場合は、斜線の部分をクリックし、ドラッグしてください(複数箇所を操作することが可能)。
- ◆ 上記の方法で変更した値をユーザー定義の設定として保存する場合は「**別名で保存**」ボタンをクリックしてください。ユーザー定義の値は最大 4 種類まで保存することができます。設定された値はリストボックスから選択できます。
- ◆ 変更内容を破棄し、ガンマラインを元の状態に戻す場合は「**リセット**」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 変更内容を保存し、ダイアログを終了する場合は「**OK**」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 変更内容を破棄し、ダイアログを終了する場合は「**Cancel**」ボタンをクリックしてください。

---

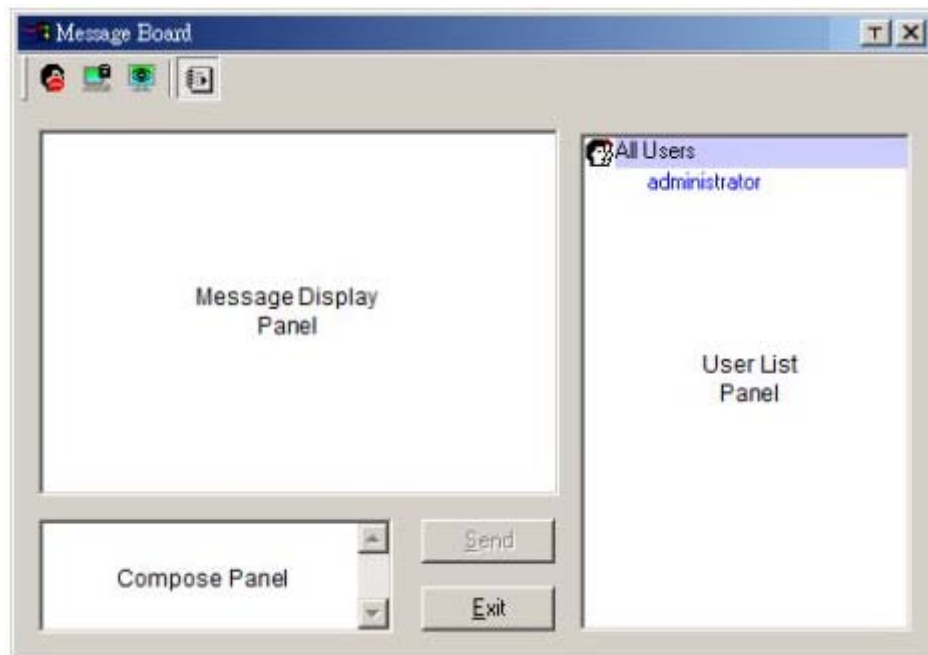
**注意:** 最適な値で設定するために、リモート画面を見ながら設定値の変更を行ってください。

---



## メッセージボード

KN1000 はマルチユーザーログインに対応しておりますが、複数ユーザーによる操作の競合を避けるために、インターネットチャットプログラムのようなメッセージボード機能を提供しております。この機能を使うことによって、現在 KN1000 にログインしているユーザー同士でコミュニケーションを取ることができます。



## ボタンバー

ボタンバーにあるボタンはトグルボタンです。各ボタンの機能は下表の通りです。

| ボタン   | 機能  |
|---|---|
|    | チャット機能を <b>有効/無効</b> にします。チャット機能が無効になっている場合、このボタンは網がけされた状態になり、メッセージボードにメッセージが送信されても表示されません。ユーザーリストパネルのユーザー名の横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがチャット機能を無効にしていることを表しています。  |
|    | <b>キーボード・ビデオ・マウス(KVM)を占有/開放</b> します。KVMがあるユーザーによって占有されている場合 (p.86 「マルチユーザーモード」参照)、このボタンは網がけされた状態になり、他のユーザーは画面のモニタリング及びキーボード・マウスの操作ができなくなります。ユーザーリストパネルのユーザー名の横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーが KVM を占有していることを表しています。       |
|  | <b>キーボード・マウスを占有/開放</b> します。キーボード・マウスがあるユーザーによって占有されている場合 (p.86 「マルチユーザーモード」参照)、このボタンは網がけされた状態になり、他のユーザーは画面のモニタリングは可能ですが、キーボード・マウスの操作ができなくなります。ユーザーリストパネルのユーザー名の横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがキーボード・マウスを占有していることを表しています。 |
|  | <b>ユーザーリストの表示/非表示</b> を切り替えられます。ユーザーリストを非表示にすると、ユーザーリストパネルが閉じられます。ユーザーリストが表示されている時、このボタンは網がけされた状態になります。   |

## メッセージ表示パネル

ユーザーがメッセージボードに書き込んだメッセージはシステムメッセージと同様、メッセージ表示パネルに出力されますが、チャット機能を無効にしている場合は、ボードにメッセージが書き込まれても表示されません。

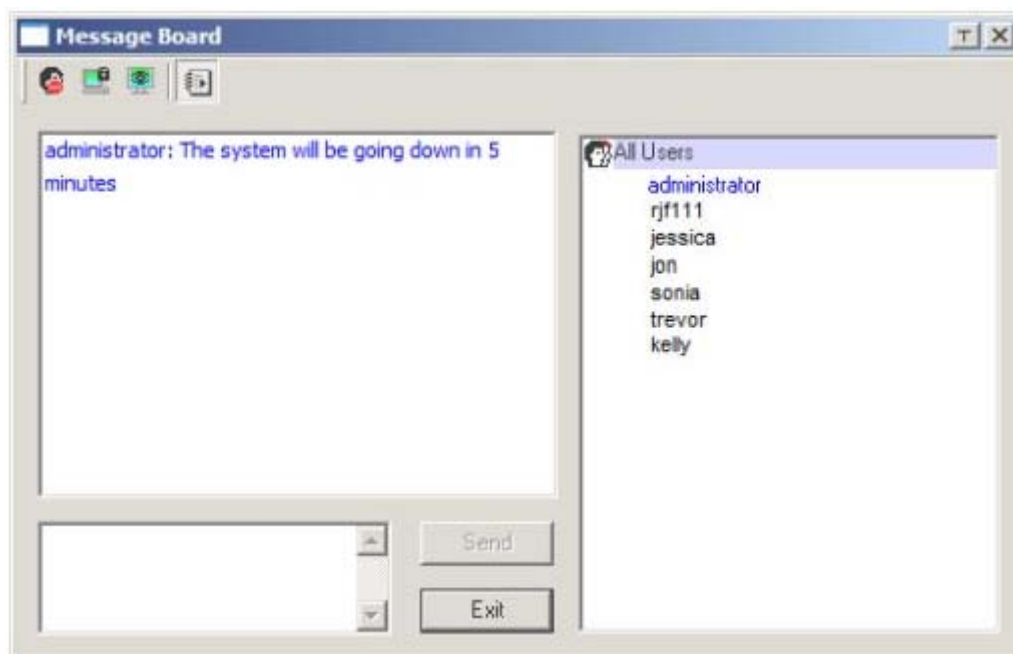
## メッセージ編集パネル

メッセージを送信したい場合は、このメッセージ編集パネルに内容を入力して、「送信」ボタンをクリックするか、「Enter」キーを押してください。

## ユーザーリストパネル

現在ログイン中のユーザーのユーザー名がこのパネルに表示されます。

- ◆ 自身の名前は青色で、その他のユーザーの名前は黒色でそれぞれ表示されます。
- ◆ デフォルトの設定では、メッセージは全てのユーザー宛に送信されます。特定のユーザー宛にメッセージを送信したい場合は、宛先となるユーザーを選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ 一旦、ユーザーの名前が選択された状態で再び全員宛にメッセージを送信したい場合は、「All Users」を選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ ユーザーがチャット機能を無効にしている場合、機能を無効にしていることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。
- ◆ ユーザーがキーボード・ビデオ・マウス、またはキーボード・マウスを占有している場合、デバイスを占有していることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。



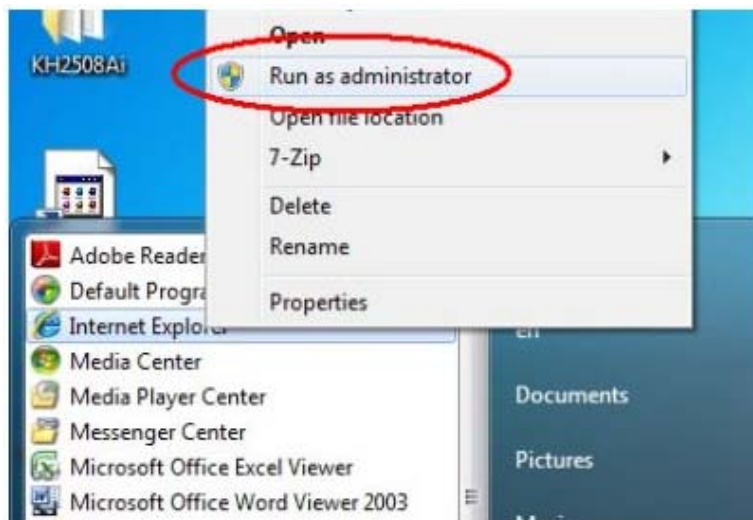


## バーチャルメディア

バーチャルメディア機能を使うと、ローカルクライアントコンピューター側のドライブ、フォルダー、イメージファイル、リムーバブルディスクをリモートサーバーでマウントして使用することができます。また、ローカルクライアントコンピューターに接続されたスマートカードリーダーをリモートサーバー側で認識させることも可能です。

### Windows Vista / 7

Windows Vista/7 のユーザーで KN1000 のバーチャルメディア機能を使用する場合は、アドミニストレーターとしてブラウザからログインしなければなりません。その場合、下図のように、ブラウザネームを右クリックし、「アドミニストレーターとして実行」を選択してください。



### バーチャルメディア機能関連アイコン

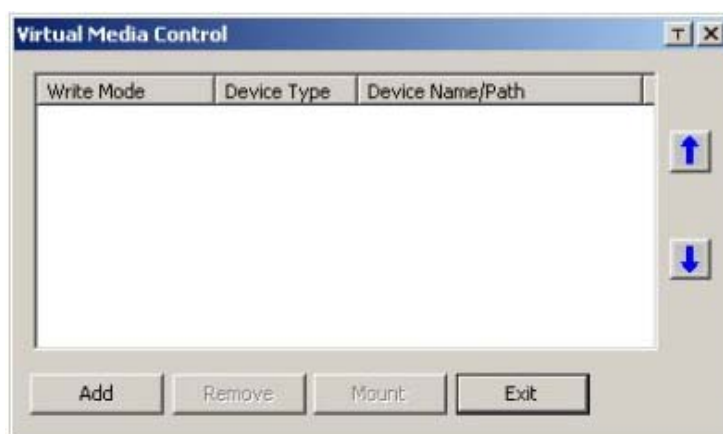
Windows クライアントのバーチャルメディアアイコンは、バーチャルメディア機能が利用可能かどうか、バーチャルメディアデバイスがリモートサーバーにマウントされたかどうかを表します。各アイコンが示す機能の詳細は下表の通りです。

| アイコン | 機能  |
|------|---|
|      | バーチャルメディア機能が利用可能である場合、このアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、バーチャルメディアのダイアログを表示します。                     |
|      | バーチャルメディアデバイスがリモートサーバー側にマウントされていると、このアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、リダイレクトされているデバイスは全てアンマウントされます。 |

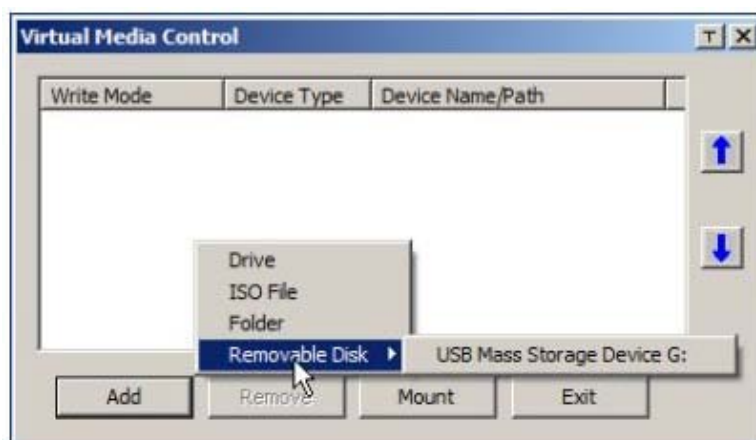
## バーチャルメディアのリダイレクト

バーチャルメディアのリダイレクト機能を実行する場合は、下記の手順に従ってください。

1. バーチャルメディアアイコンをクリックして「バーチャルメディア制御」ダイアログを起動してください。



2. 「追加」ボタンをクリックし、ソースメディアを選択してください。

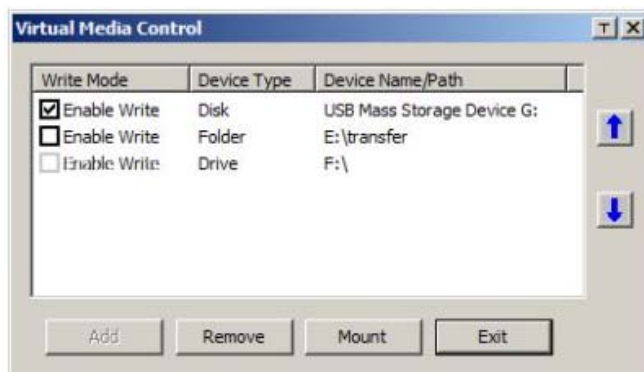


選択した項目に応じて、ドライブ、ファイル、フォルダー、リムーバブルディスクのパスを選択するダイアログが表示されます。各メディアのマウント方法については、p.200 「対応バーチャルメディア」を参照してください。

3. その他のソースメディアも追加する場合は、「追加」ボタンをクリックして必要となるメディアを追加してください。

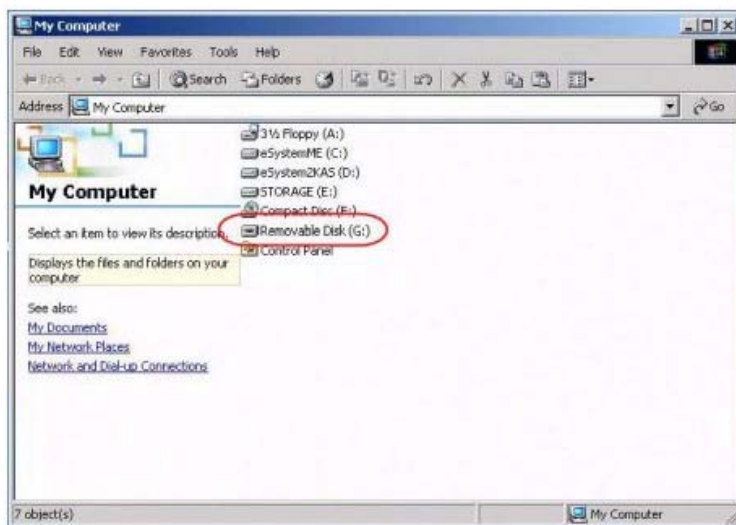
バーチャルメディアは最大3つまでマウントすることができ、リストで上から3つまでの項目が選択されます。選択された項目の順番を入れ替える場合は、移動させたいデバイスを選択し、上下の矢印ボタンをクリックして順序を決定してください。

4. 「Read」はリモートサーバーにデータを送信することのできるリダイレクトされたデバイスを、また「Write」はリモートサーバーからのデータが書き込み可能な状態になっているリダイレクトされたデバイスをそれぞれ指しています。デフォルトの設定では、読み取り専用になっていますので書き込みの機能は無効になっています。リダイレクトされたデバイスの読み取りと書き込みを同時に許可した場合は、「書込の有効化」の項目にチェックを入れてください。



- 注意:**
1. リダイレクトされたデバイスに書き込みができない場合は、リスト中ではグレーで表示されます。
  2. 本製品が対応しているバーチャルメディアの種類については、p.200 「対応バーチャルメディア」を参照してください。

5. リストから項目を削除する場合は、対象となる項目を選択してから、「**削除**」ボタンをクリックしてください。
6. ソースメディアの選択後に「**マウント**」ボタンをクリックすると、ダイアログは終了します。この時、選択されたバーチャルメディアのデバイスがリモートシステムにリダイレクトされ、リモートシステムのファイルシステムで認識されます。



デバイスがマウントされると、そのデバイスをリモートサーバーのメディアと同じように扱うことができるので、ファイルのドラッグやドロップを行ったり、リモートシステムのファイルを開いて編集後にリダイレクトされたデバイスに保存したりすることもできます。

リダイレクトされたメディアに保存されたファイルは、実際にはローカル側のファイルシステムに保存されます。また、リダイレクトされたメディアからドラッグしたファイルは、実施にローカルシステム側から移動することになります。

7. リダイレクトを終了する場合は、コントロールパネルを起動してバーチャルメディアのアイコンをクリックしてください。マウントされたデバイスは全て自動的にアンマウントされます。

## スマートカードリーダー

スマートカードリーダー機能を使うと、ローカルクライアントコンピューターの USB ポートに接続されたリーダーをリダイレクトし、リモートサーバー側に認識させることができます。スマートカード(例: コモンアクセスカード)を使うと、リモートサーバーへの認証がローカルクライアントから可能になります。

スマートカードリーダーがローカルクライアントコンピューターに接続されている場合、このエントリは「バーチャルメディア」ダイアログを起動し「追加」ボタンをクリックした時に表示されます。



メニューから適切なものを選択し、「Mount」ボタンをクリックしてリダイレクトを完了させてください。

---

**注意:** スマートカードリーダーをマウントする場合、他のバーチャルメディアデバイスをマウントすることはできません。既にマウントされているバーチャルメディアデバイスがある場合は、スマートカードリーダーをマウントする前に、これらのデバイスのマウントを解除してください。

---



## ズーム

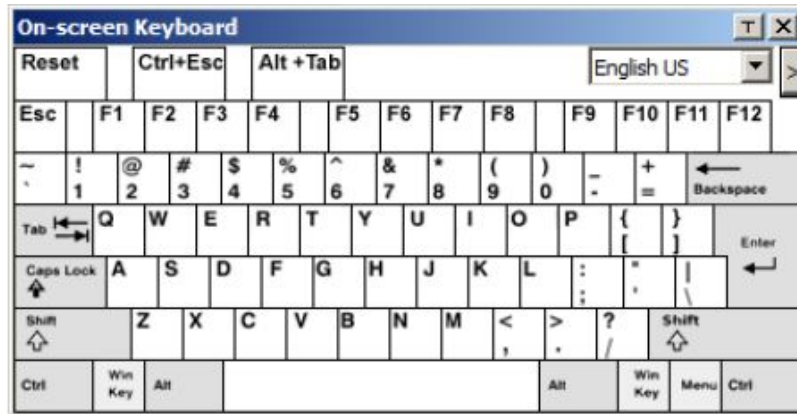
リモートビューのウィンドウをズーム表示します。製品が提供している設定倍率は下表の通りです。

| 設定   | 説明   |
|------|--|
| 100% | リモートビューのウィンドウを 100%の倍率で表示します。  |
| 75%  | リモートビューのウィンドウを 75%の倍率で表示します。   |
| 50%  | リモートビューのウィンドウを 50%の倍率で表示します。   |
| 25%  | リモートビューのウィンドウを 25%の倍率で表示します。   |
| 1:1  | リモートビューのウィンドウを 100%の倍率で表示します。これは 100%の倍率で表示した場合と異なり、リモートビューウィンドウがリサイズされても、表示サイズは変更されません。表示されていない部分を操作したい場合は、マウスをウィンドウの端に移動させ、スクロールを使用してください。 |



## オンスクリーンキーボード

KN1000 では、各言語の標準的なキーボードレイアウトが利用できるオンスクリーンキーボード機能を提供しています。このアイコンをクリックすると、下図のようなオンスクリーンキーボードが表示されます。



オンスクリーンキーボードを利用するメリットの一つとして、リモート側とローカル側のキーボード言語が異なる場合でも、片方のキーボードの設定を変更することなく操作ができるという点が挙げられます。ユーザーはオンスクリーンキーボードを起動し、アクセス中のポートに接続されているコンピュータで使用されている言語を選択するだけで、オンスクリーンキーボードの利用が可能です。

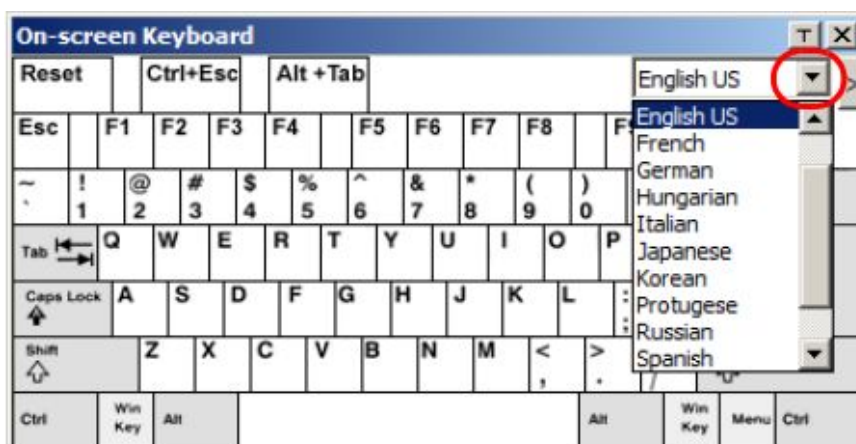
---

**注意:** オンスクリーンキーボードの操作はマウスで行ってください。実際のキーボードで操作することはできません。

---

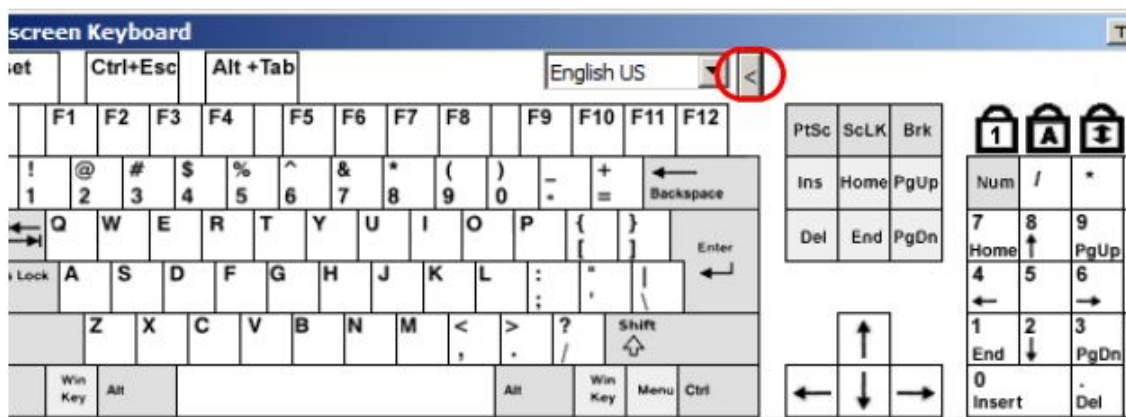
言語を変更するには、以下の手順に従ってください。

1. 現在選択されている言語の隣にある三角ボタンをクリックし、リストを展開してください。



2. 新しい言語をリストから選択してください。

拡張したオンスクリーンキーボードを表示または非表示にする場合は、言語選択リストの右隣にある矢印ボタンをクリックしてください。





## マウスポインター

本製品は、リモート画面で使用するマウスカーソルのポインターを数種類提供しています。ポインターを変更する場合は、アイコンをクリックして、リストからポインターを選択してください。



**注意:** コントロールパネルのアイコンは、現在使用しているポインターの種類に応じて変わります。



## マウス同期モード

ローカルとリモートのマウスポインターは自動または手動で同期させることができます。

### 自動同期(USB 接続の場合のみ)

この機能を使用すると、リモート/ローカルマウスのポインターを自動的に同期するので、定期的にマウスの再同期を行う手間が軽減されます。

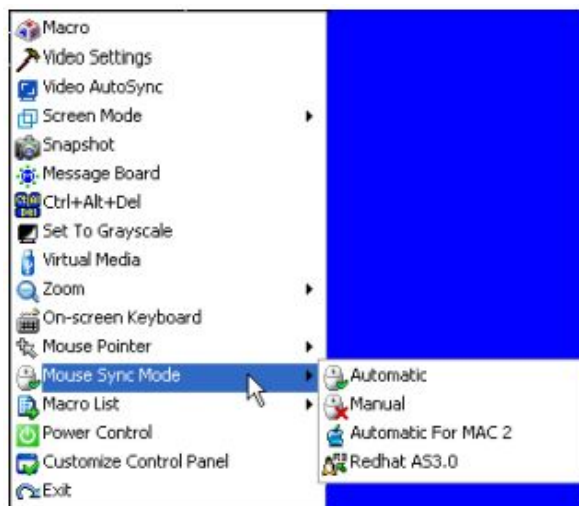
マウスの同期モードを表すツールバーのアイコンは下表の通りです。

| アイコン | 機能   |
|------|--|
|      | マウスダイナシク機能が利用可能、かつ、 <b>有効</b> になっていることを表します。マウスダイナシク機能が利用可能である場合は、これがデフォルト設定になっています。 |
|      | マウスダイナシク機能が利用可能であるものの、 <b>無効</b> であることを表しています。                                       |

マウスダイナシクが利用可能である場合、このアイコンをクリックするとマウスダイナシクを有効または無効に切り替えます。マウスダイナシクを無効に選択した場合は、次のセクションの手動同期を行う必要があります。

## Mac/Linux 環境の場合

- ◆ Mac をお使いの場合、マウス同期機能が有効であれば、別の方法でダイナシク機能の設定を行うことができます。デフォルト設定の同期方法では満足いく結果が得られなかった場合は、「Mac 2」の設定をお試ください。「Mac 2」の項目を選択する場合は、コントロールパネルのテキスト部分を右クリックし、「マウス同期モード」→「Automatic for Mac 2」を選択してください。



- ◆ Linux をお使いの場合も、マウス同期モードのメニューから別の設定を選択することができます。デフォルトのマウス同期の方法では満足いく結果が得られなかった場合は、「Redhat AS3.0」の設定をお試ください。

## 手動設定によるマウス同期

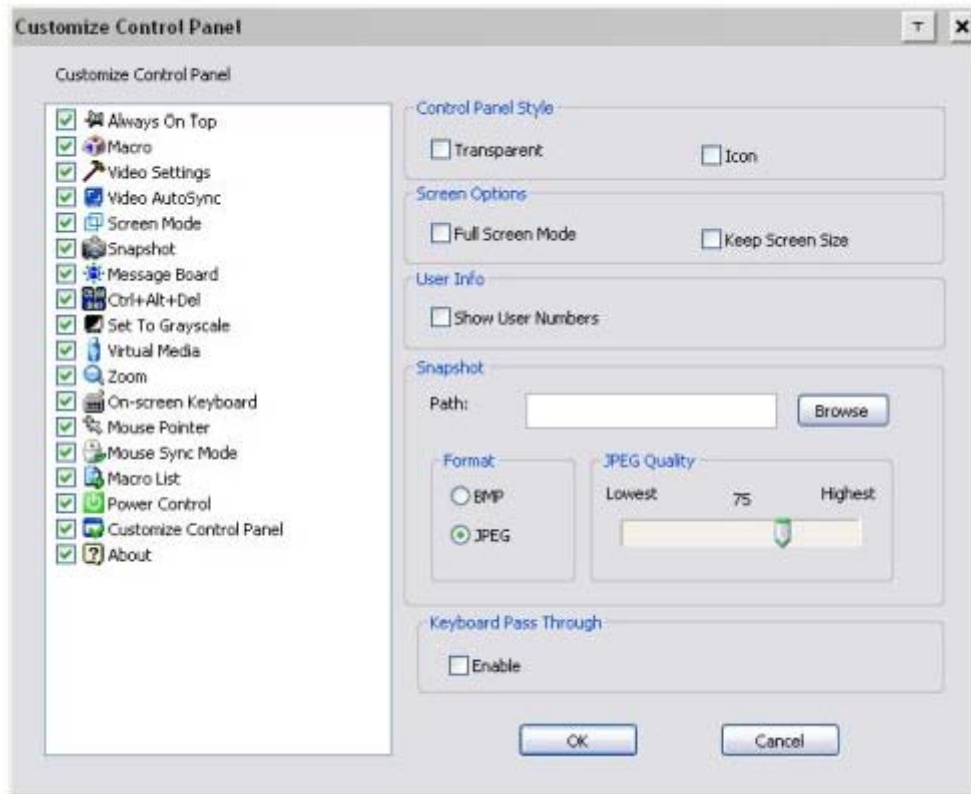
自動同期のマウスダイナシクではなく、手動のマウス同期を行い、かつローカルとリモートのマウスポインターが同期を失った場合、いくつかの方法で再同期することができます。

1. コントロールパネルの「ビデオ設定」アイコンをクリックして、ビデオとマウスのマウス同期を実行してください(p.111 参照)。
2. 「ビデオ設定」ダイアログの「自動同期」ボタンを使って自動同期を実行してください(詳細は p.111 「ビデオ設定」を参照)。
3. 「マウス調整」ホットキーを使用して「マウス調整」機能を起動してください(詳細は p.102 「マウスの調整」を参照)。
4. 画面の四隅にマウスポインターを動かしてください(動かす順序は問いません)。
5. 画面上のコントロールパネルをドラッグして別の位置に移動させてください。
6. 製品に接続されているコンピューターのうち、マウスの同期に問題あるものを対象に、マウスポインターのオプション(速度、精度)の設定を行ってください。手順の詳細は p.196 「その他のマウス同期方法」を参照してください。



## コントロールパネルのカスタマイズ

コントロールパネルのアイコンをクリックすると、コントロールパネルに表示するアイコンやコントロールパネルの外観の設定を行うことができます。



ダイアログは主に 6 箇所に分かれています。各部分の詳細は下表の通りです。

| 項目               | 説明   |
|------------------|--|
| コントロールパネルのカスタマイズ | コントロールパネルで表示するアイコンを選択することができます。  |
| コントロールパネルのスタイル   | <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 「透明」の項目にチェックを入れると、コントロールパネルを透過させることができます。これによって、コントロールパネルを表示していても、その下にあるオブジェクトを確認することができます。</li><li>◆ 「アイコン」の項目にチェックを入れると、通常はアイコンとして表示されます。マウスをアイコンの上に移動させると、パネル全体が表示されます。</li></ul> |

(表は次ページへと続きます。)

| 項目       | 説明  |
|----------|---|
| 画面オプション  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「フルスクリーンモード」の項目にチェックが入っている場合、リモート画面はお使いのモニターにフルサイズで表示されます。</li> <li>◆ 「フルスクリーンモード」の項目にチェックが入っていない場合、リモート側の画面はローカルデスクトップのプログラムのようにウィンドウ形式で表示されます。リモート画面の解像度が大きくてウィンドウに表示されない部分がある場合には、スクロールバーが表示されます。</li> <li>◆ 「画面サイズを保持」の項目にチェックが入っている場合、リモート側の画面はリサイズされません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ リモート側の画面の解像度がローカルモニターの画面の解像度より小さい場合、リモート側のデスクトップ画面をウィンドウの状態画面の中央に表示されます。</li> <li>➤ リモート側の画面の解像度がローカルモニターの画面の解像度よりも大きい場合、リモート側のデスクトップ画面がローカルモニターの大きさにリサイズされます。</li> </ul> </li> <li>◆ 「画面サイズを保持」の項目にチェックが入っていない場合、リモート側のデスクトップ画面はローカルモニターの解像度に合わせてリサイズされます。</li> </ul> |
| ユーザー情報   | <p>この項目にチェックが入っている場合は、コントロールパネルの上部テキスト行の中央に、現在ログインしているユーザーの合計が表示されます(表示例は p.96 のコントロールパネルの図を参照)。</p>  |
| スナップショット | <p>この部分は、製品の画面キャプチャに関連する設定項目です。(詳細は p.96 「コントロールパネル」のスナップショットを参照)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「パス」は、キャプチャされた画面が自動的に保存されるフォルダーのパスを設定します。パスを指定する場合は、テキストボックスの隣にある「参照」ボタンをクリックし、フォルダーの選択ダイアログから該当フォルダーを選択して「OK」ボタンをクリックしてください。ここでパスを指定しない場合は、スナップショットがリモート側のデスクトップ上に保存されます。</li> <li>◆ キャプチャした画面のイメージの保存形式(BMP、JPEG)をラジオボタンで選択してください。</li> <li>◆ JPEG を選択した場合は、キャプチャした画像の画質をスライドバーで調整することができます。画質を上げるとより鮮明な画像になりますが、ファイルサイズが大きくなります。</li> </ul>  |

# 第6章

## Java クライアントビューワー

### はじめに

Java クライアントビューワーをご利用いただくと、Java Runtime Environment (JRE)に対応したプラットフォームであれば、どんなコンピューターからでもKN1000にアクセスすることができます (Java クライアントビューワーが動作可能な JRE のバージョンについては p.22 「システム要件」参照)。JRE は Java の Web サイト(<http://www.java.com>)から無料でダウンロードしてお使いいただけます。

Java クライアントビューワーを起動する場合は、ログイン(p.35 「ログイン」参照)した後で、下図のような「ビューワーを開く」リンクをクリックしてください。



**注意:** 「再読込」ボタンの下にあるリンクは、使用ブラウザと「ユーザー設定」の「ビューワー」の設定によって表示が異なります。詳細は p.39 「リモートコンソールプレビュー」を参照してください。



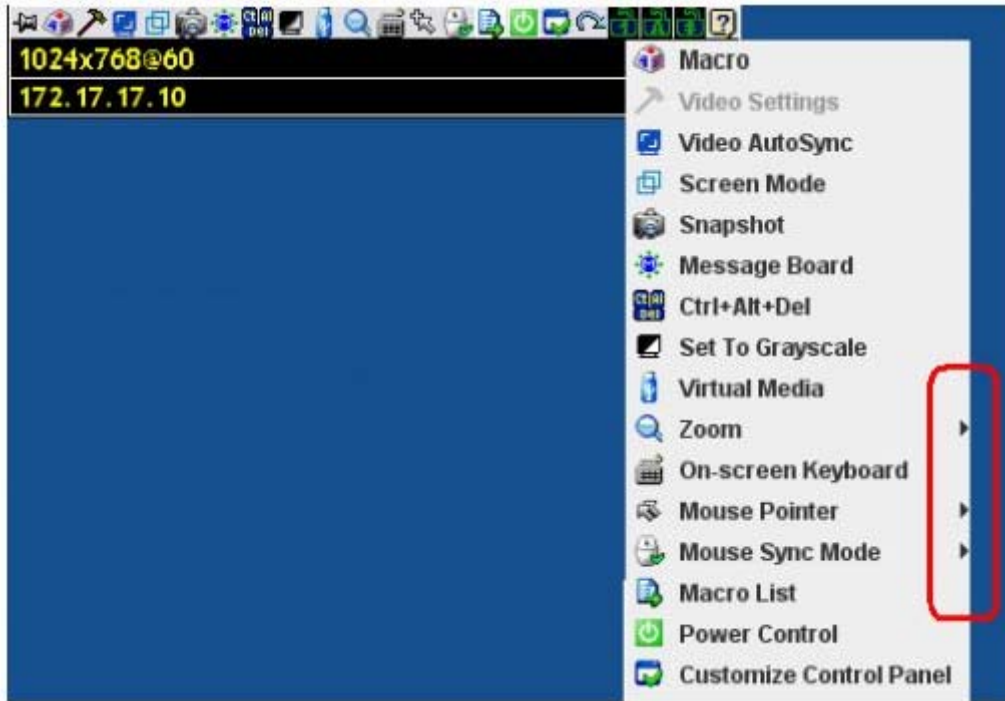
## Java クライアントコントロールパネル

Java クライアントのコントロールパネルは通常は画面上部の中央に隠されていますが、この部分にマウスカーソルを移動させると下図のようなメニューが表示されます。



- 
- 注意:**
1. 上図は全メニューが表示された場合のコントロールパネルの外観です。表示するアイコンはカスタマイズが可能です。詳細は p.128 「コントロールパネルのカスタマイズ」を参照してください。
  2. コントロールパネルは、端をドラッグすることでウィンドウ内の任意の位置に移動させることができます。
- 

- ◆ デフォルトでは、上部テキスト行の左側にはリモートディスプレイの解像度が表示されますが、マウスをアイコンバーのアイコンの上に移動させると、そのアイコンの機能がこの部分に表示されます。
- ◆ コントロールパネルの設定で「ユーザー情報」機能 (p.129 参照) が有効になっていると、現在 KN1000 にログインしているユーザーの数が上部テキスト行の中央に表示されます。
- ◆ テキスト行でマウスを右クリックすると、「ズーム」、「マウスポインター」、「マウス同期モード」のオプションメニューが表示されます。これらの機能については、後のセクションで説明します。











## コントロールパネルの機能



コントロールパネルの機能は下表の通りです。

| アイコン  | 機能  |
|---|---|
|    | コントロールパネルの表示を固定させます。再度クリックすると通常の表示に戻ります。  |
|    | 「マクロ」ダイアログを表示します(詳細は p.101 「マクロ」参照)。  |
|    | 「ビデオ設定」ダイアログを表示します。右クリックすると、クイックオートシンクを実行します(詳細は p.111 「ビデオ設定」を参照)。   |
|    | ビデオとマウスの自動同期機能を実行します。これは「ビデオ設定」ダイアログの「自動同期」ボタンをクリックするのと同じです(p.111 「ビデオ設定」参照)。   |
|  | 表示をフルスクリーン表示とウィンドウ表示とで交互に切り替えます。  |
|  | リモート表示のスナップショット(画面キャプチャ)を取り込みます。スナップショットのパラメーター設定に関する詳細は p.129 「スナップショット」を参照してください。   |
|  | メッセージボードを起動します。(p.115「メッセージボード」参照)。   |
|  | リモートシステムに[Ctrl+Alt+Del]の信号を送ります。  |
|  | リモート画面の表示をカラーまたはモノクロと交互に表示します。  |
|  | 「バーチャルメディア」ダイアログを表示します。赤色の「×」印が付いている場合、この機能が起動していないことを表します。バーチャルメディアデバイスがポートで認識されると、このアイコンは接続デバイスに応じて表示が変わります。詳細は p.118 「バーチャルメディア」を参照してください。 |

(この表は次のページに続きます。)

| アイコン  | 機能  |
|---|---|
|    | <p>リモート表示ウィンドウをズーム表示します。</p> <p><b>注意:</b>この機能はウィンドウモード(フルスクリーンモードが OFF)の場合にのみ利用できます。詳細は p.123 「ズーム」を参照してください。</p>  |
|    | <p>オンスクリーンキーボードが表示されます(p.124 参照)。</p>   |
|    | <p>マウスポインターの種類を選択します。</p> <p><b>注意:</b>このアイコンには現在選択されている種類のポインターが表示されます。(p.126 「マウスポインター」参照)。</p>   |
|    | <p>マウス同期を自動または手動に設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自動同期に設定されている場合、アイコンに緑色のチェックマークが表示されます。</li> <li>◆ 手動同期に設定されている場合、アイコンに赤色の「×」印が表示されます。</li> </ul> <p>この機能に関する詳細は p.126 「マウス同期モード」を参照してください。</p> |
|  | <p>ユーザーマクロの一覧を表示します。この機能を使うことで、「マクロ」ダイアログを使用するよりも簡単にマクロを実行することができます(本表の「マクロ」アイコンまたは p.101 参照)。</p>  |
|  | <p>クリックすると、KN1000 に内蔵された電源スイッチインレット/アウトレットに接続されたサーバーの電源を ON/OFF することができます。詳細は p.41 「電源管理」を参照してください。</p>   |
|  | <p>「コントロールパネルのカスタマイズ」ダイアログを表示します。コントロールパネルの設定に関する詳細は p.128 「コントロールパネルのカスタマイズ」を参照してください。</p>   |
|  | <p>クリックするとリモートビューを終了し、Web ブラウザのメイン画面に戻ります。</p>  |

(この表は次のページに続きます。)

| アイコン  | 機能  |
|---|---|
|  | <p>これらのアイコンはリモートコンピューターの[Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock]各キーの状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ キーが有効になっていると、そのキーの LED が明るいグリーンに点灯し、錠前が閉じたアイコンが表示されます。</li> <li>◆ キーが無効になっていると、そのキーの LED は暗いグリーンに点灯し、錠前が開いたアイコンが表示されます。</li> </ul> <p>ロックキーを有効または無効にする場合は、対象のアイコンをクリックして表示を切り替えてください。</p> <p><b>注意:</b> コントロールパネルへの初回アクセス時には、これらのアイコンが正しく表示されない場合がありますので、クリックして同期させてください。</p> |
|  | <p>Java クライアントビューワーのバージョン情報を表示します。</p>  |

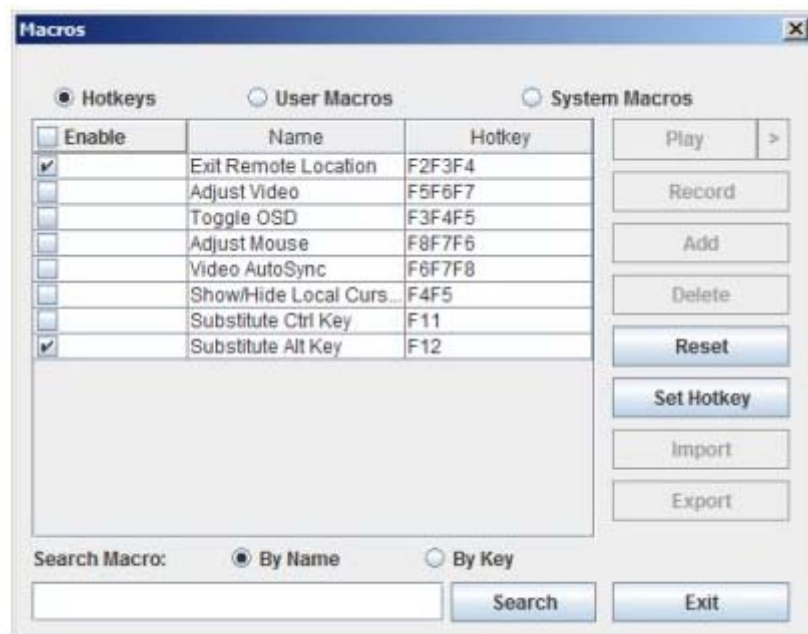


## マクロ

マクロアイコンでは、マクロダイアログボックスの 3 つの機能(ホットキー、ユーザーマクロ、システムマクロ)にアクセスすることができます。これらの機能については後のセクションで説明します。

### ホットキー

コントロールパネルのアイコンをクリックして実行されるアクションは、キーボードから入力されたホットキーで直接実行することができます。「ホットキー」のラジオボタンを選択すると、アクションを実効するホットキーを設定することができます。



Java クライアントでのホットキーは Windows クライアントと同様の方法で操作できます。詳細は p.101 「ホットキー」を参照してください。

---

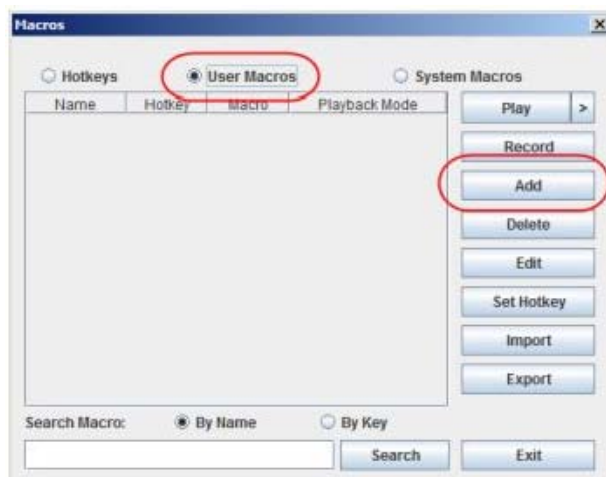
**注意:** マウス表示切替機能は Java ビューワーではご利用いただけません。

---

## ユーザーマクロ

ユーザーマクロは、特定のアクションをリモートサーバー側で実行する場合に使用します。マクロを作成するには以下の手順に従ってください。

1. 「ユーザーマクロ」ラジオボタンを選択し、「追加」ボタンをクリックしてください。



Java クライアントでのユーザーマクロ機能は Windows クライアントと同様の方法で操作できます。詳細は p.104 「ユーザーマクロ」を参照してください。

## システムマクロ

システムマクロはセッション終了時に実行される終了マクロを作成する際に使用します。例えば、[Windows] + [L]キーをログアウト時に実行するマクロを作成しておく、ユーザーがその後にデバイスにアクセスした際には必ずリモートデバイスのログイン画面を表示することができるので、セキュリティを強化することもできます。マクロを作成する場合は、下記の手順に従ってください。



Java クライアントでのユーザーマクロ機能は Windows クライアントと同様の方法で操作できます。詳細は p.108 「システムマクロ」を参照してください。

## 検索

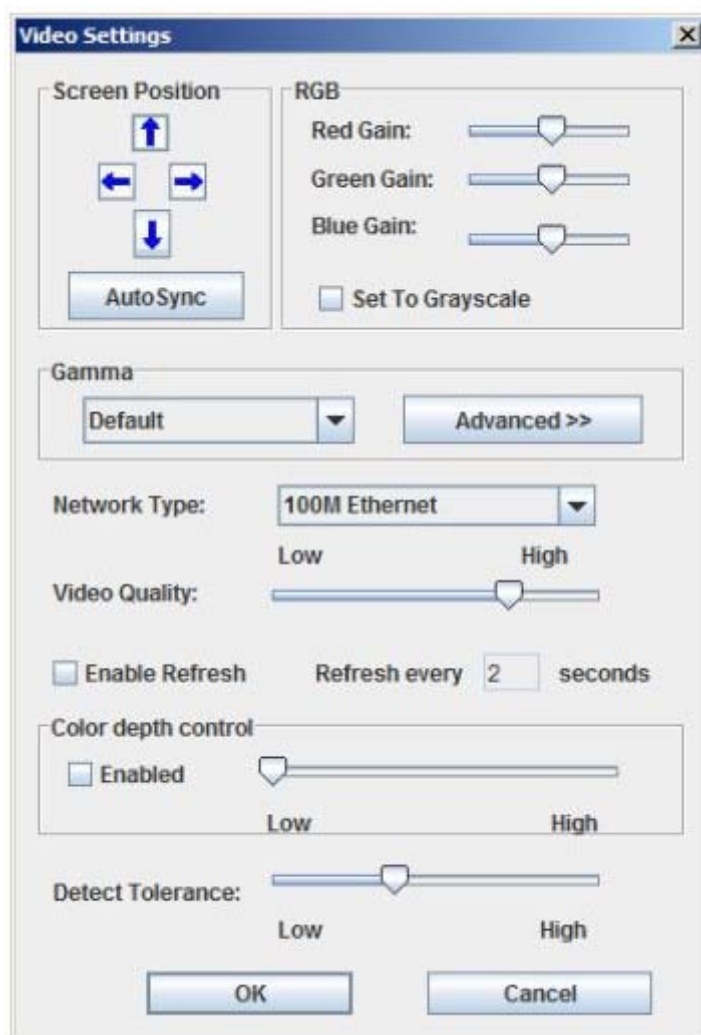
ダイアログボックスの下部にある「検索」ボタンを使うと、上部の大きいパネルに表示されるマクロ一覧から実行したり編集したりするマクロを絞り込むことができます。

Java クライアントでの検索機能は Windows クライアントと同様の方法で操作できます。詳細は p.108 「検索」を参照してください。



## ビデオ設定

「ビデオ設定」ダイアログでは、リモート画面の表示位置及び画質の調整を行います。

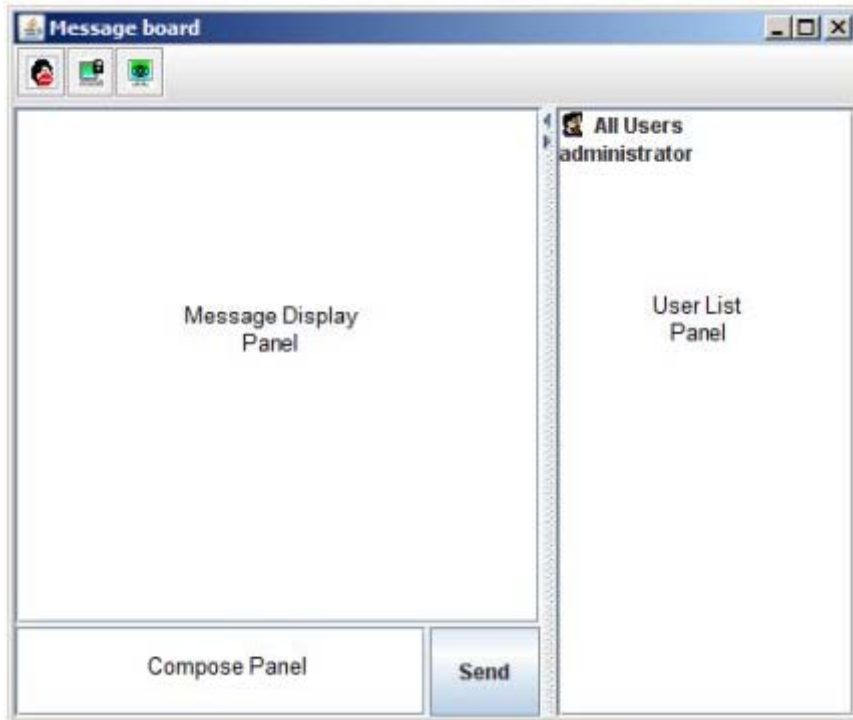


Java クライアントでのビデオ設定機能は Windows クライアントと同様の方法で操作できます。詳細は p.111 「ビデオ設定」を参照してください。






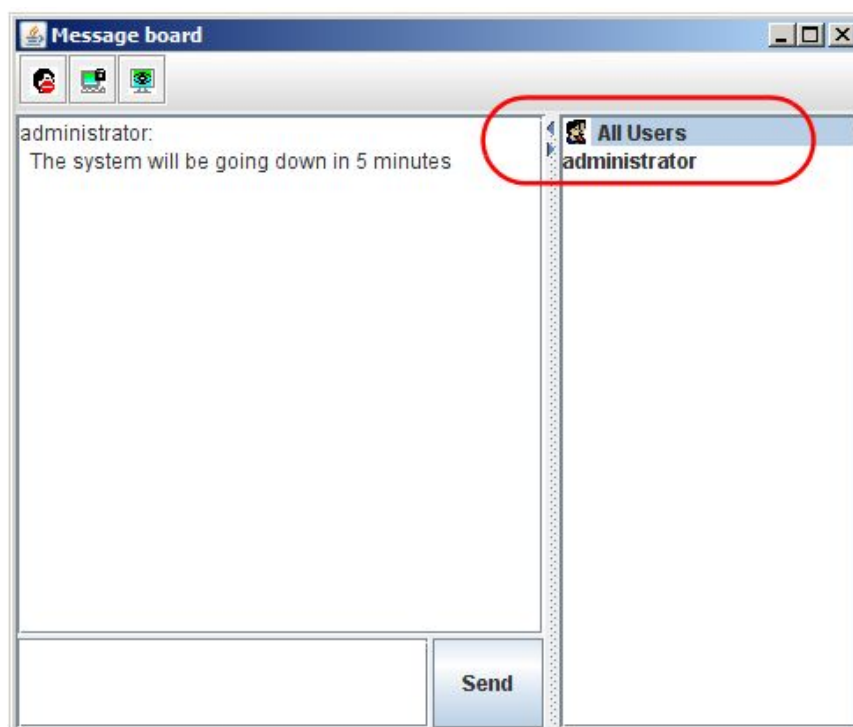
## メッセージボード

KN1000 はマルチユーザーログインに対応しておりますが、複数ユーザーによる操作の競合を避けるために、インターネットチャットプログラムのようなメッセージボード機能を提供しております。この機能を使うことによって、現在 KN1000 にログインしているユーザー同士でコミュニケーションを取ることができます。



ボタンバーにあるボタンはトグルボタンです。各ボタンの機能は下表の通りです。

| ボタン  | 機能  |
|--|---|
|   | <p>チャット機能を<b>有効/無効</b>にします。チャット機能が無効になっている場合、このボタンは網がけされた状態になり、メッセージボードにメッセージが送信されても表示されません。ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがチャット機能を無効にしていることを表しています。</p>                                 |
|   | <p><b>キーボード・ビデオ・マウス(KVM)を占有/開放</b>します。KVMがあるユーザーによって占有されている場合、このボタンは網がけされた状態になり、他のユーザーは画面のモニタリング及びキーボード・マウスの操作ができなくなります。ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがKVMを占有していることを表しています。</p>         |
|  | <p><b>キーボード・マウスを占有/開放</b>します。キーボード・マウスがあるユーザーによって占有されている場合、このボタンは網がけされた状態になり、他のユーザーは画面のモニタリングは可能ですが、キーボード・マウスの操作ができなくなります。ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがキーボード・マウスを占有していることを表しています。</p> |



- ◆ 現在 KN1000 にログインしている全てのユーザーがユーザーリストパネルに表示されます。
  - メッセージを送信する前に、メッセージの宛先となるユーザーをユーザーリストパネルから選択してください。選択されていないユーザーはメッセージを読むことができません。
  - ユーザーリストパネルを表示または非表示にする場合は、ユーザーリストパネルとメッセージ表示パネルの間の枠にある三角形のボタンをクリックしてください。
  - ユーザーがチャット機能を無効にしている場合、ユーザーリストパネルのユーザーネームの前に該当アイコンが表示されます。
  - ユーザーがKVMやキーボード・マウスを占有している場合、ユーザーリストパネルのユーザーネームの前に該当アイコンが表示されます。
  
- ◆ メッセージ編集パネルにメッセージの内容を入力し、「送信」ボタンをクリックしてメッセージを送信してください。
  - ユーザーがメッセージボードに書き込んだメッセージは、システムメッセージと同様に、メッセージ表示パネルに表示されますが、チャット機能を無効にしていると送信されたメッセージは表示されません。
  - メッセージボードを起動していない時に、別のユーザーからメッセージボードにメッセージが送信されると、メッセージを表示するウィンドウが画面上にポップアップ表示されます。

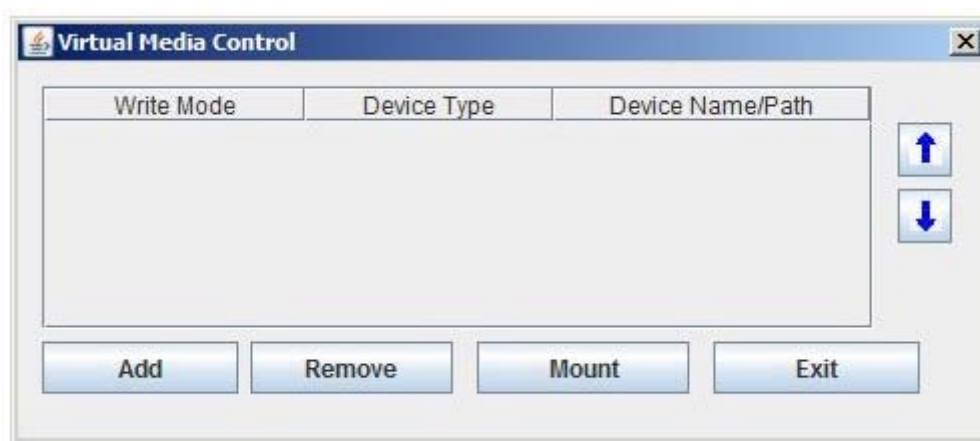


## バーチャルメディア

バーチャルメディア機能を使うと、ローカルクライアントコンピューター側のドライブ、フォルダー、イメージファイル、リムーバブルディスクをリモートサーバーでマウントして使用することができます。また、ローカルクライアントコンピューターに接続されたスマートカードリーダーをリモートサーバー側で認識させることも可能です。

バーチャルメディアのリダイレクト機能を実行する場合は、下記の手順に従ってください。

1. バーチャルメディアアイコンをクリックして「バーチャルメディア制御」ダイアログを起動してください。



Java クライアントでのバーチャルメディア機能は Windows クライアントと同様の方法で操作できます。詳細は p.118 「バーチャルメディア」を参照してください。

---

**注意:** Java ビューワーのバーチャルメディア機能では、ISO ファイルとフォルダーのみサポートされています。

---



## ズーム

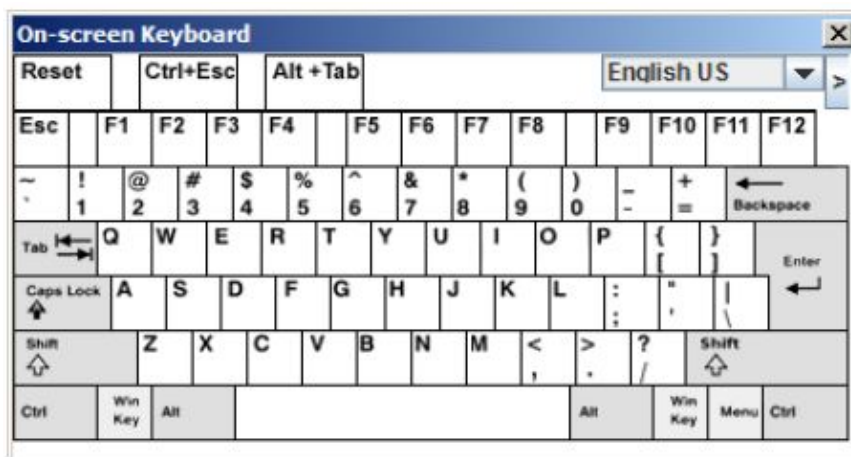
リモートビューのウィンドウをズーム表示します。製品が提供している設定倍率は下表の通りです。

| 設定   | 説明   |
|------|--|
| 100% | リモートビューのウィンドウを 100%の倍率で表示します。  |
| 75%  | リモートビューのウィンドウを 75%の倍率で表示します。   |
| 50%  | リモートビューのウィンドウを 50%の倍率で表示します。   |
| 25%  | リモートビューのウィンドウを 25%の倍率で表示します。   |
| 1:1  | リモートビューのウィンドウを 100%の倍率で表示します。これは 100%の倍率で表示した場合と異なり、リモートビューウィンドウがリサイズされても、表示サイズは変更されません。表示されていない部分を操作したい場合は、マウスをウィンドウの端に移動させ、スクロールを使用してください。 |



## オンスクリーンキーボード

KN1000 では、各言語の標準的なキーボードレイアウトが利用できるオンスクリーンキーボード機能を提供しています。このアイコンをクリックすると、下図のようなオンスクリーンキーボードが表示されます。

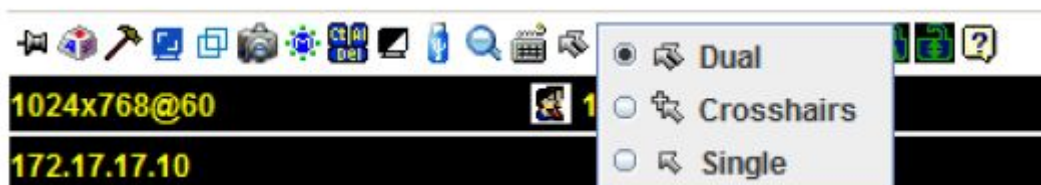


Javaクライアントでのオンスクリーンキーボード機能はWindowsクライアントと同様の方法で操作できます。詳細は p.124 「オンスクリーンキーボード」を参照してください。



## マウスポインター

本製品は、リモート画面で使用するマウスカーソルのポインターを数種類提供しています。ポインターを変更する場合は、アイコンをクリックして、リストからポインターを選択してください。



---

**注意:** コントロールパネルのアイコンは、現在使用しているポインターの種類に応じて変わります。

---



## マウス同期モード

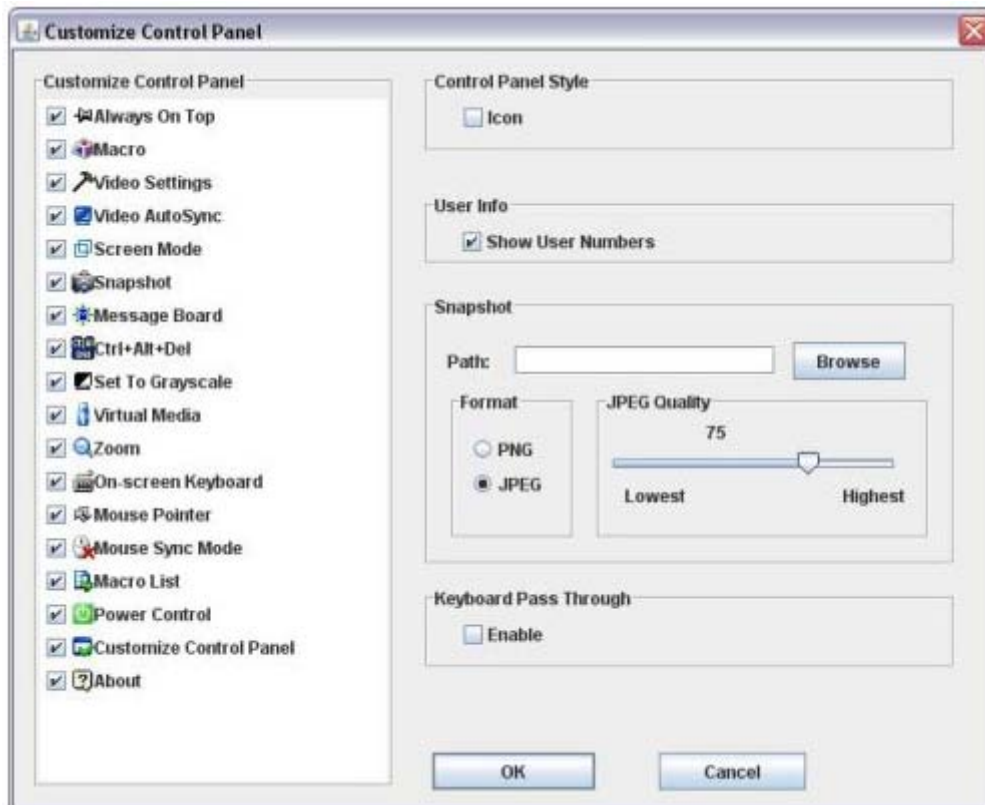
ローカルとリモートのマウスポインターは自動または手動で同期させることができます。

Java クライアントでのマウス同期機能は Windows クライアントと同様の方法で操作できます。詳細は p.126 「マウス同期モード」を参照してください。



## コントロールパネルのカスタマイズ

コントロールパネルのアイコンをクリックすると、コントロールパネルに表示するアイコンやコントロールパネルの外観の設定を行うことができます。



Java クライアントでのコントロールパネルのカスタマイズは Windows クライアントと同様の方法で操作できます。詳細は p.128 「コントロールパネルのカスタマイズ」を参照してください。

---

**注意:** コントロールパネルの設定のうち、以下の機能は Java クライアントではご利用になれませんので、ご注意ください。

- ◆ コントロールパネルの透過機能
- ◆ 「画面オプション」機能 (p.129 参照)

また、スナップショットのフォーマットは BMP の代わりに PNG を提供しています。

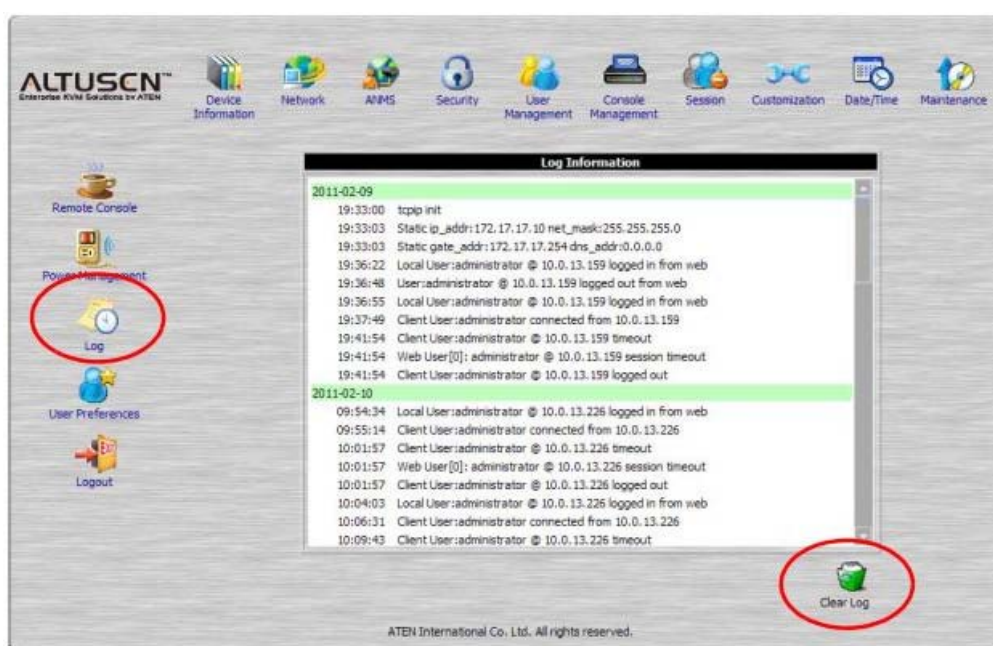
---

# 第7章

## ログファイル

### ログファイル画面

KN1000 で起こる全てのイベントはログファイルに記録されます。それらのログは同時に時間情報も記録され、検索可能なデータベースとして利用されます。ログファイルを表示するには、画面左側にある「ログ」アイコンをクリックしてください。下図のような画面が表示されます。



ログファイルでは最大 512 のイベントを管理することができます。新規イベントが発生すると、ファイルに随時追加されていきます。ファイルに追加されたイベント数が最大に達した後で新規イベントが発生すると、古いイベントから削除されます。

**注意:** このログファイルで保存可能な最大イベント数を超えるログを管理したい場合は、ログサーバーアプリケーションプログラムをセットアップするか、Syslog をご利用ください。詳細は p.148 「ログサーバー」を参照してください。

ログファイルをクリアするには、画面右側下部に表示されている「ログ消去」アイコンをクリックしてください。

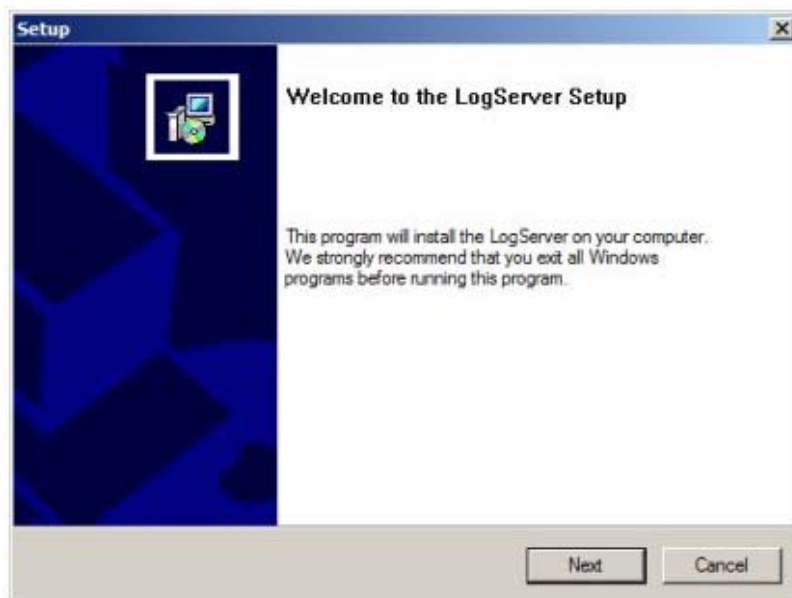
# 第8章

## ログサーバー

Windows ベースの KN1000 のログサーバーは、指定された KN1000 で発生する全イベントを記録し、検索可能なデータベースに格納する、管理者向けのユーティリティです。本章では、ログサーバーのインストール及び設定の各方法について説明します。

### セットアップ

1. 製品に同梱されているソフトウェア CD を Windows がインストールされているコンピューターの CD(DVD)ドライブに挿入してください。
2. CDドライブの「Log Server AP」フォルダーに移動してください。
3. アイコンをクリックして、「LogServerSetup.exe」を実行してください。

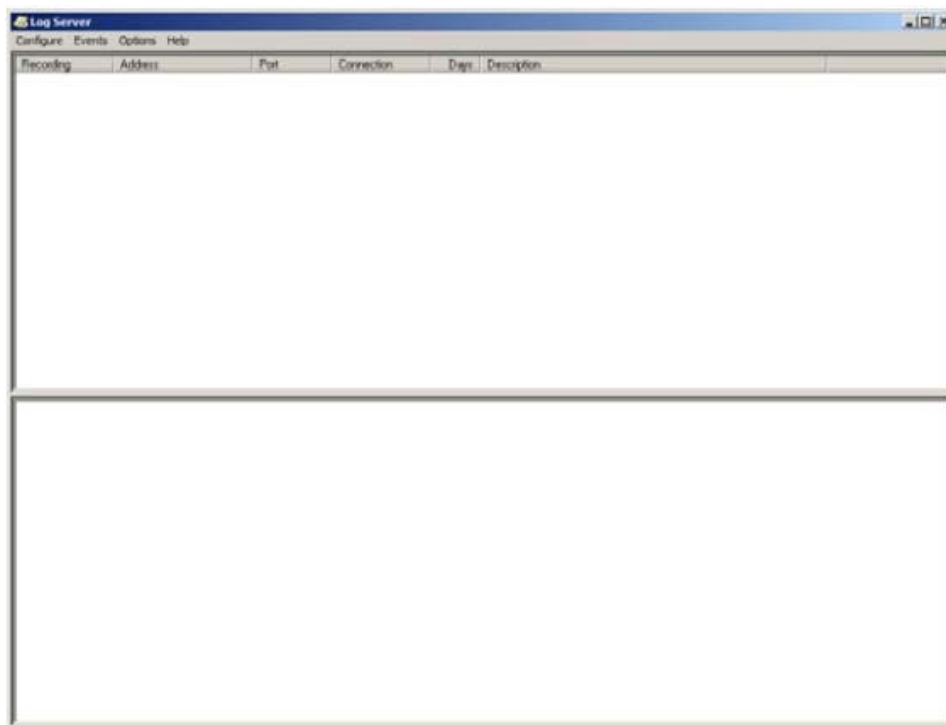


4. 「Next」ボタンをクリックしてください。以降は画面内の指示に従ってインストールを行ってください。インストールが完了すると、デスクトップ上にログサーバーへのショートカットアイコンが作成されます。

## ログサーバーの起動

---

ログサーバーのメイン画面を表示するには、ログサーバーのアイコンをダブルクリックするか、コマンドラインからこのプログラムのフルパスを入力して実行してください。プログラムが起動すると、以下のような画面が表示されます。



- 
- 注意:**
1. ログサーバーのイベントデータベースを管理するコンピューターの MAC アドレスとポート番号は「AMNS」メニューで設定しておく必要があります (p.58 「ログサーバー」参照)。
  2. ログサーバーには Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバーが必要です。プログラムが開始しない場合は、p.195 「ログサーバープログラムが起動しない場合」を参照してください。
- 

画面は以下の 3 つのコンポーネントに分かれています。

- ◆ 上部メニューバー
- ◆ メニューバー下部の KN1000 リストパネル (詳細は p.154 「ログサーバーメイン画面」参照)
- ◆ 最下部のイベントリストパネル

各コンポーネントの詳細は後述しますので、そちらを参照してください。

## メニューバー

ログサーバーのメニューバーは以下の項目から構成されています。

- ◆ Configure
- ◆ Events
- ◆ Options
- ◆ Help

各項目の詳細は後述しますので、そちらを参照してください。

---

**注意:** ログサーバーのウィンドウが選択されていない等の理由でメニューバーが有効になっていないように見える場合がありますが、このような場合は KN1000 一覧表示パネルをクリックし、ウィンドウをアクティブにしてメニューバーをご利用ください。

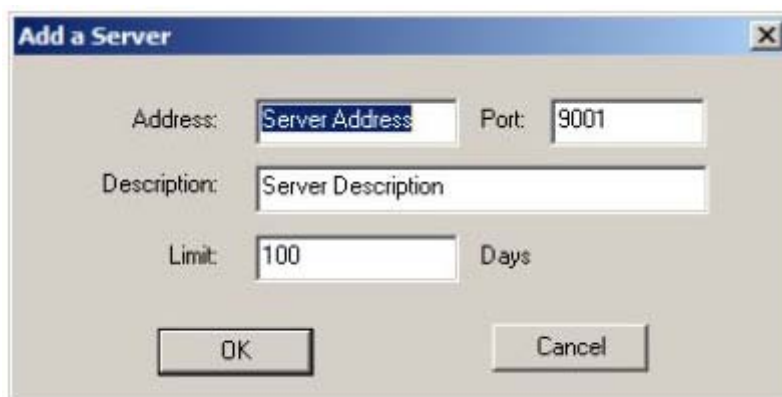
---

## Configure

「Configure」メニューでは、「Add」、「Edit」、「Delete」の3つのサブメニューが存在します。「Add」メニューでは KN1000 ユニットの一覧への新規追加を、「Edit」メニューではリストに登録されたユニット情報の編集を、また「Delete」メニューでは一覧からのユニットの削除をそれぞれ行います。

- ◆ KN1000 ユニットを一覧に新に追加する場合は、「Add」メニューをクリックしてください。
- ◆ リストから KN1000 ユニットを編集したり削除したりする場合は、リストから対象となる項目を選択し、この「Configure」メニューから「Edit」または「Delete」メニューをクリックしてください。

「Add」または「Edit」メニューをクリックすると、下図のようなダイアログが表示されます。



The image shows a dialog box titled "Add a Server". It has a standard Windows-style title bar with a close button (X). The dialog contains the following fields and controls:

- Address:** A text input field containing "Server Address".
- Port:** A text input field containing "9001".
- Description:** A larger text input field containing "Server Description".
- Limit:** A text input field containing "100", followed by the label "Days".
- Buttons:** "OK" and "Cancel" buttons at the bottom.

ダイアログ内の各項目に関する詳細は下表の通りです。

| 項目          | 説明   |
|-------------|--|
| Address     | KN1000 の IP アドレスまたは DNS 名 (DNS 名が有効になっている場合) を入力してください。ここで設定される内容は KN1000 の Web メニュー「ANMS」で設定されているものと同じである必要があります (p.56 「ANMS」参照)。 |
| Port        | ANMS 設定で KN1000 に割り当てられたログサーバーのポート番号を入力してください (p.58 「ログサーバー」参照)。   |
| Description | KN1000 に関する追加情報があれば、このフィールドに入力することができます。   |
| Limit       | ログサーバーデータベースにおけるイベント保存日数を表します。   |

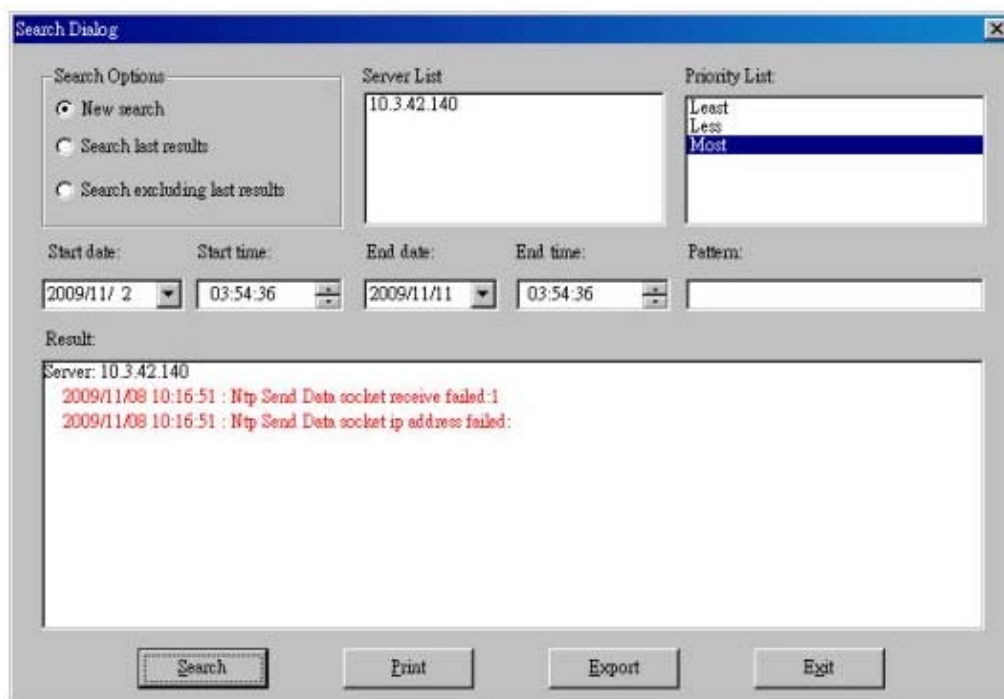
フィールドへの記入・編集が完了したら、「OK」ボタンをクリックしてください。

## Events

「Events」メニューは「Search」と「Maintenance」の 2 つのサブメニューから構成されています。

### Search

「Search」メニューでは、特定のキーワードを含むイベントを検索することができます。このメニューを起動すると、以下のようなダイアログが表示されます。



ダイアログ内の各項目の詳細は下表の通りです。

| 項目                            | 説明   |
|-------------------------------|--|
| New search                    | 検索範囲を決定する3つのラジオボタンの1つで、このラジオボタンが選択されると、選択された KN1000 で発生した全てのイベントを対象にして検索を行います。                                     |
| Search last results           | このラジオボタンが選択されると、前回の検索結果を対象に検索を行います。  |
| Search Excluding last results | このラジオボタンが選択されると、前回の検索結果以外を対象に検索を行います。  |
| Server List                   | KN1000 が IP アドレス順に一覧表示されます。ログの検索を行いたい KN1000 をリストから選択してください(複数選択可)。このリストから何も選択されていない場合は、全ての KN1000 のログを対象に検索を行います。 |
| Priority List                 | 表示する検索結果のレベルを設定します。「Least」を選択すると簡易版表示を、「Most」を選択すると詳細表示をそれぞれ行います。またレベルが「Least」の検索結果は黒色で、「Most」の結果は赤色でそれぞれ表示されます。   |
| Start Date                    | 検索対象となるログの開始日を「YYYY/MM/DD」の形式でリストボックスに入力してください。<br>例:2009 年 11 月 4 日→2009/11/04                                    |
| Start Time                    | 検索対象となるログの開始時刻を「HH:MM:SS」の形式でリストボックスに入力してください。   |
| End Date                      | 検索対象となるログの終了日を「Start Date」に記載されたものと同じフォーマットで入力してください。  |
| End Time                      | 検索対象となるログの終了時刻を「Start Time」に記載されたものと同じフォーマットで入力してください。   |
| Pattern                       | パターン検索を行う場合の文字列を入力してください。任意の文字列を表すワイルドカード(%)を使用することも可能です。<br>例:h%ds という検索条件で、「hands」と「hoods」という文字列にヒットします。         |
| Results                       | 検索条件に一致したイベントが一覧表示されます。  |
| Search                        | このボタンをクリックすると入力された条件で検索を行います。  |
| Print                         | このボタンをクリックすると検索結果を印刷します。   |
| Export                        | このボタンをクリックすると検索結果を「.txt」ファイルに書き込みます。   |
| Exit                          | このボタンをクリックすると検索ダイアログボックスを閉じます。   |

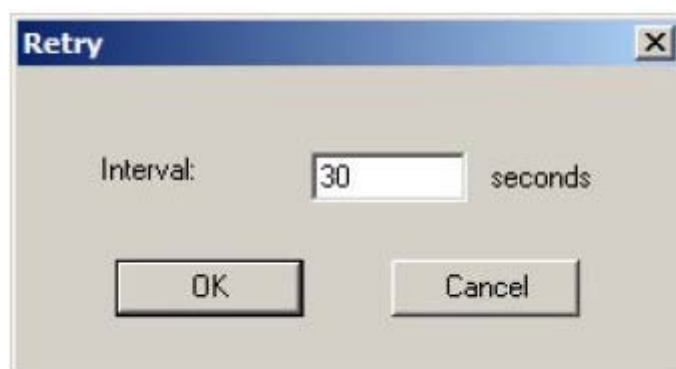
## Maintenance

この機能を使うことで、KN1000の管理者は「Edit」機能の「Limit」の項目で設定した保管期限を過ぎているログの内容を手動で削除することができます (p.151 参照)。

## Options

このメニューには「Network Retry」というサブメニューがあります。

このメニューでは、接続失敗による再試行までの待機時間 (秒) を設定します。メニューをクリックすると、以下のような「Retry」ダイアログが表示されます。



待機秒数を入力したら、「OK」ボタンをクリックしてください。

## Help

ログサーバーのオンラインヘルプ (英語) を表示する場合は、このメニューのサブメニューである「Contents」をクリックしてください。このヘルプには、ログサーバーのセットアップ、操作方法、トラブルシューティング等が記載されています。

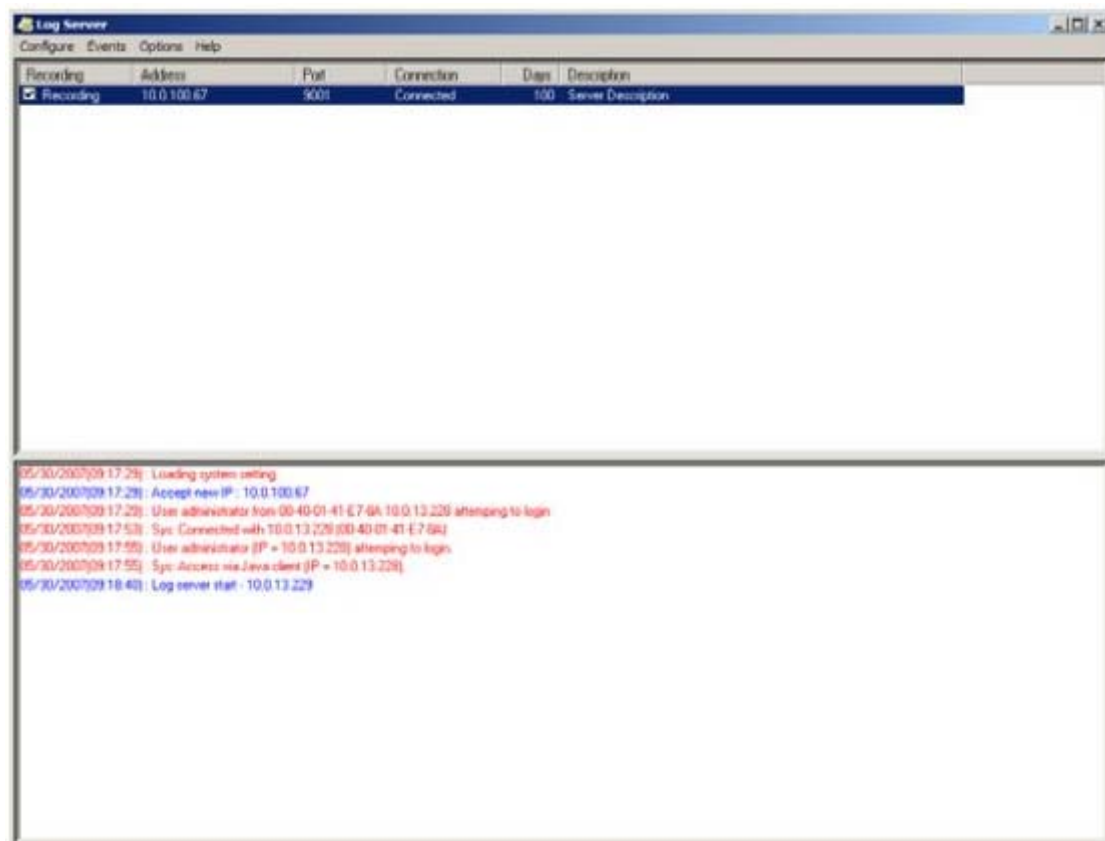
## ログサーバーメイン画面

---

### 概要

ログサーバーのメイン画面は以下の2つパネルから構成されています。

- ◆ 上部パネル(リストパネル)には、ログサーバーによるイベント監視対象として設定されているKN1000の一覧が表示されます(p.150「Configure」参照)。
- ◆ 下部パネル(イベントパネル)には、現在リストパネルで選択されているKN1000(複数台ある場合はハイライトされているもの)のイベントログが表示されます。リストからKN1000を選択する場合は、対象となる項目をクリックしてください。



## リストパネル

リストパネルの各項目は下表の通りです。

| 項目          | 説明  |
|-------------|---|
| Recording   | ログサーバーがこのリストに表示されている KN1000 のログを記録するかどうかを設定します。項目にチェックを入れると、この欄に「Recording」と表示され、ログの記録を行います。項目からチェックを外すと、この欄に「Paused」と表示され、ログの記録は行われません。<br><b>注意:</b> このリストに表示されている KN1000 は選択状態にかかわらず、チェックがついていればログサーバーはそのユニットのログを記録します。      |
| Address     | KN1000 がログサーバーに登録された際に設定された IP アドレスまたは DNS 名です (p.150 「Configure」参照)。   |
| Port        | KN1000 が通信に使用するポート番号です (p.150 「Configure」参照)。   |
| Connection  | ログサーバーが KN1000 に接続している場合、このフィールドには「Connected」と表示されます。<br>また KN1000 に接続していない場合には、このフィールドに「Waiting」と表示されます。これはログサーバーの MAC アドレスまたはポート番号が正しく設定されていないことを表していますので、「AMNS」メニュー (p.56 参照) 及び「Configure」ダイアログ (p.150 参照) で正しい内容に設定してください。 |
| Days        | KN1000 のイベントをログサーバーに保管する日数を表します (p.150 「Configure」参照)。  |
| Description | ログサーバー登録時に設定された KN1000 に関する追加情報です (p.150 「Configure」参照)。  |

## イベントリストパネル

このパネルには現在選択されている KN1000 のログの内容が表示されます。複数台のスイッチを使用している場合、そのスイッチが現在選択されていなくても、「Recording」のチェックボックスにチェックが入っていれば、そのスイッチのログはログサーバーのデータベースに登録されます。

# 第9章 アプリケーションの操作

## はじめに

---

KN1000 では、ブラウザベースのクライアントビューワーに加え、ブラウザを使用しない環境でもご利用いただけるスタンドアロンの Windows 版・Java 版のアプリケーションをご用意しております。これらのアプリケーションは製品同梱のソフトウェア CD に収録されており、Windows クライアントのインストーラーは「kn1000winclient.exe」、Java クライアントは「iClientJ.jar」というファイル名で提供しております。

## アプリケーション版 Windows クライアント

---

### セットアップ

スタンドアロン版の Windows クライアントのインストールは下記の手順に従ってください。

1. 製品同梱 CD に収録されている Windows クライアントのインストーラー (kn1000winclient.exe) をお使いのコンピューターのディスクの適当な位置にコピーしてください。
2. インストーラーの画面内の指示に従ってインストールを進めてください。

インストールが完了すると、アイコン (KN1000 WinClient) がお使いのコンピューターのデスクトップ上に作成されます。また、Windows のスタートアップメニューにもショートカットが作成されますので、こちらからも起動することが可能です。

(「スタート」→「すべてのプログラム」→「KN1000」→「WinClient」)

## Windows クライアントの起動

スタンドアロン版の Windows クライアントは、デスクトップ上のアイコン、スタートメニューのどちらからでも起動することができます。

Windows クライアントの初回起動時には、以下のようなダイアログが表示され、ソフトウェアのシリアルナンバーの入力を求められます。



このシリアルナンバーは、KN1000 ソフトウェア CD に貼り付けられているラベルに記載されています。シリアルナンバーを各テキストボックスに 5 桁ずつ入力し、入力が終わったら「OK」ボタンをクリックしてください。

- 
- 注意:**
1. シリアルナンバーにアルファベットが含まれている場合は、そのアルファベットを必ず大文字で入力してください。
  2. このダイアログボックスはスタンドアロン版 Windows クライアントの初回起動時にのみ表示されます。一度正しいシリアルナンバーを入力して頂ければ、次の起動時からはこの入力は不要です。
-

## Windows クライアント接続画面



このダイアログにおける各項目の内容は下表の通りです。

| 項目      | 説明   |
|---------|--|
| サーバーリスト | KN1000 の Windows クライアントは、起動時にローカル LAN セグメントにある KN1000 を検出し、このリストに一覧表示します。特定のユニットに接続する場合は、その項目をリストから選択し、「ログイン」ボタンをクリックしてください。また、KN1000 との接続を終了する場合は、「ログアウト」ボタンをクリックしてください。  |
| サーバー    | この欄は、KN1000 へのリモート接続時に使用します。表示された IP アドレスが違う場合や何も表示されない場合は、接続対象となる KN1000 の IP アドレスを「IP」の欄に入力してください。<br>IP アドレスを入力したら、「ポート」の欄に接続に使用するポート番号を入力してください。ポート番号がご不明な場合は KN1000 の管理者までお問い合わせください。<br>IP アドレスとポート番号が確定したら、「ログイン」ボタンを押して接続を開始します。作業を終了する場合は「ログアウト」を押してセッションを終了してください。 |
| ログイン    | KN1000 との接続を開始します。   |

(表は次のページに続きます。)

| 項目              | 説明  |
|-----------------|---|
| ログアウト           | これらのボタンは、KN1000 にログインしている時に有効になります。詳細は p.160 を参照してください。 |
| Remote View     |   |
| Change Password |   |
| Exit Macro      |   |
| Admin Utility   |   |

## ログイン

KN1000 に接続すると、下図のようなログインダイアログが表示されます。



正しいユーザーネームとパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。

---

**注意:** KN1000 のデフォルトユーザーネームは「administrator」、デフォルトパスワードは「password」です。セキュリティの観点からも、このアカウントを変更することを強く推奨します(詳細は p.74 「ユーザー管理」参照)。

---

ログインに成功すると、下図のような接続画面が表示されます。



この時、以下のボタンが有効になります。各ボタンの機能は下表の通りです。

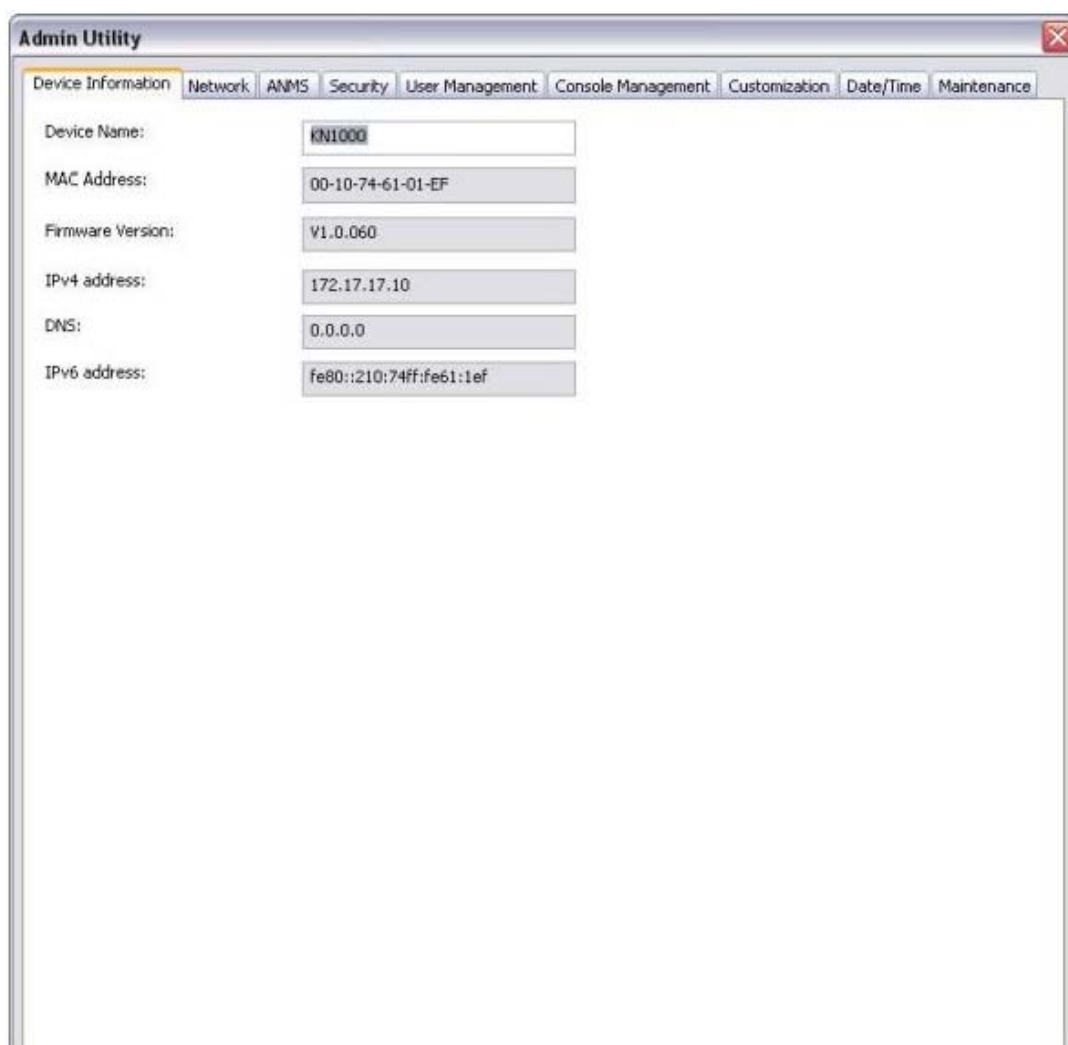
| ボタン           | 説明  |
|---------------|---|
| ログアウト         | KN1000 との接続を終了します。  |
| リモートビュー       | 管理者がユーザーにブラウザ経由による KN1000 へのログインを許可したくない場合は、この機能をご利用いただくことで解決することができます。このボタンをクリックすると、ブラウザベースの Windows クライアントと同様に、リモートサーバーのデスクトップ内容をお使いのモニターに表示します。リモートデスクトップの操作方法の詳細については、第 5 章を参照してください。 |
| パスワード変更       | このメニューを使用することで、自身のパスワードは管理者に依頼することなく変更することができます。操作方法の詳細は、第 5 章を参照してください。  |
| 終了マクロ         | このボタンを使用することで、管理者はブラウザを使用せずに終了マクロを作成することができます。詳細は p.40 「終了マクロ」を参照してください。  |
| Admin Utility | アドミニストレーターユーティリティを使用することで、管理者はブラウザを使用せずに KN1000 の設定や管理を行うことが可能です。アドミニストレーターユーティリティの使用方法については後のセクションで説明します。  |

## アドミニストレーターユーティリティ

アドミニストレーターユーティリティは、機能別に分かれたタブメニューのついたダイアログボックスのインターフェースで提供されています。各タブの機能に関する説明及び設定方法については後のセクションで説明します。

### デバイス情報

アドミニストレーターユーティリティを起動すると、「デバイス情報」タブが最初に表示されます。



このタブはブラウザでアクセスした時の同メニューと基本的に同じです。詳細は p.52 「デバイス情報」を参照してください。

## ネットワーク

このタブでは KN1000 のネットワーク環境の設定を行います。

The screenshot shows the 'Admin Utility' window with the 'Network' tab selected. The window contains several configuration sections:

- Service Ports:** A table of port configurations.

|              |     |                |      |
|--------------|-----|----------------|------|
| HTTP:        | 80  | Program:       | 9000 |
| HTTPS:       | 443 | Virtual Media: | 9003 |
| Telnet Port: | 23  | SSH Port:      | 22   |
- IP Address:** Radio buttons for 'Obtain IP address automatically [DHCP]' (unselected) and 'Set IP address manually [Fixed IP]' (selected). Below are input fields for IP Address (172 . 17 . 17 . 10), Subnet Mask (255 . 255 . 255 . 0), and Default Gateway (172 . 17 . 17 . 254).
- DNS Server:** Radio buttons for 'Obtain DNS server address automatically' (unselected) and 'Set DNS server address manually' (selected). Below are input fields for Preferred DNS server (0 . 0 . 0 . 0) and Alternate DNS server (0 . 0 . 0 . 0).
- Network Transfer Rate:** An input field containing '99999' and the unit 'KBps'.

At the bottom right, there are 'OK' and 'Cancel' buttons.

このタブはブラウザでアクセスした時の同メニューと基本的に同じです。詳細は p.53 「ネットワーク」を参照してください。

## ANMS

このタブでは外部サーバーによるログイン認証を設定します。

The screenshot shows the 'Admin Utility' window with the 'ANMS' tab selected. The window contains several configuration sections:

- IP Installer:** Radio buttons for 'Enabled' (selected), 'View Only', and 'Disabled'.
- SMTP Settings:** A checkbox for 'Enable report from the following SMTP server'. Below are fields for 'SMTP Server', 'Account Name', 'Password', 'From', and 'To'. There are also checkboxes for 'Server requires authentication', 'Report IP address', 'Report system reboot', 'Report user login', and 'Report user logout'.
- Log Server:** A checkbox for 'Enable'. Fields for 'MAC Address' (000000000000) and 'Service Port' (9001).
- SNMP Server:** A checkbox for 'Enable SNMP Agent'. Fields for 'Server IP' and 'Service Port' (162).
- Syslog Server:** A checkbox for 'Enable'. Fields for 'Server IP' and 'Service Port' (514).
- DDNS:** A checkbox for 'Enable'. Fields for 'Host Name', 'Username', 'DDNS' (dropdown menu showing 'dyndns.org'), 'Password', and 'DDNS Retry Time' (0 hours).
- RADIUS Settings:** A checkbox for 'Enable'. Fields for 'Primary RADIUS Server IP', 'Port' (1812), 'Alternate RADIUS Server IP', 'Port' (1812), 'Timeout (seconds)' (5), 'Retries' (3), and 'Shared Secret (at least 6 characters)'.
- LDAP Settings:** A checkbox for 'Enable'. Radio buttons for 'LDAP' and 'LDAPS' (selected). A checkbox for 'Enable Authorization'. Fields for 'LDAP Server IP', 'Port' (636), 'Timeout (seconds)' (10), 'LDAP Administrator DN', 'LDAP Administrator Password', 'Search DN', and 'Admin Group'.
- CC Management:** A checkbox for 'Enable' (checked). Fields for 'CC Server IP' and 'Port'.

At the bottom right, there are 'OK' and 'Cancel' buttons.

このタブはブラウザでアクセスした時の同メニューと基本的に同じです。詳細は p.56 「ANMS」を参照してください。

## セキュリティ

このタブでは、KN1000 へのアクセスを制御するパラメーターを設定します。

The screenshot shows the 'Admin Utility' window with the 'Security' tab selected. The window contains several configuration sections:

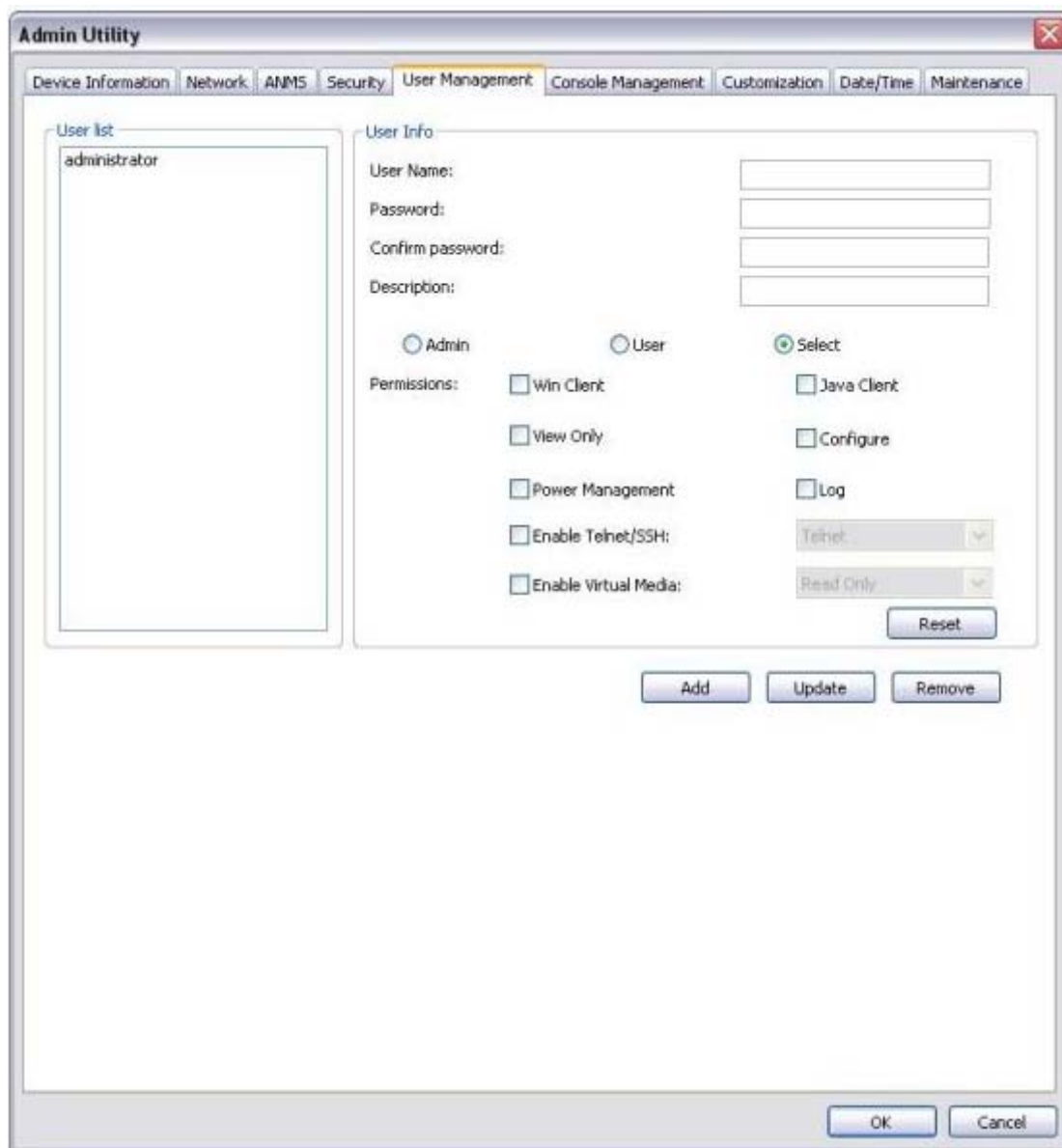
- User Station Filters:** Includes 'IP Filter Enable' and 'MAC Filter Enable' sections, each with 'Include' and 'Exclude' radio buttons and 'Add', 'Edit', and 'Delete' buttons.
- Encryption:** Contains sections for 'Keyboard/Mouse', 'Video', and 'Virtual Media', each with checkboxes for DES, 3DES, AES, RC4, and Random.
- Virtual Media:** Features radio buttons for 'Read Only' (selected) and 'Read/Write'.
- Private Certificate:** Includes input fields for 'Private Key' and 'Certificate', each with a 'Browse...' button, and 'Upload' and 'Restore default' buttons.
- Account Policy:** Includes input fields for 'Minimum Username Length' (6) and 'Minimum Password Length' (6), and checkboxes for 'Password Must Contain At Least' (One Upper Case, One Lower Case, One Number Case) and 'Disable Duplicate Login'.
- Login Failures:** Includes a checked 'Enable' checkbox, 'Allowed' (5) and 'Timeout' (3 minutes) input fields, and checked checkboxes for 'Lock Client PC' and 'Lock Account'.
- Others:** Includes a 'Browser Service' dropdown menu (set to 'Disable Browser') and a 'Disable Authentication' checkbox.

At the bottom right, there are 'OK' and 'Cancel' buttons.

このタブはブラウザでアクセスした時の同メニューと基本的に同じです。詳細は p.65 「セキュリティ」を参照してください。

## ユーザー管理

このタブでは、ユーザーアカウントの設定と管理を行います。ユーザーの基本情報、及び各ユーザーのアクセス権限を定義することが可能で、KN1000 では最大 64 ユーザーのプロフィールを管理することができます。



The screenshot shows the 'Admin Utility' window with the 'User Management' tab selected. The interface is divided into two main sections: 'User list' and 'User Info'.

- User list:** A list box containing the name 'administrator'.
- User Info:** A form for configuring a user with the following fields:
  - User Name: [Text input]
  - Password: [Text input]
  - Confirm password: [Text input]
  - Description: [Text input]
  - Role selection: Radio buttons for 'Admin', 'User', and 'Select' (which is selected).
  - Permissions: A grid of checkboxes for 'Win Client', 'View Only', 'Power Management', 'Enable Telnet/SSH', 'Enable Virtual Media', 'Java Client', 'Configure', and 'Log'.
  - Access control: Two dropdown menus labeled 'Telnet' (set to 'Telnet') and 'Read Only' (set to 'Read Only').
  - Buttons: 'Reset', 'Add', 'Update', and 'Remove'.

At the bottom right of the window are 'OK' and 'Cancel' buttons.

このタブはブラウザでアクセスした時の同メニューと基本的に同じです。詳細は p.74 「ユーザー管理」を参照してください。

## コンソール管理

このタブでは、KN1000 の RS-232 (シリアル) ポートの操作パラメーターを設定することができます。

### シリアルコンソール

The screenshot shows the 'Admin Utility' window with the 'Console Management' tab selected. The 'Serial Console' radio button is selected, and the 'Enable' checkbox is checked. The 'Port Property Settings' section includes dropdown menus for Baud Rate (9600 bps), Data Bits (8 bits), Parity (None), Stop Bits (1 bit), Flow Control (None), Enable Toggle DTR (No), Online Detect (DSP), and Out CR/LF Translation (None), along with a text input for Suspend Character (D). The 'Port Alert Settings' section contains ten empty text input fields for Alert String 1 through Alert String 10. The window has 'OK' and 'Cancel' buttons at the bottom right.

このタブはブラウザでアクセスした時の同メニューと基本的に同じです。詳細は p.77 「シリアルコンソール」を参照してください。

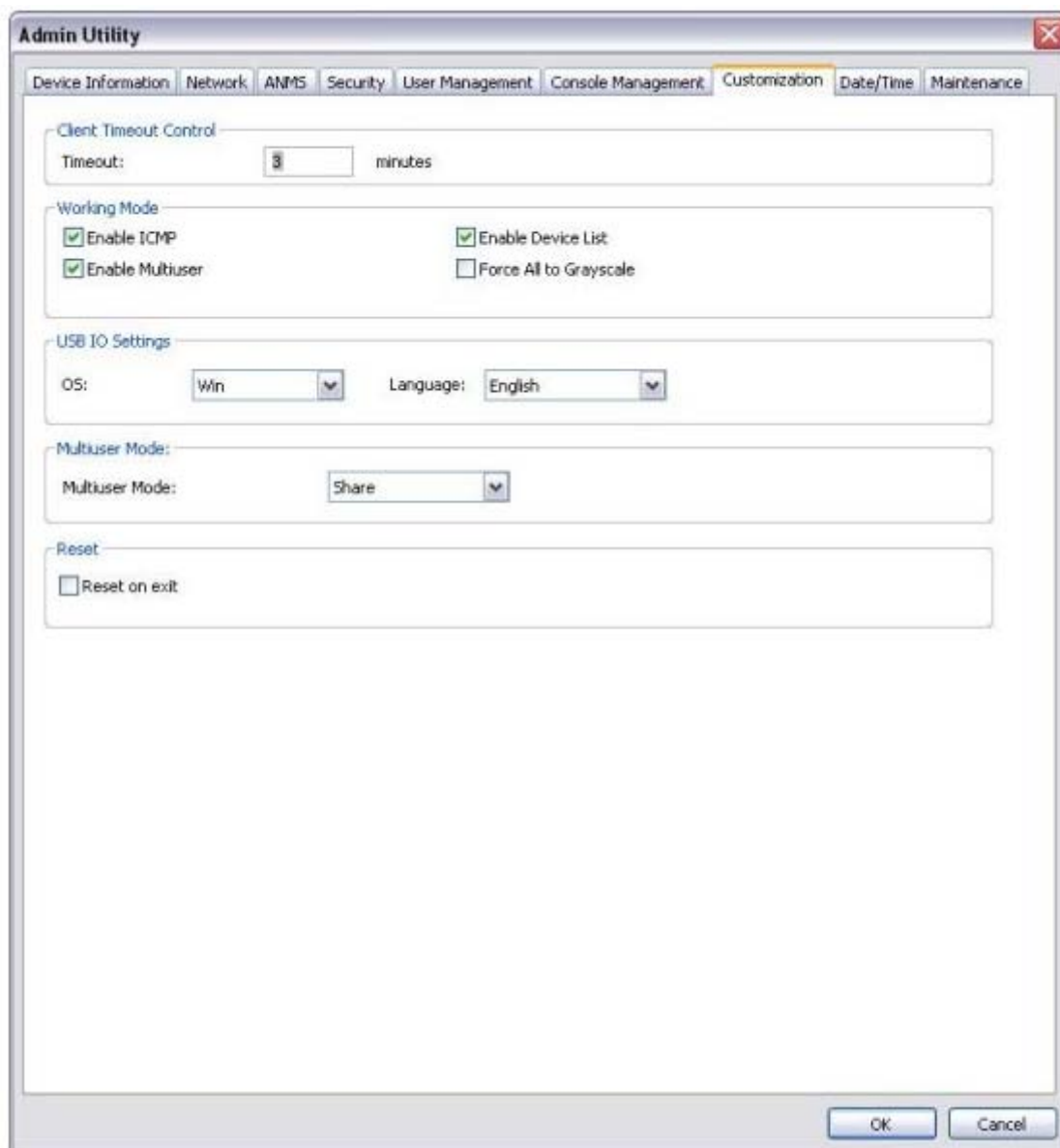
## OOBC

The screenshot shows the 'Admin Utility' window with the 'Console Management' tab selected. At the top, there are radio buttons for 'Serial Console' and 'OOBC', with 'OOBC' being selected. Below this, the 'PPP Settings' section is expanded, showing several sub-sections: 'Enable Out of Band Access' (checkbox), 'Enable Dial Back' (checkbox) with sub-options for 'Fixed Number Dial Back' (selected) and 'Flexible Dial Back', and 'Enable Dial Out' (checkbox). The 'ISP Settings' section includes fields for 'Phone Number', 'User Name', and 'Password'. The 'Dial Out Schedule' section has radio buttons for 'Every' (selected) and 'Daily at', with a dropdown menu set to 'Never'. The 'PPP online time' and 'Emergency dial out' sections each have a numeric input field set to '0' and a 'minute(s)' label. The 'Dial Out Mail Configuration' section includes fields for 'SMTP Server IP Address', 'Email From', 'To', and 'SMTP server requires authentication' (checkbox), with additional fields for 'Account Name' and 'Password'.

このタブはブラウザでアクセスした時の同メニューと基本的に同じです。詳細は p.80 「OOBC」を参照してください。

## カスタマイズ

このタブでは、タイムアウトまでの時間やログイン失敗、動作モード等のパラメーターを設定することができます。



The screenshot shows the 'Admin Utility' window with the 'Customization' tab selected. The window contains several sections for configuration:

- Client Timeout Control:** A text input field for 'Timeout' is set to '3', followed by the label 'minutes'.
- Working Mode:** Four checkboxes are present: 'Enable ICMP' (checked), 'Enable Device List' (checked), 'Enable Multuser' (checked), and 'Force All to Grayscale' (unchecked).
- USB IO Settings:** Two dropdown menus are shown: 'OS' is set to 'Win' and 'Language' is set to 'English'.
- Multuser Mode:** A dropdown menu for 'Multuser Mode' is set to 'Share'.
- Reset:** A checkbox for 'Reset on exit' is currently unchecked.

At the bottom right of the window, there are 'OK' and 'Cancel' buttons.

このタブはブラウザでアクセスした時の同メニューと基本的に同じです。詳細は p.85 「カスタマイズ」を参照してください。

## 日付/時刻

この画面では、KN1000 のシステム時刻に関するパラメーターを設定します。

The screenshot shows the 'Date/Time' configuration window in the Admin Utility. The window has a title bar 'Admin Utility' and a menu bar with tabs: Device Information, Network, ANMS, Security, User Management, Console Management, Customization, Date/Time (selected), and Maintenance. The main content area is divided into several sections:

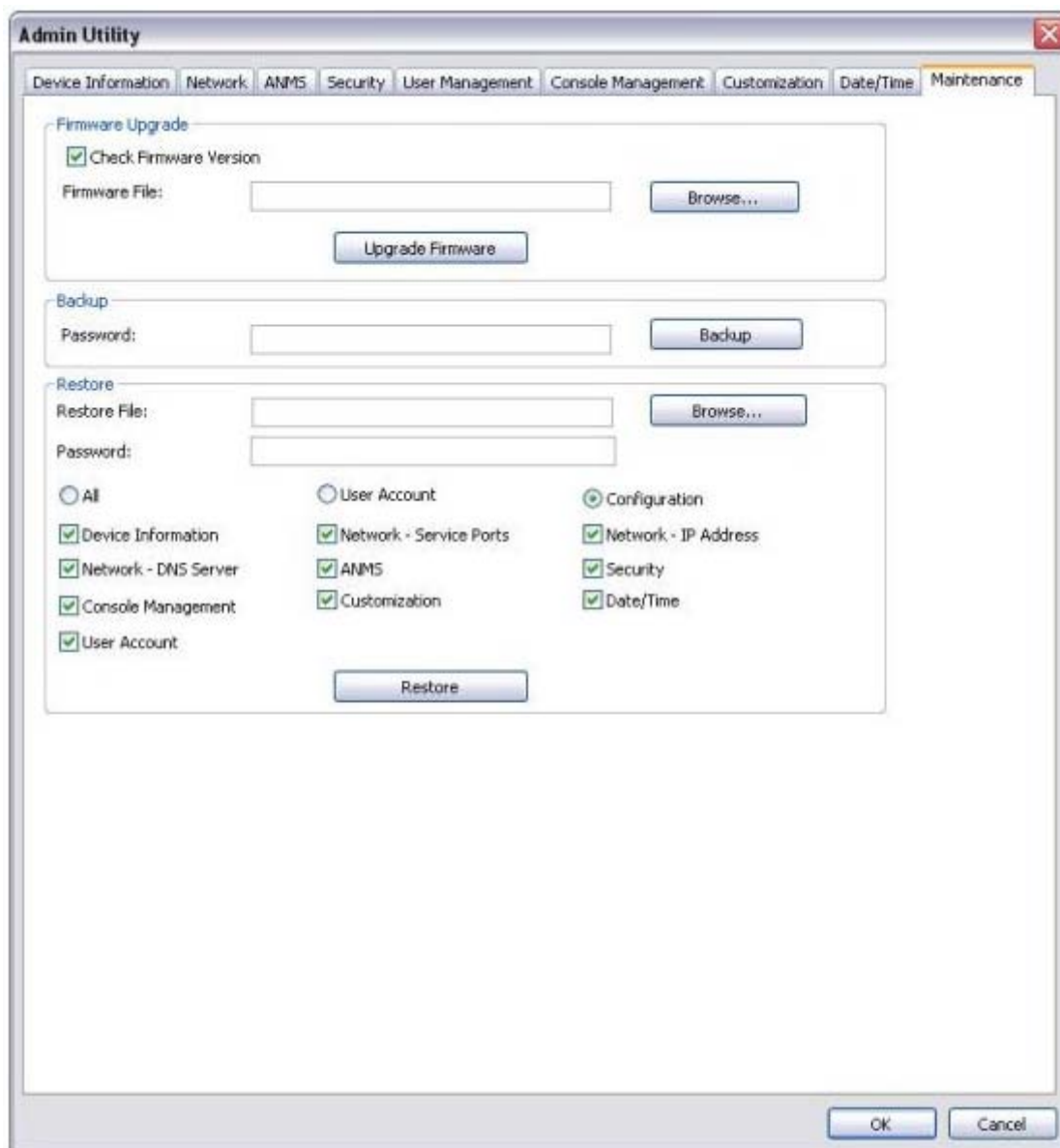
- Time Zone:** A dropdown menu is set to '(GMT+08:00) Taipei'. Below it is an unchecked checkbox for 'Daylight Savings Time'.
- Date:** A calendar for February 2011. The date '14' is selected. The calendar shows days of the week (Sun to Sat) and dates from 30 to 12.
- Time:** A time input field showing '13:58:31' and a 'Set' button.
- Network Time:** An unchecked checkbox for 'Enable auto adjustment'. Below it are two sections for time servers:
  - Preferred time server:** A dropdown menu set to 'AU | rtp1.cs.mtu.OZ.AU', an unchecked checkbox for 'Preferred custom server IP', and an IP input field with '0 . 0 . 0 . 0'.
  - Alternate time server:** A dropdown menu set to 'AU | rtp1.cs.mtu.OZ.AU', an unchecked checkbox for 'Alternate custom server IP', and an IP input field with '0 . 0 . 0 . 0'.
- Adjust time every:** A spinner set to '1' followed by the text 'days' and an 'Adjust Time Now' button.

At the bottom right of the window are 'OK' and 'Cancel' buttons.

このタブはブラウザでアクセスした時の同メニューと基本的に同じです。詳細は p.88 「日付/時刻」を参照してください。

## メンテナンス

このタブでは、管理者がファームウェアアップグレードやシステム設定・ユーザー情報のバックアップ・リストアを行うことができます。



このタブはブラウザでアクセスした時の同メニューと基本的に同じです。詳細は p.90 「メンテナンス」を参照してください。

## アプリケーション版 Java クライアント

---

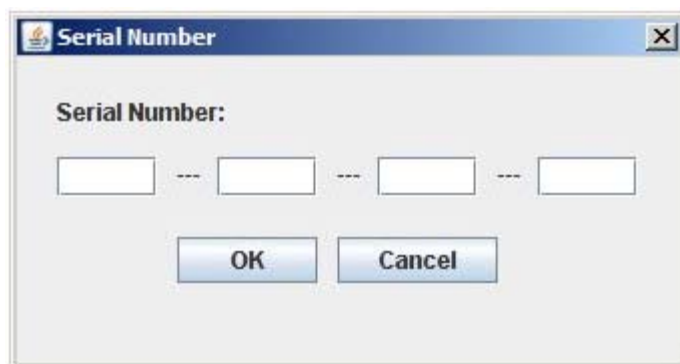
Java クライアントを使用することで、プラットフォームを問わず KN1000 へのアクセスが可能となります。KN1000 の Java クライアントは JRE 6 Update 3 以降のバージョンがインストールされているコンピューターでご利用いただけます。このバージョンの Java がインストールされていない場合は、Sun Java の Web サイトから無料で提供されておりますので、このサイトからダウンロードして、お使いのコンピューターにセットアップしてください(<http://www.java.sun.com>)。

### Java クライアントの起動

スタンドアロン版の Java クライアントで KN1000 に接続するには、まず、製品同梱のソフトウェア CD に収録されている Java クライアント (iClientJ.jar) をお使いのコンピューターのディスクの適当なところにコピーしてください。このファイルのアイコンをダブルクリックする、または、コマンドラインからファイルのフルパスを入力して実行すると、Java クライアントの接続画面が表示されます。

---

**注意:** この Java クライアントの初回起動時には、以下のようなシリアルナンバーの入力を促すダイアログが表示されます。



シリアルナンバーは KN1000 ソフトウェア CD に貼り付けられているラベルに記載されています。シリアルナンバーを各テキストボックスに 5 桁ずつ入力し、入力が終わったら「OK」ボタンをクリックして KN1000 接続画面を表示してください。

このダイアログボックスはスタンドアロン版 Java クライアントの初回起動時のみ表示されます。一度正しいシリアルナンバーを入力して頂ければ、次の起動時からはこの入力は不要です。

---

## Java クライアント接続画面



KN1000 に接続する場合は、下記の手順に従ってください。

1. 「IP」欄に KN1000 の IP アドレスを入力してください。
2. KN1000 との通信に使用するポート番号が、ダイアログに表示されているものと異なる場合は、「ポート」欄に正しいポート番号を入力してください。
3. 「ログイン」ボタンをクリックしてください。

## ログイン

KN1000 にログインすると、以下のログインダイアログが表示されます。



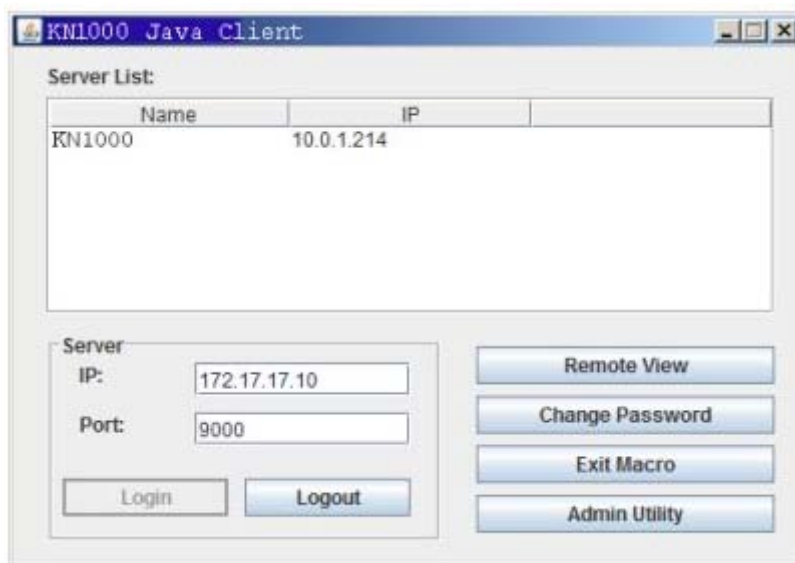
正しいユーザーネームとパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。

---

**注意:** KN1000 のデフォルトユーザーネームは「administrator」、デフォルトパスワードは「password」です。セキュリティの観点からも、このアカウントを変更することを強く推奨します(詳細は p.74 「ユーザー管理」参照)。

---

ログインに成功すると、ローカルサーバーのデスクトップがウィンドウメニューとしてお使いのモニターに表示されます。



このタブはブラウザでアクセスした時の同メニューと基本的に同じです。詳細は p.160 を参照してください。

また、ログイン後のアプリケーション版の Java クライアントの操作方法のアプリケーション版の Windows クライアントと基本的に同じです。詳細はアプリケーション版 Windows クライアントに関する説明を参照してください。

# 付録

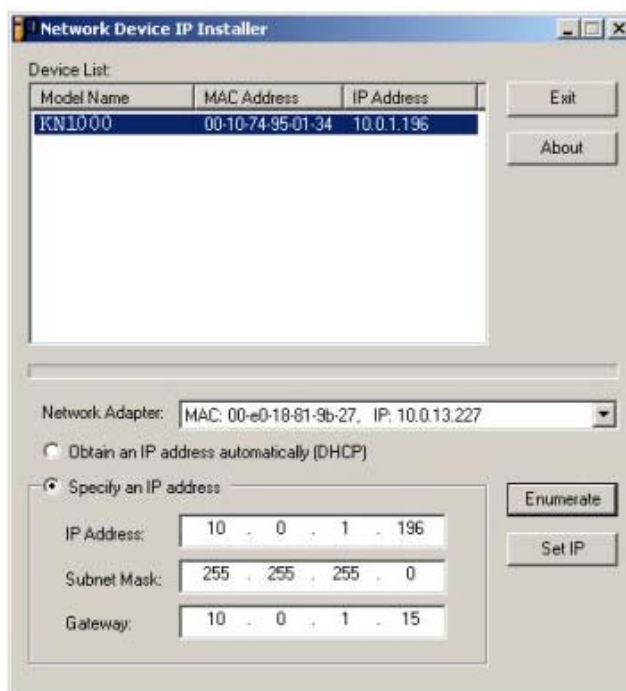
## IP アドレスの設定

アドミニストレーターとしてKN1000に最初にログインする場合は、他のユーザーが外部からアクセスできるようにKN1000にIPアドレスを設定する必要があります。IPアドレスの設定方法は全部で3つありますが、どの方法で設定する場合も、お使いのコンピューターがKN1000と同一セグメントにあることをご確認ください。KN1000に接続し、ログインが完了すると、KN1000に固定のIPアドレスを設定することができます(p.53「ネットワーク」参照)。

### IP インストーラーを使用して設定する場合

Windowsがインストールされているコンピューターであれば、製品同梱のソフトウェアCDに収録されているIPインストーラーというツールを使用してKN1000にIPアドレスを割り当てることができます。下記の手順に従って操作してください。

1. 製品同梱のソフトウェアCDでIPインストーラーが収録されているフォルダーに移動し、「IPInstaller.exe」を起動してください。このソフトウェアを起動すると下図のようなダイアログが表示されます。



2. IP アドレスを設定する KN1000 をダイアログ内の「Device List」から選択してください。

---

**注意:**

  1. 対象となる KN1000 が「Device List」に表示されない場合は、「Enumerate」ボタンをクリックして、このリストを再表示してください。
  2. リストに複数台の KN1000 が表示された場合は、製品の MAC アドレスでデバイスを判別してください。KN1000 の MAC アドレスは製品底面に貼られているラベルに記載されています。

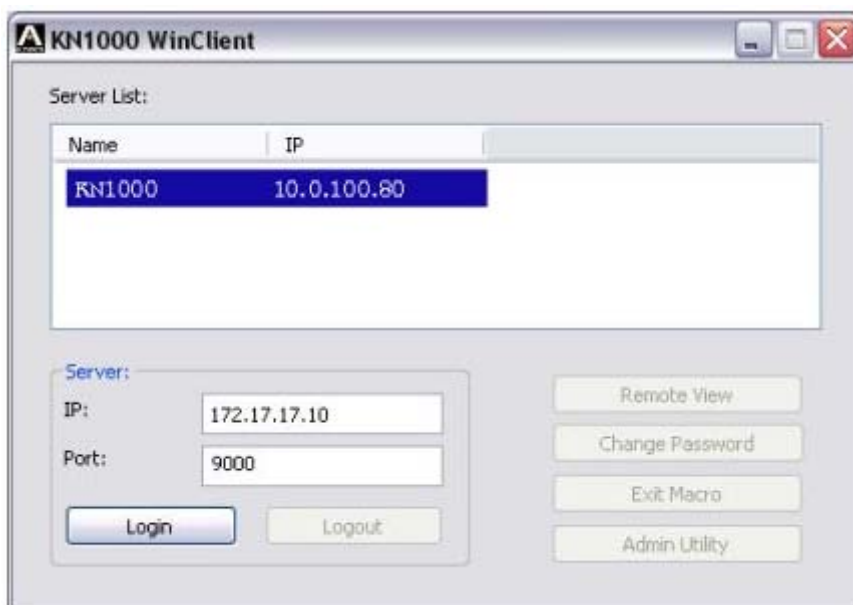
---
3. DHCPを使用する場合は、「IP アドレスを自動的に取得[DHCP]」を、固定 IP アドレスを設定する場合は、「Specify an IP address」を選択してください。固定 IP アドレスを設定する場合は、お使いのネットワーク環境で有効な IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを該当欄に入力してください。
4. 「Set IP」ボタンをクリックしてください。
5. 手順 4 で設定した KN1000 の IP アドレスが「Device List」に表示されたことを確認してから、「Exit」ボタンをクリックしてください。

## ブラウザを使用した設定方法

1. お使いのコンピューターの IP アドレスを「192.168.0.XXX」に設定してください。XXX の部分には 60 以外で 0～255 の間の任意の値を使用してください(192.168.0.60 は KN1000 のデフォルトの IP アドレスであるため)。
2. 手順 1 で設定を変更したコンピューターから、ブラウザで KN1000 のデフォルト IP アドレス (192.168.0.60) にアクセスしてください。
3. 現在 KN1000 がセットアップされているネットワーク環境で有効な IP アドレスを Web 画面で設定してください。
4. KN1000 からログアウトし、必要であれば、手順 1 で IP アドレスを変更したコンピューターの IP アドレスを元に戻しておいてください。

## アプリケーション版 Windows クライアントを使用した設定方法

Windows がインストールされているコンピューターであれば、アプリケーション版の Windows クライアントを使用して、KN1000 に IP アドレスを割り当てることができます (p.156 参照)。このアプリケーションを起動すると、同一ネットワークセグメント内に存在する KN1000 を検索し、下図のように検出したデバイスをリストに表示します。



ここで表示された IP アドレスで問題なければそのままお使いいただくこともできますし、「ログイン」ボタンをクリックしてログインした後で、「Admin Utility」ボタンをクリックし、そこで表示されるダイアログの「ネットワーク」タブメニューを使用して IP アドレスを設定することも可能です。詳細は p.53 「ネットワーク」を参照してください。

## IPv6

---

現在、KN1000 では IPv6 の「リンクローカルアドレス」と「ステートレスオートコンフィグレーション」の 2 種類に対応しています。

### リンクローカルアドレス

KN1000 に電源を入れると、自動的に IPv6 のリンクローカルアドレスが設定されます(例: fe80::210:74ff:fe61:1ef)。このリンクローカルアドレスの内容を確認する場合は、KN1000 に IPv4 のアドレスでログインし、「デバイス情報」アイコンをクリックしてください。アドレスが「デバイス情報」メニュー(p.52 参照)の下部に表示されます。

KN1000 の IPv6 アドレスの内容が確定すると、ブラウザや Windows、Java の各クライアントソフトウェアからログインする際にこのアドレスを使うことができます。

例えば、ブラウザからログインする場合には、URL バーにアドレスを次のように入力してください。

`http://[fe80::2001:74ff:fe6e:59%5]`

また、クライアントソフトウェアからログインする場合には、「サーバー」パネルの「IP」欄 (p.158 「Windows クライアント接続画面」参照) にアドレスを次のように入力してください。

`fe80::2001:74ff:fe6e:59%5`

- 
- 注意:**
1. IPv6 リンクローカルアドレスを使ってログインする場合には、クライアントコンピューターが KN1000 と同一ローカルネットワークセグメントにセットアップされている必要があります。
  2. 「%5」の部分は、クライアントコンピューターによって使用される「%インターフェース」です。クライアントコンピューターの IPv6 アドレスを確認する場合は、コマンドラインから下記のコマンドを実行してください。

`ipconfig/all`

「%」値は IPv6 アドレスの最後に現れます。

---

## ステートレスオートコンフィグレーション

KN1000 のネットワーク環境で、IPv6 ステートレスオートコンフィグレーション機能に対応したデバイス(例: ルーター)を使用している場合、KN1000 は IPv6 アドレスを生成するために、このデバイスからプレフィックス情報を取得することができます。例えば、「2001::74ff:fe6e:59」です。

先に述べたように、アドレスは「デバイス情報」メニューの下部に表示されます。

KN1000 の IPv6 アドレスの内容が確定すると、ブラウザや Windows、Java の各クライアントソフトウェアからログインする際にこのアドレスを使うことができます。

例えば、ブラウザからログインする場合には、URL バーにアドレスを次のように入力してください。

`http://[2001::74ff:fe6e:59]`

また、クライアントソフトウェアからログインする場合には、「サーバー」パネルの「IP」欄 (p.158 「Windows クライアント接続画面」参照) にアドレスを次のように入力してください。

`2001::74ff:fe6e:59`

## ポートの転送

---











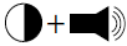





ルーターの内側に KN1000 がセットアップされている環境では、ポート転送によって、ルーターが特定のポートから特定のデバイスに対して送信されたデータを通信することができます。ポート転送に必要なパラメーターを設定することで、ルーターが特定のポートに送信されたデータをどのデバイスに転送するかを定義することが可能です。

例えば、ルーターに接続された KN1000 に「192.168.1.180」という IP アドレスが割り当てられている場合、ルーターのセットアッププログラムにログインし、ポートフォワーディング(またはバーチャルサーバー)の設定画面にアクセスし、そのプログラムで IP アドレスである「192.168.1.180」と開放するポートを定義します(例:インターネットアクセスの場合は 9000 番のポートを開放)。

ルーターのセットアップ方法はルーターの種類によって異なりますので、ポート転送の設定方法に関する詳細は、お使いのルーターのユーザーマニュアルを参照してください。

## キーボードエミュレーション

キーマッピングのエミュレーション機能により、PC 互換キーボードから Sun 及び Mac キーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表を参照してください。

| PC 互換キーボード  | Sun キーボード   | PC 互換キーボード  | Mac キーボード   |
|---|---|---|---|
| [Ctrl] [T]  | Stop  | [Shift]   | Shift   |
| [Ctrl] [F2]   | Again   | [Ctrl]  | Ctrl  |
| [Ctrl] [F3]   | Props   |            |    |
| [Ctrl] [F4]   | Undo  | [Ctrl] [1]  |    |
| [Ctrl] [F5]   | Front   | [Ctrl] [2]  |    |
| [Ctrl] [F6]   | Copy  | [Ctrl] [3]  |   |
| [Ctrl] [F7]   | Open  | [Ctrl] [4]  |  |
| [Ctrl] [F8]   | Paste   | [Alt]   | Alt   |
| [Ctrl] [F9]   | Find  | [Print Screen]  | F13   |
| [Ctrl] [F10]  | Cut   | [Scroll Lock]   | F14   |
| [Ctrl] [1]  |   |          | =   |
| [Ctrl] [2]  |    | [Enter]   | Return  |
| [Ctrl] [3]  |    | [Backspace]   | Delete  |
| [Ctrl] [4]  |    | [Insert]  | Help  |
| [Ctrl] [H]  | Help  | [Ctrl]  | F15   |
|  | Compose   |   |   |
|  |    |   |   |

---

**注意:** 入力の際は同時に押すのではなく、最初のキー([Ctrl]キー)を押してすぐに離し、その後アクティベーションキーを押してすぐに離してください。

---

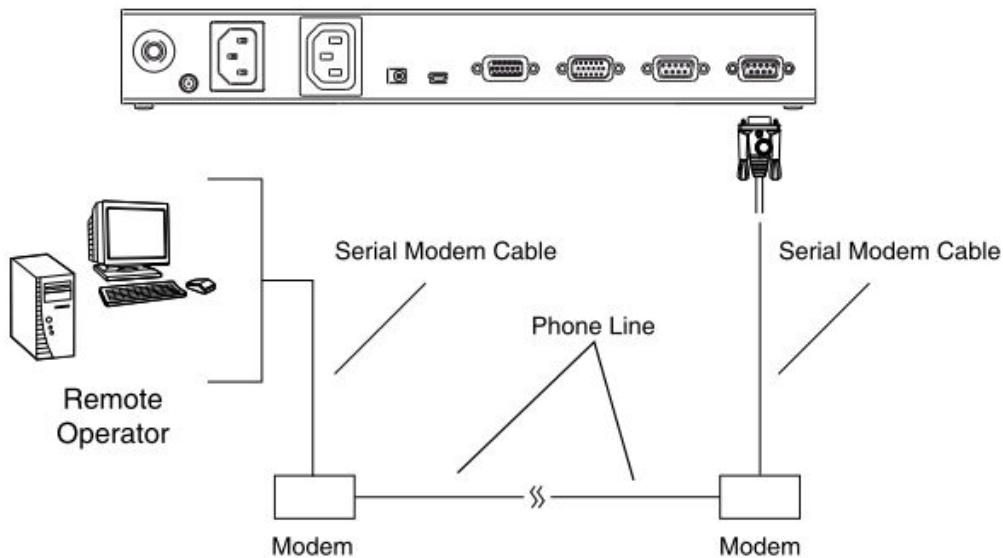
## PPP モデム操作

---

### 基本セットアップ

KN1000 では、ブラウザメニューや専用アプリケーションによる操作方法以外にも、PPP ダイアルイン接続を使用した RS-232 ポート経由でのアクセスも可能です。セットアップ方法は下記の通りです。

1. この通信に必要となるハードウェアを、下図の通りにセットアップしてください。



2. お使いのコンピューターから、モデムターミナルプログラムを使って KN1000 のモデムにダイアルイン接続してください。

---

**注意:**

1. KN1000 のシリアルパラメーターがご不明な場合は、KN1000 の管理者までお問い合わせください。
2. Windows XP が搭載されているコンピューターにおけるセットアップ例は次のページに記載されておりますので、そちらをご参照ください。

---

3. 接続が確立したら、ブラウザを起動し、URL バーに「**192.168.192.1**」と入力し、アクセスしてください。

これ以降の操作方法は、Webブラウザメニューまたはアプリケーション版クライアントの操作方法と同様ですので、そちらを参照してください。

## セットアップ例 (Windows XP のコンピューターを使用した場合)

Windows XP がインストールされているコンピューターから KN1000 に対してダイヤルイン接続を行う場合は、下記の手順で操作を行ってください。

1. [スタート]→[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]で、「新しい接続ウィザード」を起動してください。
2. 「新しい接続ウィザード」ダイアログが表示されますので、「次へ」ボタンをクリックしてください。
3. 「ネットワーク接続の種類」画面で、「職場のネットワークへ接続する」のラジオボタンを選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
4. 「ネットワーク接続」画面で、「ダイヤルアップ接続」のラジオボタンを選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
5. 「接続名」画面で、「会社名」の項目に任意の接続名 (例: TPE-KN1000-01) を入力し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
6. 「接続利用」画面で、用途に応じて、「このユーザーのみ」または「このコンピューターを使う全てのユーザー」を選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

---

**注意:** コンピューターに設定されているユーザーがほかにはいない場合は、このダイアログは表示されません。

---

7. 「ダイヤルする電話番号」画面で、KN1000 に接続されているモデムの電話番号を入力し、「次へ」ボタンをクリックしてください (モデムが国外にある場合は、その国番号を含んだ電話番号を入力してください)。
8. 「新しい接続ウィザードの完了」画面で、「この接続へのショートカットをデスクトップに追加する」の項目にチェックを入れて、「完了」ボタンをクリックしてください。

以上でセットアップは完了です。デスクトップ上に作成された KN1000 への PPP 接続のショートカットアイコンをダブルクリックしてお使いください。

---

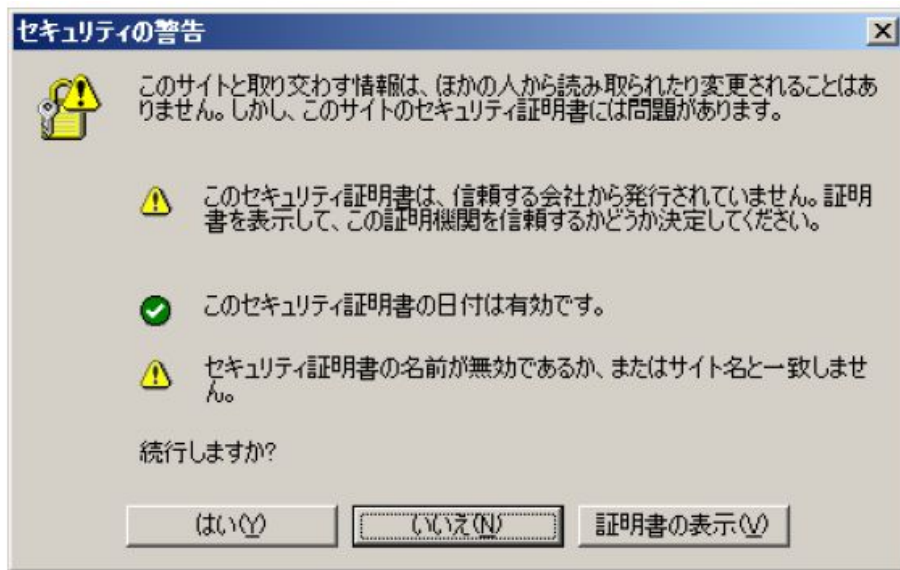
**注意:** 日本語版 Windows では、画面の表示順が本マニュアルの記載と異なる場合があります。ご了承ください。

---

# 信頼された証明書

## 概要

ブラウザ経由で KN1000 にログインすると、以下のようなセキュリティ警告ダイアログが表示され、デバイスの証明書が信頼できるものではないため、操作を続行するかどうかを問うメッセージが表示されます。



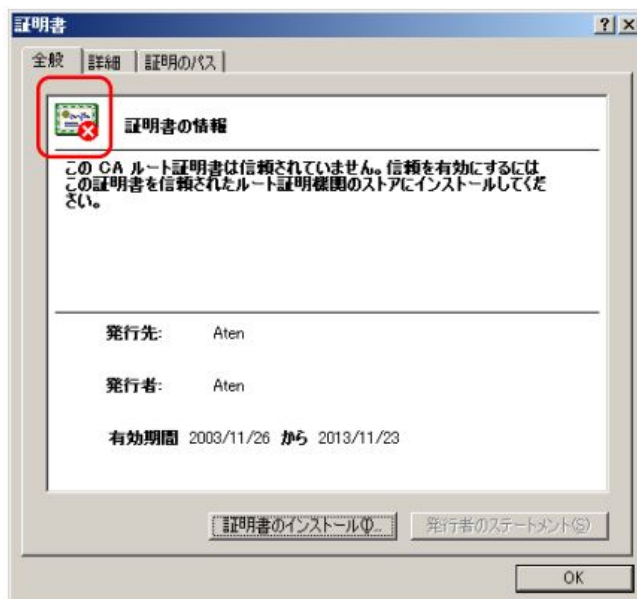
この証明書は信頼できるものですが、証明者の名前が Microsoft の信頼された認証局のリストに存在しないため、このようなダイアログが表示されます。このダイアログには以下のいずれかの方法で対応してください。

- 1) ダイアログの警告を受け入れず、「はい」ボタンを押して、処理を続行する。
  - 2) 証明書をインストールし、信頼できるものと認識させる。
- ◆ 別のユーザーのコンピューターから作業している場合は「はい」ボタンを押して、この証明書を現在のセッションのみ受け入れてください。
  - ◆ ご自身のコンピューターから作業している場合は、証明書をお使いのコンピューターにインストールしてください。証明書がインストールされると、信頼できる証明書として認識されます。方法の詳細は後述しますので、そちらを参照してください。

## 証明書のインストール

証明書のインストールは下記の手順に従ってください。

1. 「セキュリティの警告」ダイアログボックスで、「証明書の表示」ボタンをクリックします。これをクリックすると下図のような「証明書」ダイアログボックスが表示されます。



---

**注意:** 上図の赤い枠で囲まれている「×」の印は、この証明書は信頼できないと認識されていることを表しています。

---

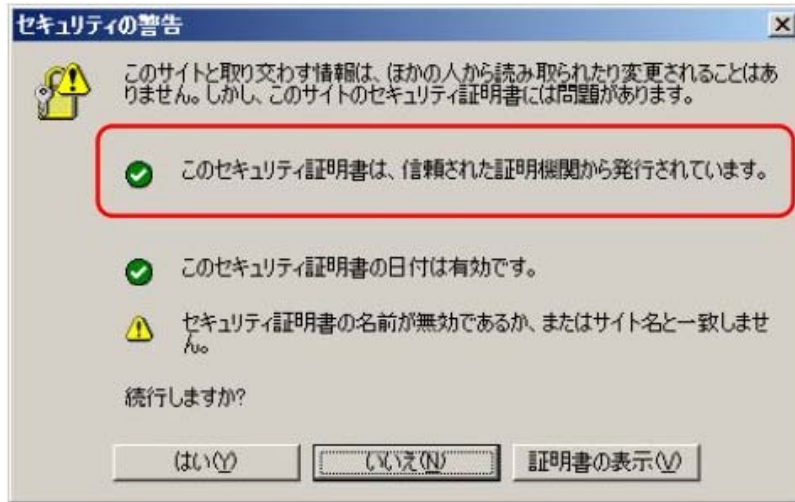
2. 「証明書のインストール」ボタンをクリックします。
3. インストールウィザードの指示に従って、インストールを進めていきます。特に不都合がない場合は、デフォルト値でインストールしてください。
4. 下図のような警告ダイアログが表示されたら、「はい」ボタンを押してください。



5. ダイアログから「完了」ボタンを押してインストール作業を完了させてください。「OK」ボタンを押すとダイアログが閉じられます。

## 証明書のインストール完了

この作業により、証明書は信頼できるものに変更されました。



「証明書の表示」ボタンをクリックすると、インストール前に見られた「×」の印が消え、証明書が信頼できるものであるというメッセージが表示されます。



## アドレス不整合に関する注意事項

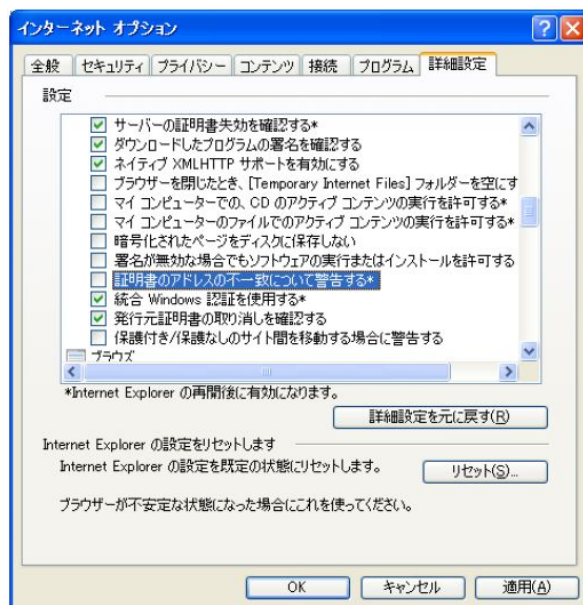
証明書の作成に使用されたサイト名や IP アドレスが現在の KN1000 のアドレスに一致しない場合、下図のような警告ダイアログが表示されます。



「Yes」ボタンをクリックして継続することもできますし、不整合のチェックを無効にすることもできます。

不整合のチェックを無効にする場合は、下記の手順に従ってください。

1. ログイン画面が表示されたら、Web ブラウザメニューで、[ツール]→[インターネットオプション]→[詳細設定]タブを選択してください。
2. リストの下部にスクロールして、「証明書のアドレスの不一致について警告する」の項目についているチェックを外してください。



3. 「OK」ボタンをクリックしてください。ここで変更された設定は、ブラウザの再開後に有効になります。

## 自己署名(プライベート)証明書

---

オリジナルの自己署名暗号鍵や証明書を作成したい場合は、フリーツール「openssl.exe」を Web サイト ([www.openssl.org](http://www.openssl.org)) からダウンロードすることができます。オリジナルのプライベートキーや証明書を作成する場合は、下記の手順に従ってください。

1. ダウンロードした openssl.exe を解凍したディレクトリに移動してください。
2. 以下のパラメーターを指定して openssl.exe を実行してください。

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf
```

- 
- 注意:**
1. 上記のコマンドは1行で入力してください。パラメーターの入力途中で[Enter]キーを押さないでください。
  2. 入力値にスペースが含まれている場合は、その値をダブルクォートで囲んでください(例: "ATEN International")。
- 

以下のパラメーターを使用して、作成時に入力するキーを少なくすることも可能です。

```
/C /ST /L /O /OU /CN /emailAddress.
```

### 例

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf -subj  
/C=yourcountry/ST=yourstateorprovince/L=yourlocationor  
city/O=yourorganization/OU=yourorganizationalunit/  
CN=yourcommonname/emailAddress=name@yourcompany.com  
  
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf -subj  
/C=CA/ST=BC/L=Richmond/O="ATEN International"/OU=ATEN  
/CN=ATEN/emailAddress=eservice@aten.com.tw
```

### ファイルのインポート

openssl.exe のプログラムが終了すると、このプログラムを実行したディレクトリに「CA.key」(プライベートキー)と「CA.cer」(自己署名済 SSL 証明書)という2つのファイルが作成されます。これらのファイルは、「セキュリティ」タブの「プライベート認証」メニュー (p.72 参照) でアップロードします。

## トラブルシューティング

### 一般的な操作

| 問題  | 解決方法   |
|---|--|
| 動作が不安定である。                                      | KN1000に接続されているKVMスイッチやコンピューターに電源を入れる前に、KN1000 自体に電源を入れる必要があります。<br><ol style="list-style-type: none"><li>KN1000 に KVM スイッチが接続されている場合は、まず KN1000 に電源を入れてください。</li><li>KN1000 に電源を入れる前に KVM スイッチに電源を入れてしまった場合は、その KVM スイッチをリセットまたは再起動してください。</li></ol> |
| IP アドレス及びポート番号を正しく設定したにもかかわらず、KN1000 にアクセスできない。 | お使いの KN1000 がルーターの内側にセットアップされている場合、ルーターのポート転送(またはバーチャルサーバー)の設定を行う必要があります。詳細は p.179 「ポートの転送」を参照してください。  |
| マウスポインターの表示で混乱する。                               | ローカルとリモートの2つのマウスポインターが表示されて操作の上でわかりにくい場合は、マウス表示切替機能を使用して非アクティブなマウスポインターを最小化することができます。詳細は p.102 を参照してください。  |
| マウスの動作が極端に遅い。                                   | 転送されるデータ量が多いため、マウスの表示が動作に追いつかないことが考えられます。ビデオの設定を調節し、ビデオ転送に使用されるデータを減らしてください (p.111 「ビデオ設定」参照)。   |
| マウスの同期モードを「手動」に変更すると、KN1000 がクラッシュする。           | KN1000 はクラッシュしていません。5 分程待機すると、通常の操作に戻ります。すぐに再開させたい場合は、KN1000 をリセットしてください (p.26 「ファームウェアアップグレード/リセットスイッチ」参照)。   |

(表は次のページに続きます。)

| 問題   | 解決方法  |
|--|---|
| <p>「Power Management」アイコンをクリックしてもPN9108にアクセスできない。</p>  | <p>PN9108はOver-IP対応製品ですので、KN1000を接続しなくてもリモートアクセスが可能です。KN1000にはOver-IPに対応していない製品(例:PN0108)を接続してお使いください。</p>  |
| <p>Webブラウザのセッションで設定を変更している時にタイムアウトになると、その時に設定していた内容が破棄されている。</p>   | <p>KN1000側ではユーザーが作業していることを把握していないため、「適用」ボタンをクリックしないとタイムアウトになります。「適用」ボタンをクリックしない限り、変更内容は反映されません。設定内容をKN1000に保存する場合は「適用」ボタンをクリックし、タイムアウトカウンターをリセットしてください。</p> |
| <p>Firefoxを使ってログインすると、リモートコンソールディスプレイにWindowsクライアントと起動用のリンクが表示されない。</p>  | <p>Windowsクライアントをご利用いただくには専用のActive Xコントロールをインストールすることが必須条件です。FirefoxはActive Xに対応していませんので、Javaクライアントビューワーをお使いください。</p>                                      |
| <p>Fedoraがインストールされているリモートサーバーにアクセスすると、アクセスしているのがリモートコンソールからであっても、また、ローカルクライアントコンピューターからであっても、リモートサーバー側のマウスが動かなくなる。</p> | <p>リモートサーバーがPS/2ケーブルで接続されている場合、ブラウザからKN1000にログインした後でビューワーを起動して、コントロールパネルでマウス同期機能を「手動」に設定してください。詳細はp.126を参照してください。</p>                                       |

## Windows

| 問題   | 解決方法   |
|--|--|
| <p>ログインすると、ブラウザからCAルート証明書が信頼できないという内容のメッセージが表示されたり、証明書エラーの応答が返ってきたりする。</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. これは証明書の名前が Microsoft の信頼された認証局のリストに存在しないことに起因します。この証明書は信頼できるものですので、受け入れても問題ありません。詳細は p.184 「信頼された証明書」を参照してください。</li> <li>2. 認証局 (CA) として知られる、信頼されたサードパーティーによって発行された証明書をインポートすることで、このメッセージは表示されなくなります (p.72 「CA 署名済 SSL サーバー証明書の取得」参照)。</li> </ol>  |
| <p>証明書をインポートしても、ログインサイトに関する警告メッセージが依然として表示される。</p>                         | <p>証明書セキュリティチェック機能によって、証明書のアドレスの不一致が検出されたことに起因しますが、この証明書は信頼できるものです。Web サイトで「続行する」をクリックして操作を進める(推奨しません)か、不整合のチェック機能を無効にすることができます。この操作に関する詳細は p.187 「アドレス不整合に関する注意事項」を参照してください。</p>  |
| <p>リモートとローカルのマウスポインターが同期していない。</p>   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「マウス同期モード」の設定内容を確認してください (p.126 参照)。もし、自動設定するようになっている場合は、手動設定にしてください。</li> <li>2. 手動設定になっている場合は、「自動同期」機能 (p.111 「ビデオ設定」参照) を使ってローカルとリモートのモニターの同期を取ってください。</li> <li>3. 上記の方法で解決しない場合、「マウス調整」ホットキー (p.102 参照) を使用してください。</li> <li>4. 上記いずれの方法でも解決できない場合は p.196 「その他のマウス同期方法」を参考に設定を行ってください。</li> </ol> |
| <p>リモートモニターでローカルディスプレイの一部分しか表示されない。</p>                                    | <p>「自動同期」機能 (p.111 「ビデオ設定」参照) を使ってローカルとリモートのモニターの同期を取ってください。</p>   |

(表は次のページに続きます。)

| 問題   | 解決方法  |
|--|---|
| <p>バーチャルメディア機能が使用できない。</p>   | <p>KN1000 に古いコンピューターを接続してお使いの際にこの現象が見られる場合があります。この場合は最新のファームウェアをダウンロードし、お使いの KN1000 に適用してください。</p>  |
| <p>バーチャルメディアのメニューで ISO ファイルのマウントはできるが、この ISO ファイルにアクセスできない。</p>                    | <p>Windows クライアントのバーチャルメディアに対応している ISO ファイルは、4GB 未満となります。ISO ファイルが 4GB を超える場合にはアクセスができませんので、ご注意ください。</p>  |
| <p>ブラウザで KN1000 にアクセスし、Windows クライアントビューワーを開いた後、アンチウイルスソフトがトロイの木馬に感染していると報告する。</p> | <p>Windows クライアントビューワーは Active X プラグイン (windows.ocx) を使用しており、アンチウイルスソフトの中にはこれをウイルスまたはトロイの木馬に感染していると誤認するものがあります。弊社はファームウェアを広範囲にわたって検査し、ウイルスやトロイの木馬に感染していないことがわかっています。プラグインをご使用のアンチウイルスプログラムの安全リストに追加してビューアーを安全に使用してください。しかしそれでも Windows クライアントビューアーを使用するのをためらってしまう場合は、代わりに Java クライアントビューアーをご使用ください。</p> |

## Java

マウス同期に関する問題については p.101 「マクロ」、p.126 「マウス同期モード」、p.198 「Sun/Linux」の内容を参照してください。その他の問題については下表を参照してください。

| 問題   | 解決方法   |
|--|--|
| Java クライアントビューワーが KN1000 に接続できない。                            | <ol style="list-style-type: none"><li>1. Java 6 Update 3 以上がお使いのコンピューターにインストールされている必要があります。</li><li>2. KN1000 の IP アドレスを指定する際、ページ名(ログイン文字列)が含まれているか確認してください。</li><li>3. Java クライアントビューワーを一度終了させて、もう一度実行してみてください。</li></ol> |
| 最新の JRE をインストールしたにもかかわらず、パフォーマンスが悪い。                         | 本製品の Java クライアントビューワーの開発以降にリリースされたバージョンの Java をお使いの場合、Java 側の新しい機能に対応していない等の理由でパフォーマンスが悪いことが考えられます。最新版よりも 1~2 つほど古いバージョンの JRE をインストールして Java クライアントビューワーを実行してみてください。   |
| Java クライアントビューワーのパフォーマンスが悪い。                                 | プログラムを一度終了させて、もう一度実行してみてください。  |
| 英語以外の言語の文字が表示されない。   | KN1000 のオンスクリーンキーボードをリモートキーボードと同じキーボード言語に設定してください(p.124 「オンスクリーンキーボード」参照)。   |
| ログインすると、ブラウザで「ルート認証局が発行した電子証明書は信頼できません」というメッセージや認証エラーが返ってくる。 | Microsoft の信頼された認証局のリストに認証名が登録されていない可能性があります。この証明書は信頼できるものです。詳細は p.184 「信頼された証明書」をご覧ください。  |
| バーチャルメディアのアイコンがコントロールパネルに表示されない。                             | バーチャルメディア機能は Windows クライアントのみに対応しております。ご了承ください。  |

## Sun

| 問題   | 解決方法  |
|--|---|
| <p>D-sub15 ピンのコネクタを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する（例：Sun Blade 1000 Server）。</p>   | <p>ディスプレイの解像度を 1,024×768@60Hz に設定する必要があります。</p> <p>テキストモードの場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「OK mode」を起動して下記コマンドを入力してください。<br/> <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre> <pre>reset-all</pre> </li> </ol> <p>XWindow の場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンソールを開き、下記コマンドを入力してください。<br/> <pre>m64config -res 1024x768x60</pre> </li> <li>2. ログアウトしてください。</li> <li>3. ログインしてください。</li> </ol>   |
| <p>13W3 インターフェースシステムを使用するとビデオ表示の問題が発生する。（例：Sun Ultra Server）<br/>*</p> | <p>ディスプレイの解像度を 1,024×768@60Hz に設定する必要があります。</p> <p>テキストモードの場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「OK mode」を起動して下記のコマンドを入力してください。<br/> <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre> <pre>reset-all</pre> </li> </ol> <p>XWindow の場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンソールを開いて下記のコマンドを入力してください。<br/> <pre>M64ocnfig -res 1024x768x60</pre> </li> <li>2. ログアウトしてください。</li> <li>3. ログインしてください。</li> </ol> |
| <p>ローカルとリモートのマウスポインターが同期しない。</p>                                       | <p>リモートサーバーに接続すると、ローカルとリモートのマウスポインターは自動的に同期しますが、これは Windows または Mac(G4以降)で USB マウスを使用した時にのみ限ります。この場合は、「マウス同期モード」で「手動」を選択し、ポインターを手動で同期させてください。詳細は p.126 「マウス同期モード」を参照してください。</p>   |

\* Sun VGA カードに関するトラブルの多くは、上記の方法で解決することが可能です。上記の手順で対応しても解決しない場合は、Sun VGA カードのマニュアルをご確認ください。

## Mac

| 問題  | 解決方法  |
|---|---|
| ローカルとリモートのマウスのポインターが同期しない。                        | Mac の場合、「カスタマイズ」メニューの「USB I/O 設定」で「Mac」を設定してください。この内容に設定しても同期しない場合は、設定内容を変更してみてください。  |
| Safari から KN1000 にログインしてスナップショット機能を利用すると、応答なしになる。 | Safari を強制終了した後で、再起動し、スナップショット機能を使用しないようにしてください。<br>Safari でアクセスしてスナップショット機能を使用したい場合は、Mac OS は 10.4.11 に、Safari は 3.0.4 にそれぞれアップグレードしてください。 |

## ログサーバー

| 問題                 | 解決方法   |
|--------------------|--|
| ログサーバープログラムが起動しない。 | ログサーバーはデータベースにアクセスするのに Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバーが必要です。<br>このドライバーは Windows ME、2000、XP には自動的にインストールされています。<br>Windows 98 または NT の場合、Microsoft のダウンロードサイト（ <a href="http://www.microsoft.com/data/download.htm">http://www.microsoft.com/data/download.htm</a> ）から「MDAC 2.7 RTM Refresh (2.70.9001.0)」ドライバーファイルをダウンロードしてください。<br>このドライバーは Windows Office Suite に使用されるので、Windows Office Suite をインストールしてもこのドライバーを入手することができます。ドライバーファイルまたは Windows Office Suite がインストールされると、ログサーバーが動作するようになります。 |

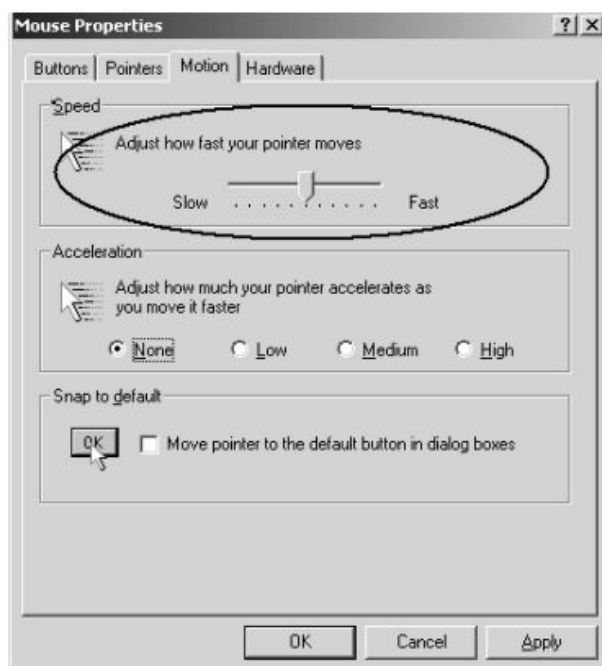
## その他のマウス同期方法

本マニュアルに記載されているマウスの同期の設定を適用したにもかかわらず、お使いのコンピュータでマウスポインターの問題が解決しない場合は、下記の設定を行ってください。

### Windows

**注意:** ローカル及びリモートのマウスを同期させる場合は、Microsoft の OS に付属されているマウスドライバーを使用する必要がありますので、マウスに付属されているドライバー等サードパーティーのドライバーを使用している場合は、これを削除しなければなりません。

1. Windows 2000 がインストールされているコンピュータをお使いの場合は、下記の手順で設定を行ってください。
  - a) 「マウスのプロパティ」ダイアログを表示してください ([コントロールパネル]→[マウス]→[マウスのプロパティ])。
  - b) 「マウスのプロパティ」ダイアログから、「動作」タブを開いてください。
  - c) マウスの速度のスライダーを中間に移動させてください。
  - d) 「ポインターの加速」で、「いいえ」のラジオボタンを選択してください。



2. Windows XP または Windows Server 2003 がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、以下の手順で設定を行ってください。
  - a) 「マウスのプロパティ」ダイアログを表示してください([コントロールパネル]→[マウス]→[マウスのプロパティ])。
  - b) 「マウスのプロパティ」ダイアログから、「ポインターオプション」タブを開いてください。
  - c) マウスの速度のスライダーを中間に移動させてください。
  - d) 「ポインターの精度を高める」の項目からチェックを外して、この機能を無効にしてください。



3. Windows ME がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、マウスの速度を中間に設定し、マウスの加速機能を無効にしてください(この設定を行う場合は、ダイアログから「詳細...」ボタンをクリックする必要があります)。
4. Windows NT、Windows 98 または Windows 95 がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、マウスの速度を中間に設定してください。

## Sun/Linux

ターミナルセッションを開き、以下のコマンドを実行してください。

Sun の場合: `xset m 1`

Linux の場合: `xset m 0`

または、`xset m 1`

(片方が動作しない場合、別のを試してください。)

## 対応 KVM スイッチ

KN1000 にはアナログ KVM スイッチを接続してお使いいただけます。対応 KVM スイッチの型番は下記の通りです。

|           |         |         |         |        |
|-----------|---------|---------|---------|--------|
| ACS-1208A | CS1708A | CS-228  | CS-9138 | KH2508 |
| ACS-1216A | CS1716A | CS-428  | KH0116  | KH2516 |
| CS1308    | CS-1754 | CS-88A  | KH1508  |        |
| CS1316    | CS-1758 | CS-9134 | KH1516  |        |

- 注意:**
1. 接続された KVM スイッチの機種によっては、KN1000 の機能の一部が制限される場合があります(例:接続した KVM スイッチがバーチャルメディアに対応していない場合)。
  2. 同様に、KN1000 と接続することにより、この KVM スイッチの機能の一部が制限される場合もあります(例:CS-1754 のオーディオ機能や CS1708A/CS1706A の PS/2 コネクター)。

## 対応バーチャルメディア

---

### Windows クライアント (Web ブラウザ版、アプリケーション版共通)

- ◆ IDE CD-ROM/DVD-ROMドライブ - 読取専用
- ◆ IDE ハードディスクドライブ - 読取専用
- ◆ USB CD-ROM/DVD-ROMドライブ - 読取専用
- ◆ USB ハードディスクドライブ - 読込/書込対応\*
- ◆ USB フロッピードライブ - 読込/書込対応\*

---

\* これらのドライブは、ドライブとリムーバブルディスクのどちらの方法でもマウントすることができます (p.118 「バーチャルメディア」参照)。リムーバブルディスクとしてマウントした場合、そのディスクにブート可能な OS が含まれていれば、そこからリモートサーバーをブートすることができます。更に、そのディスクが複数のパーティションに分かれている場合は、リモートサーバーは全てのパーティションにアクセスすることもできます。

---

- ◆ ISO ファイル - 読取専用
- ◆ フォルダー - 読込/書込対応
- ◆ スマートカードリーダー

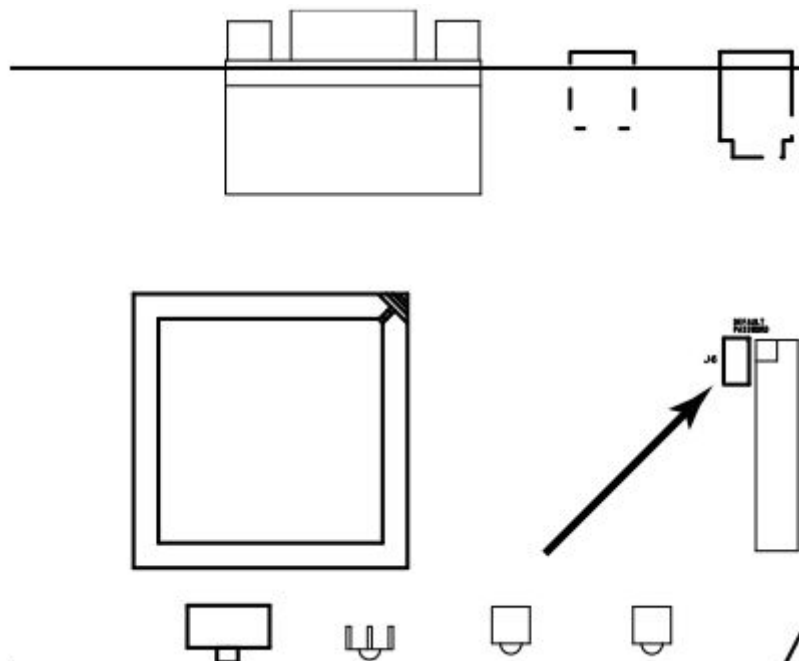
### Java クライアント (Web ブラウザ版、アプリケーション版共通)

- ◆ ISO ファイル - 読取専用
- ◆ フォルダー - 読込/書込対応

## アドミニストレーターでログインできない場合

ユーザーネームやパスワードを忘れた等の理由でアドミニストレーターとしてログインできない場合、以下の手順でログイン情報を消去してください。

1. KN1000 の電源を切り、電源コードをコンセントから外してからケースを外してください。
2. ジャンパーキャップを使って、メインボード上にある「J6」と書かれているジャンパーをショートさせてください。



3. KN1000 に電源を入れてください。
4. フロントパネル LED が点滅したら、KN1000 の電源を切ってください。
5. J6 からジャンパーキャップを外してください。
6. 手順 1 で外したケースを元通りに取り付け、KN1000 に電源を入れてください。

電源を入れなおすと、デフォルトのユーザーネームとパスワード(p.37 及び p.159 参照)でログインできるようになります。

## 製品仕様

| 機能                          |            | KN1000                                |
|-----------------------------|------------|---------------------------------------|
| リモートコンピューター推奨システム           |            | Pentium III 1GHz 以上                   |
| コンピューター接続数                  | ダイレクト接続    | 1                                     |
|                             | 最大         | 接続する KVM スイッチに依存                      |
| コンソール接続数                    |            | 1                                     |
| コンピューター・KVM 側<br>対応インターフェース | キーボード      | PS/2、USB                              |
|                             | マウス        |                                       |
| コンソール側<br>対応インターフェース        | キーボード      | PS/2、USB                              |
|                             | マウス        |                                       |
| コンピューター側<br>コネクタ            | キーボード      | SPHD メス×1                             |
|                             | マウス        |                                       |
|                             | モニター       |                                       |
| コンソール側コネクタ                  | キーボード      | SPHD オス×1                             |
|                             | マウス        |                                       |
|                             | モニター       |                                       |
| スイッチ                        | リセット       | ピンホール型スイッチ×1                          |
| LAN ポート                     |            | RJ-45×1                               |
| PON (RS-232) ポート            |            | DB-9 ピンオス×1                           |
| モデム (RS-232) ポート            |            | DB-9 ピンオス×1                           |
| 電源インレット                     |            | IEC320 C14×1<br>(NEMA 5-15P 電源ケーブル同梱) |
| 電源アウトレット                    |            | IEC320 C13×1<br>(NEMA 5-15R 変換ケーブル同梱) |
| バーチャルメディアポート                |            | USB ミニ B タイプメス×1                      |
| 電源ジャック                      |            | DC 電源ジャック×1                           |
| LED                         | 電源         | オレンジ×1                                |
|                             | 電源アウトレット   | オレンジ×1                                |
|                             | リンク        | グリーン×1                                |
|                             | 10/100Mbps | グリーン/オレンジ×1                           |
| キーボード・マウスエミュレーション           |            | PS/2、USB                              |

(表は次のページに続きます。)

| 機能         |      | KN1000  |
|------------|------|---|
| 対応プロトコル    |      | 10BaseT/100BaseTX、TCP/IP 準拠   |
| 電源仕様       | 入力   | AC 100V～240V 50Hz/60Hz (同梱電源ケーブルは<br>100V 仕様)<br><br>同梱電源アダプター 型番:0AD8-0605-24EG<br>入力:AC100V～240V 50～60Hz<br>出力:DC5.3V 2.4A  |
|            | 出力   | AC 100V～240V 50Hz/60Hz (同梱変換ケーブルは<br>100V 仕様)   |
| 消費電力       |      | 6.3W  |
| 解像度        |      | 最大 1,600×1,200@60Hz DDC2B 準拠  |
| 動作環境       | 動作温度 | 0～40℃   |
|            | 保管温度 | -20～60℃   |
|            | 湿度   | 0～80%RH 結露なきこと  |
| ケース材料      |      | メタル   |
| 重量         |      | 860g  |
| サイズ(W×D×H) |      | 308×81×42mm   |
| 同梱品        |      | 2L-5201P(1.2m)×1<br>2L-5201U(1.2m)×1<br>コンソールケーブル×1<br>USB2.0 バーチャルメディアケーブル×1<br>ソフトウェア CD×1<br>電源アダプター×1<br>アウトレット電源ケーブル×1<br>NEMA 5-15R 変換ケーブル×1<br>ラックマウントキット×1<br>クイックスタートガイド×1 |

(表は次のページに続きます。)

| 機能          | KN1000   |
|-------------|--|
| 対応 KVM スイッチ | ACS-1208A<br>ACS-1216A<br>CS1308<br>CS1316<br>CS1708A<br>CS1716A<br>CS-1754<br>CS-1758<br>CS-9134<br>CS-9138<br>KH2508A<br>KH2516A<br>KH1508A<br>KH1516A |

## SPHD コネクタについて

---



本製品はKVMポート、またはコンソールポートに対してSPHDコネクタを使用しております。コネクタの形状に改良を加えておりますので、専用のKVMケーブルのみ製品に接続することが可能です。

